

令和7年度

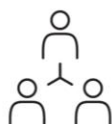
全国学力・学習状況調査及び  
福岡県学力・学習状況調査

調査結果報告書

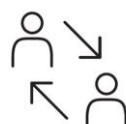
創造 連携 発信



他者と協働し、  
新たな価値を生み出す



互いのよさを  
発揮する



双方向の交流を  
促進する



令和7年12月  
福岡県教育委員会



ふくおか教育月間イメージキャラクター「ミライル」  
これからの社会をはばたく子供たちの「翼」をイメージした妖精です

## はじめに

今、急激に変化する時代の中で、学校教育には、一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるよう、その資質・能力を育成することが求められています。

学校では、全ての児童生徒が安全で安心して楽しく通える魅力ある環境づくりを行うことを前提とし、児童生徒の発達や学習を取り巻く個別の教育的ニーズを把握し、集団活動を生かして、一人一人の可能性を伸ばしていく指導・支援を充実させることが課題となっています。

全国学力・学習状況調査は、一人一人の児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てるとともに、検証改善サイクルの確立を目的に行われています。また、福岡県では福岡県学力・学習状況調査を行うことで、小学校5年生から中学校3年生までの一人一人の学習状況等を追跡把握し、切れ目のない指導・支援に役立てることも目的としています。

福岡県教育委員会としては、知識及び技能や思考力、判断力、表現力等を育成する取組だけでなく、それらをよりよく働かせるための粘り強く挑む力、自己有用感や自己効力感、他者と協働する力などの学びに向かう力、人間性等のいわゆる非認知的能力を育成する取組も大事にしています。

このような中、本報告書では、調査結果の分析に加え、資質・能力のバランスのよい育成が図られている学校の取組等を紹介しています。各学校の実態に照らして御活用いただき、児童生徒の資質・能力の育成につなげていただきますようお願いします。

### < Society 5.0の時代を生きる子供たちに求められる力 >

- 文章の意味を**正確に理解する読解力**
  - 教科等固有の見方・考え方を働かせて**自分で考えて表現する力**
  - 対話や協働を通じて知識やアイデアを共有し**新しい解や納得解を生み出す力**
  - 豊かな情操や規範意識、自他の生命の尊重、自己肯定感・自己有用感、他者への思いやり**
  - 対話でのコミュニケーションを通じて**人間関係を築く力**
  - 困難を乗り越え、ものごとを**成し遂げる力** ○**公共の精神** ○体力の向上 ○健康の確保
- 『「令和の日本型学校教育」の構築を目指して』令和3年1月中央教育審議会 参考

### 本 県 が 育 成 を 目 指 す 資 質 ・ 能 力

○知 識 及 び 技 能

○思 考 力、判 断 力、表 現 力 等

○学 び に 向 か う 力

- 学 び を 調 整 す る 力：学 習 方 略・メ タ 認 知 等
- 粘 り 強 く 挑 む 力：自 主 性・自 制 心・勤 勉 性・忍 耐 性・持 続 性 等

○人 間 性 等

- 自 己 有 用 感・自 己 効 力 感
- 協 働 す る 力：共 感 性・協 調 性・貢 献 性 等

### < 本報告書の読み方「これだけは」 >

市町村(学校組合)教育委員会、 学校管理職、主幹教諭	次年度の経営ビジョン作成・改善のために、育成を目指す資質・能力のイメージや学校経営の例、成果をあげている学校の取組例を参照すること
研究主任、 学力向上コーディネーター等	次年度の経営ビジョン作成・改善のためのデータを提供するために、調査結果の概要や分析方法、クロス分析の結果を参照すること
学級担任、教科担任等	自校の取組の改善や効果を向上させるために、成果をあげている学校の取組例を参照すること

○ 本報告書の活用に向けて

ページ

I	<a href="#">本県が育成を目指す資質・能力</a>	1～2
---	--------------------------------	-----

## 令和7年度全国学力・学習状況調査

II	<a href="#">調査の概要</a>	1～3
----	-----------------------	-----

III	<a href="#">調査結果の概要</a>	1～12
-----	-------------------------	------

IV	<a href="#">各教科の調査結果</a>	1～12
----	--------------------------	------

V	<a href="#">質問調査に関する調査結果</a>	1～13
---	------------------------------	------

VI	<a href="#">クロス分析</a>	1～8
----	-----------------------	-----

VII	<a href="#">令和7年度福岡県学力・学習状況調査</a>	1～24
-----	-----------------------------------	------

VIII	<a href="#">資質・能力の育成に成果を上げている 学校の事例紹介</a>	1～13
------	---	------

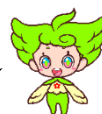
IX	<a href="#">結果返却の早期化に伴う工夫事例</a>	1～2
----	---------------------------------	-----

X	<a href="#">まとめと今後の取組</a>	1～4
---	---------------------------	-----

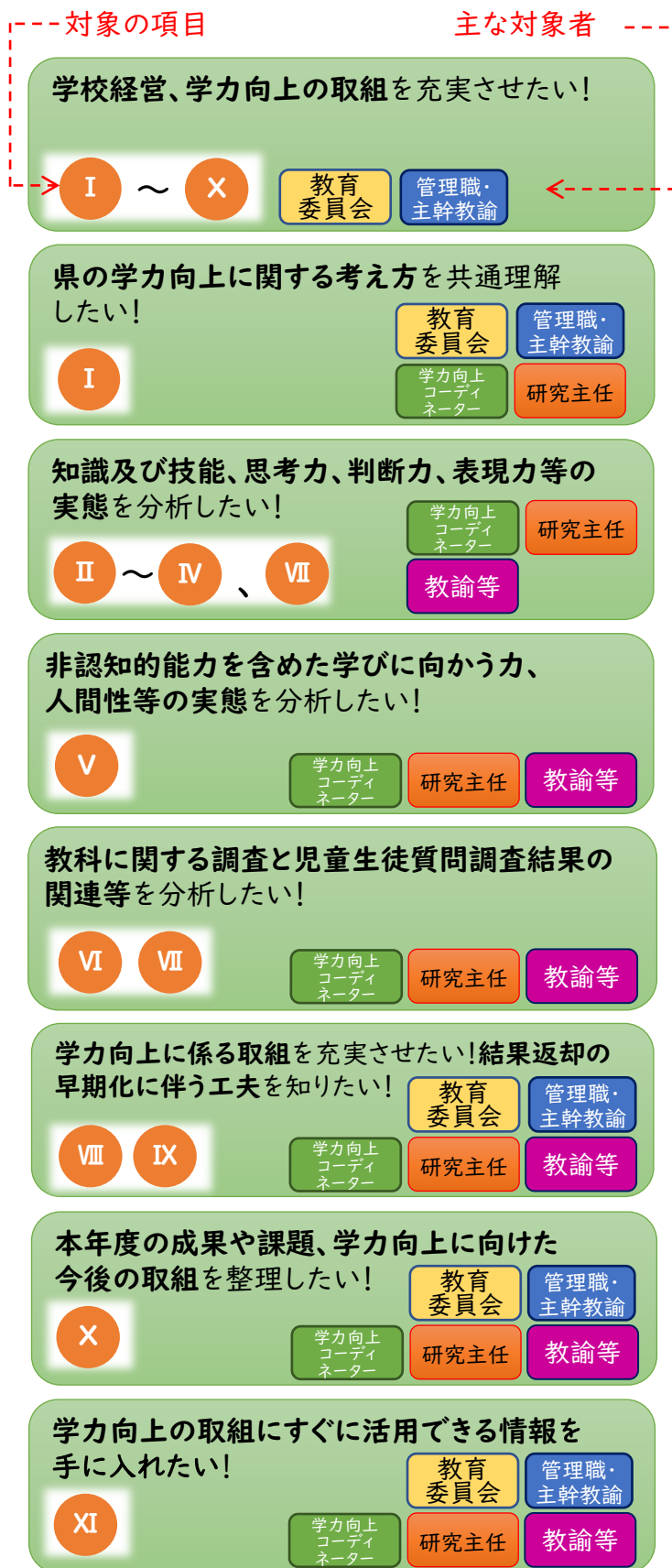
XI	<a href="#">資料集</a>	1～4
----	---------------------	-----

# 本報告書の活用に向けて

報告書を読む人のそれぞれの立場等によって、下の図を参考に、すべての項目を読んで全体の内容をつかんだり、必要な項目を重点的に読んだりしてください。



項目	
I	本県が育成を目指す資質・能力
令和7年度全国学力・学習状況調査	
II	調査の概要
III	調査結果の概要
IV	各教科の調査項目
V	質問調査に関する調査結果
VI	クロス分析
VII	令和7年度福岡県学力・学習状況調査
VIII	資質・能力の育成に成果を上げている学校の事例紹介
IX	結果返却の早期化に伴う工夫事例
X	まとめと今後の取組
XI	資料集



# I 本県が育成を目指す資質・能力

## 1 資質・能力の三つの柱について

本県においては、市町村教育委員会、各学校等の地道な取組により、本県の全国学力・学習状況調査の結果は、ここ数年、小・中学校ともに全国平均水準を堅調に維持しており、一定の成果を実感できるようになった。

ここで、改めて資質・能力の三つの柱に着目すると、全国学力・学習状況調査における教科に関する調査で把握できている力は、「知識及び技能」や「思考力、判断力、表現力等」が主であることが分かる。

文部科学省は、「資質・能力の三つの柱のうち、「学びに向かう力、人間性等」は児童生徒が「どのように社会や世界と関わり、よりよい人生を送るか」に関わる資質・能力であり、他の二つの柱をどのような方向性で働かせていくかを決定付ける重要な要素である。」としている。

本県においてここ数年、小・中学校ともに全国平均水準を堅調に維持している「知識及び技能」や「思考力、判断力、表現力等」を、児童生徒がどのような方向性で働かせ、よりよい生活を送るかを考えた際に、「学びに向かう力、人間性等」を含めた資質・能力の三つの柱をバランスよく育成することが重要となる。

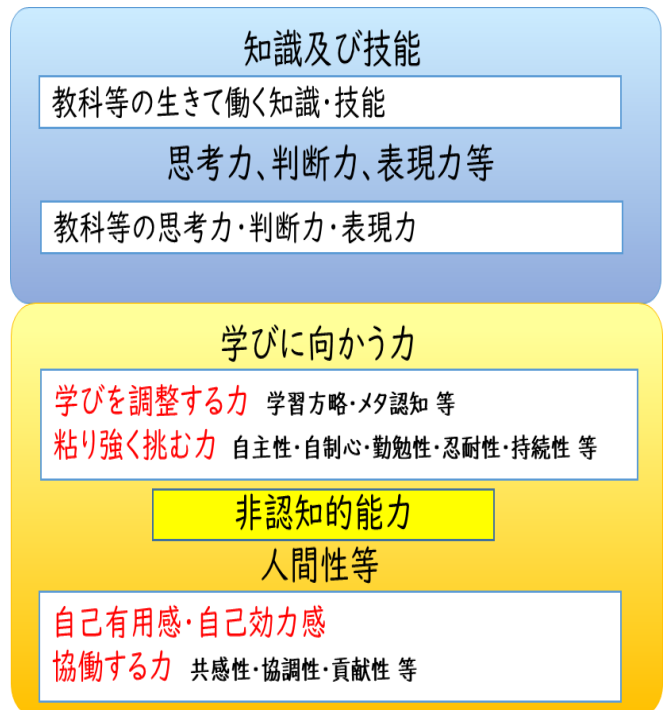
一方で、「学びに向かう力、人間性等」は、「知識及び技能」や「思考力、判断力、表現力等」と比べ、いわゆる非認知的要素を多く含んでいることから、その能力を把握することが困難であるといった側面もある。

## 2 育成を目指す資質・能力のイメージ

文部科学省は、「学びに向かう力、人間性等」の具体として、主体的に学習に取り組む態度も含めた学びに向かう力や、自己の感情や行動を統制する力、よりよい生活や人間関係を自主的に形成する態度、自分の思考や行動を客観的に把握し認識するメタ認知、多様性を尊重する態度や互いのよさを生かして協働する力、持続可能な社会づくりに向けた態度、リーダーシップやチームワーク、感性、優しさや思いやりなどの人間性等を挙げている。

これらを踏まえ、本県が育成を目指す資質・能力のイメージを作成した。

学びに向かう力は「**学びを調整する力**」と「**粘り強く挑む力**」、人間性等は自分自身を高めるための「**自己有用感・自己効力感**」及び他者や集団への意識の中で自分を高める「**協働する力**」からなる。



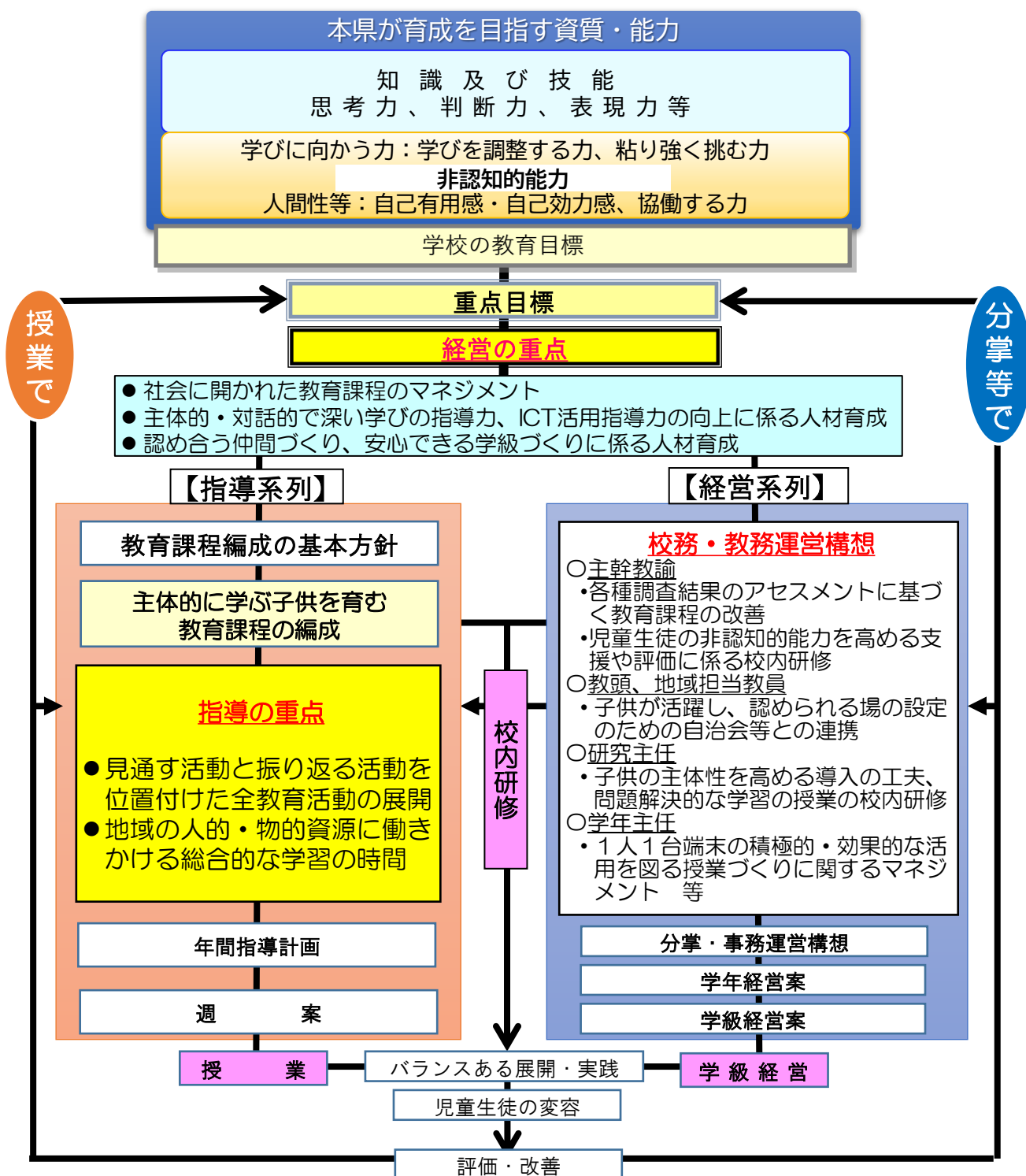
参考 「学力の二元的分類」市川伸一(2000)  
「家庭、学校、地域社会における社会的情動スキルの育成」OECD(2015)

【本県が育成を目指す資質・能力のイメージ】

### 3 資質・能力をバランスよく育成する学校経営（例）

各学校の校長は、資質・能力のバランスのよい育成に向けて、経営ビジョンを言葉や図にして所属職員に示し、そのベクトルをそろえ、副校長・教頭とともにリーダーシップを発揮し、協働しながら教育活動を共通実践し、みんなで成果を実感することが重要である。

そこで、まずは児童生徒の実態分析から、重点目標を設定する必要がある。その際、下図に示す本県が育成を目指す資質・能力から自校の課題を見出し、設定する。次に、組織運営や人材育成、家庭・地域との連携等から「経営の重点」を策定し、中心に据える教育活動を「指導の重点」として定め、各種経営案や指導計画を作成する。その指導計画に基づき、所属職員や児童生徒とともに取組を進め、その結果を評価し、取組の改善を図っていくようにする。



# 令和7年度全国学力・学習状況調査

## Ⅱ 調査の概要

知識及び技能  
思考力、判断力、表現力等

### 1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2 調査対象の学年

- ・小学校第6学年、義務教育学校前期課程第6学年、特別支援学校小学部第6学年
- ・中学校第3学年、義務教育学校後期課程第3学年、中等教育学校前期課程第3学年、特別支援学校中学部第3学年

### 3 調査事項

#### (1) 児童生徒に対する調査

##### ア 教科に関する調査

小学校調査は、国語、算数及び理科、中学校調査は、国語、数学及び理科。国語、算数・数学及び小学校理科は、冊子を用いた筆記方式で実施。中学校理科は、一人一台端末等を用いた、文部科学省CBTシステム（「MEXCBT」という。）によるオンライン方式（以下「CBT」（＝Computer Based Testing）という。）で実施。

##### イ 質問調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問調査は、一人一台端末等を用いたCBTで実施。

#### (2) 学校質問調査

指導方法に関する取組や教育条件の整備の状況等に関する質問調査を、オンライン方式で実施。

### 4 調査実施日等

#### (1) 児童生徒に対する調査

	小学校調査	中学校調査
国語及び算数・数学	令和7年4月17日木曜日	
理科	令和7年4月17日木曜日	令和7年4月14日月曜日から同年4月17日木曜日までの間で、各学校の希望を踏まえて文部科学省が指定する日 (理科と質問調査は同一日)
質問調査	令和7年4月18日金曜日から同年4月30日水曜日までの間で、各学校の希望を踏まえて文部科学省が指定する日	

#### (2) 学校質問調査

令和7年4月1日火曜日から同年4月17日木曜日までの間

## 5 調査日(4月17日)に調査を実施した公立学校数、児童生徒数

※調査日:中学校理科については4月14日から4月17日

学校数:国語、算数・数学、理科、児童生徒質問のいずれか1つについて「児童数」「生徒数」集計の対象者が属する学校の数

小学校調査	学校数 (校)	児童数(人)		
		国語	算数	理科
全国(公立)	18,289	936,137	936,399	936,576
福岡県(公立)	693	42,143	42,159	42,217
福岡教育事務所	119	9,706	9,707	9,726
北九州教育事務所	44	1,762	1,761	1,761
北筑後教育事務所	78	4,209	4,208	4,207
南筑後教育事務所	77	2,866	2,865	2,867
筑豊教育事務所	53	2,227	2,234	2,237
京築教育事務所	45	1,454	1,456	1,457
指定都市	272	19,910	19,919	19,953
県立学校	5	9	9	9

中学校調査	学校数 (校)	生徒数(人)		
		国語	数学	理科
全国(公立)	9,291	870,560	871,097	864,634
福岡県(公立)	340	40,284	40,323	40,221
福岡教育事務所	59	9,508	9,511	9,523
北九州教育事務所	19	1,746	1,750	1,734
北筑後教育事務所	34	3,864	3,871	3,895
南筑後教育事務所	34	2,775	2,778	2,788
筑豊教育事務所	28	2,159	2,163	2,153
京築教育事務所	20	1,391	1,392	1,392
指定都市	134	18,378	18,395	18,271
県立学校	12	463	463	465

福岡県全体を各地区等に分けて表すと、学校数や児童生徒数等には違いがあります。そのため、他地区(他校)の取組を参考にしながらも、各地区(学校)における丁寧な実態分析に基づいた取組の推進が重要です。



## 6 調査問題の設問数及び問題形式

		小学校調査			中学校調査		
教科		国語	算数	理科	国語	数学	理科
設問数		14問	16問	17問	14問	15問	22問
	選択式	9問	6問	11問	8問	3問	15問
	短答式	3問	6問	4問	2問	7問	1問
	記述式	2問	4問	2問	4問	5問	6問

※中学校理科は、公開問題の数。

### 中学校理科調査について～CBT編～

令和7年度全国学力・学習状況調査では、教科調査のうち、中学校理科においてCBT及びIRTが導入されました。ここではCBTについて説明します。

#### 1 CBTとは

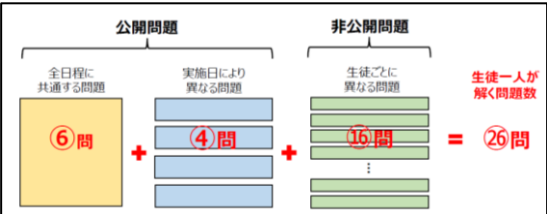
コンピュータ使用型調査のことです。これに対して、冊子を用いた筆記方式の調査をPBT(Paper Based Testing)といいます。

文部科学省は、CBTを活用する意義として次のようなことを挙げています。

- ① 解答データを機械可読のビッグデータとして蓄積できる。
- ② ICT端末上で出題・解答することで、多様な方法・環境での出題・解答が可能になる。
- ③ 電子データにより問題・解答を配信・回収することで負担を軽減。

#### 2 中学校理科のCBT問題の構成

- 非公開問題は幅広い内容・難易度等の問題を出題しており、生徒ごとに異なる問題を解く。
- 公開問題と非公開問題を組み合わせて構成。
- 生徒一人が解く問題数は26問。このうち、公開問題が10問、非公開問題は16問。
- 公開問題は全22問。全日程に共通する問題(6問)と実施日別の問題(4問×4日分=全16問)がある。調査実施期間(4日間)のうち、同じ調査日に実施する生徒は同じ公開問題を解く。



文部科学省説明資料より

#### 3 令和8年度以降の教科調査のCBT化について

令和8年度は、中学校調査のうち英語のみCBTで実施。

令和9年度は、小学校調査、中学校調査ともにCBTに全面移行。

### Ⅲ 調査結果の概要

知識及び技能  
思考力、判断力、表現力等

#### Ⅰ 調査結果の概況

		小学校（公立）			中学校（公立）			
		平均正答数／出題数	標準化 得点	平均 正答率	平均正答数／出題数	標準化 得点	平均 正答率	平均 IRTスコア
国語	福岡県	9.5	101.1	68	7.6	100.0	54	
	全国	9.4	(100.0)	66.8	7.6	(100.0)	54.3	
算数 数学	福岡県	9.2	98.9	57	7.1	98.6	47	
	全国	9.3	(100.0)	58.0	7.2	(100.0)	48.3	
理科	福岡県	9.7	100.0	57				497
	全国	9.7	(100.0)	57.1				503

- ・ 標準化得点とは、全国平均正答数を100としたときの本県の平均得点のこと。
- ・ 県の平均正答率は、小数点以下を四捨五入した整数で国から提供。
- ・ 中学校理科は、公開問題（全日程に共通する問題と実施日により異なる問題）と非公開問題を組み合わせて構成されているため、平均正答数・標準化得点・平均正答率は算出せず、500を基準とするIRTスコアで表示。

#### Ⅱ 教科に関する調査の結果

- 小学校国語は、全国平均をやや上回り、中学校国語は、全国平均と同程度だった。
- 小学校算数及び中学校数学は、全国平均をやや下回った。
- 小学校理科は、全国平均と同程度、中学校理科は、全国平均をやや下回った。



6つの教科区分において、全国平均水準を堅調に維持できています。  
また、全国的にみても、都道府県別の平均正答率・スコアについて、ばらつきの状況は狭い範囲に収まっていることが、文部科学省「令和7年度全国学力・学習状況調査の結果公表①のポイント」において報告されています。

3 標準化得点と学力層(四分位)の推移

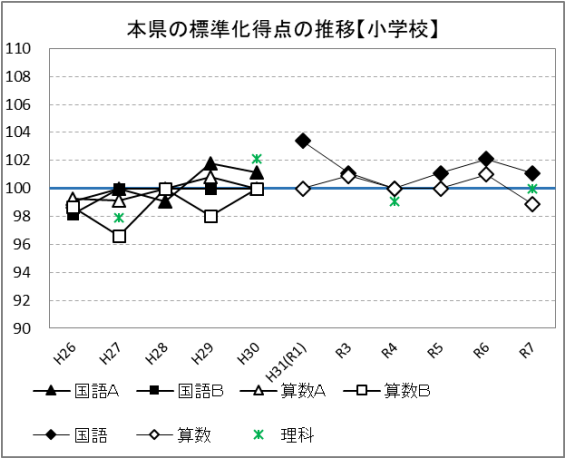
※ 平成31(令和元)年度からA・B問題が統合されたため、それまでの年度は参考。

(1) 本県の標準化得点の推移

<小学校>

- 前回との比較では、国語は1.0、算数は2.1ポイント下降した。理科は0.9ポイント上昇した。
- 経年での比較では、国語は8回連続して全国平均以上の結果だった。

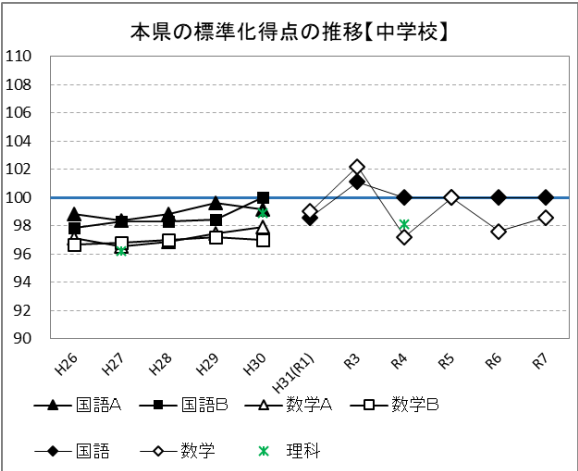
年度	国語A	国語B	算数A	算数B	理科
H26	99.1	98.2	99.2	98.7	
H27	100.0	100.0	99.2	96.6	97.9
H28	99.1	100.0	100.0	100.0	
H29	101.8	100.0	100.8	98.0	
H30	101.2	100.0	100.0	100.0	102.1
	国語		算数		
H31(R1)	103.4		100.0		
R2	実施なし				
R3	101.1		100.9		
R4	100.0		100.0		99.1
R5	101.1		100.0		
R6	102.1		101.0		
R7	101.1		98.9		100.0



<中学校> ※ 理科は次のページ

- 前回との比較では、数学は1.0ポイント上昇した。
- 経年での比較では、国語は5回連続して全国平均以上の結果だった。

年度	国語A	国語B	数学A	数学B	理科
H26	98.8	97.8	97.1	96.7	
H27	98.4	98.3	96.6	96.8	96.2
H28	98.8	98.3	96.9	97.0	
H29	99.6	98.5	97.4	97.2	
H30	99.2	100.0	97.9	97.0	98.9
	国語		数学		
H31(R1)	98.6		99.0		
R2	実施なし				
R3	101.1		102.2		
R4	100.0		97.2		98.1
R5	100.0		100.0		
R6	100.0		97.6		
R7	100.0		98.6		※497

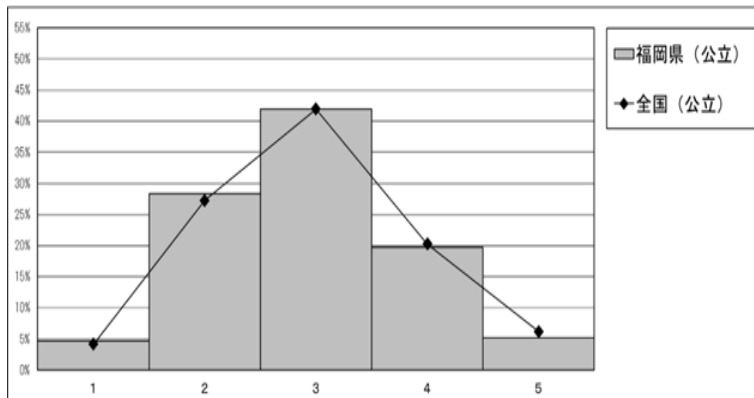


中学校理科は、令和7年度にIRTスコアで示されたため、標準化得点の推移グラフには表示していない。

(2) 中学校理科の状況

<IRTバンド分布グラフ>

(横軸:IRTバンド 縦軸:割合)



<IRTバンド集計値>

IRTバンド	生徒数	割合	
	福岡県 (公立)	福岡県 (公立)	全国 (公立)
5	2,093	5.2	6.2
4	7,924	19.7	20.3
3	16,897	42.0	42.0
2	11,422	28.4	27.3
1	1,885	4.7	4.2

○ 本県におけるバンド分布は、全国のバンド分布と概ね同じである。

中学校理科調査について～IRT編～

令和7年度全国学力・学習状況調査では、教科調査のうち、中学校理科においてCBT及びIRTが導入されました。ここではIRTについて説明します。今後、全国学力・学習状況調査では、CBT及びIRTが順次導入される中で、令和7年度の中学校理科調査のように、IRTを用いた結果返却に変わっていきます。

1 IRT (Item Response Theory) とは

項目反応理論のことです。児童生徒の正答・誤答が、問題の特性(難易度、測定精度)によるのか、児童生徒の学力によるのかを区別して分析し、児童生徒の学力スコアを推定する統計理論です。

文部科学省は、全国学力・学習状況調査にIRTを導入するメリットとして次のようなことを挙げています。

- ① 調査日の複数設定が可能になる。各児童生徒が異なる問題を解く設計にできる。
- ② 今まで以上に多くの問題を使用し、幅広い領域・内容等での調査が可能になる。
- ③ 学力の経年変化を各教育委員会・学校でも把握できる。

2 IRTスコアとは

IRTに基づいて各設問の正誤パターンから学力を推定し、500を基準にした得点で表すものです。IRT分析では500を基準として各生徒のスコアをそれぞれ算出しています。

3 平均IRTスコアとは

平均IRTスコアは、算出された各生徒のスコアを足し合わせて平均をとったものです。

このため、500に一致するとは限りません。令和7年度中学校理科においては、全国(国公私)の平均IRTスコアは505、全国(公立)の平均IRTスコアは503でした。

4 IRTバンドとは

IRTスコアを1～5の5段階に区切ったものです。3を基準のバンドとし、5が最も高いバンドとなります。

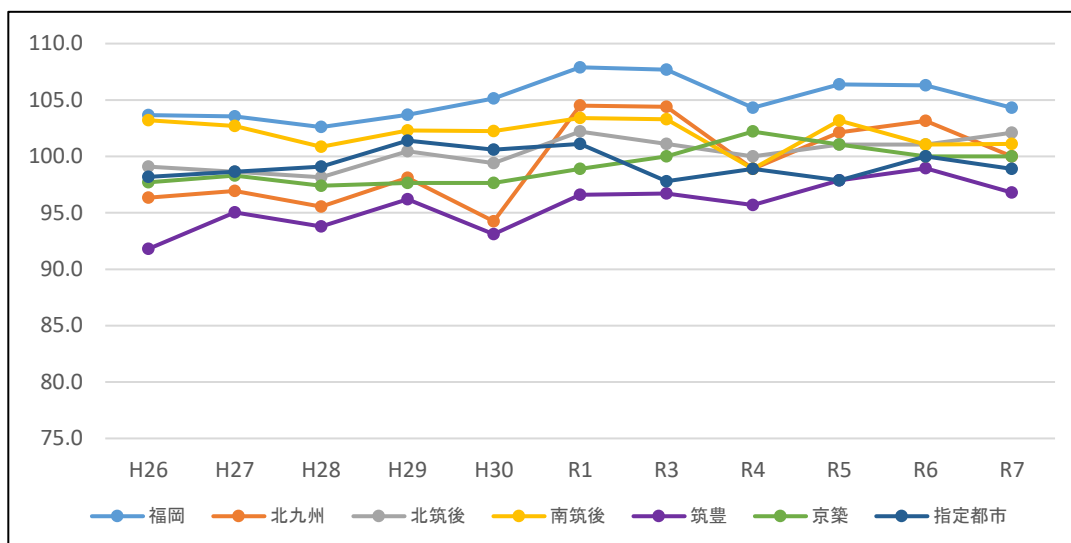
今回の中学校理科調査におけるバンドごとのIRTスコアの範囲は、次のとおりです。

バンド1:317以下、バンド2:318～442、バンド3:443～567、バンド4:568～691、バンド5:692以上

### (3) 教科ごとの地区別標準化得点の推移

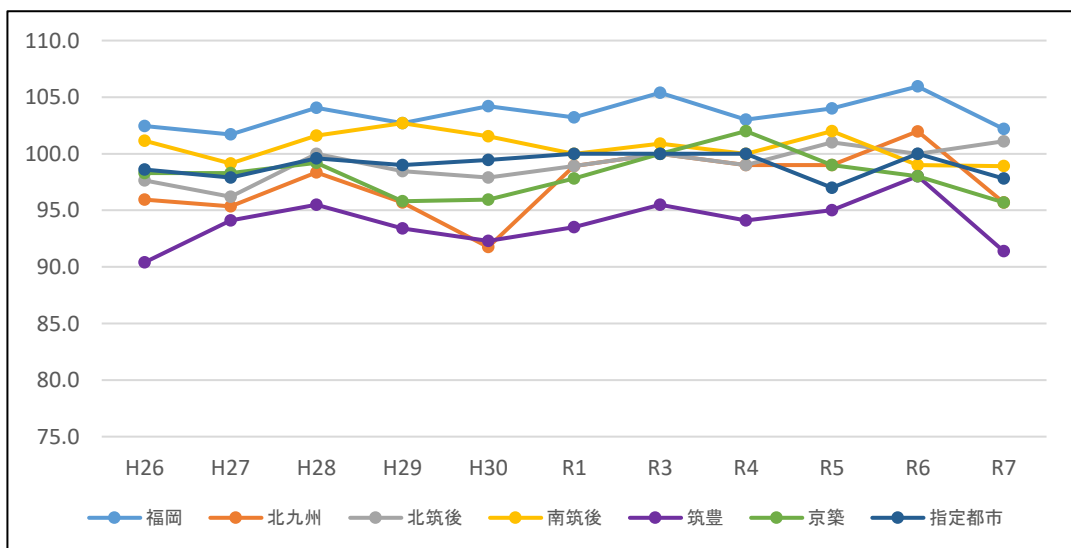
※ 折れ線グラフ(地区別標準化得点)のH26～H30は、A・B問題の平均値。

#### <小学校国語>



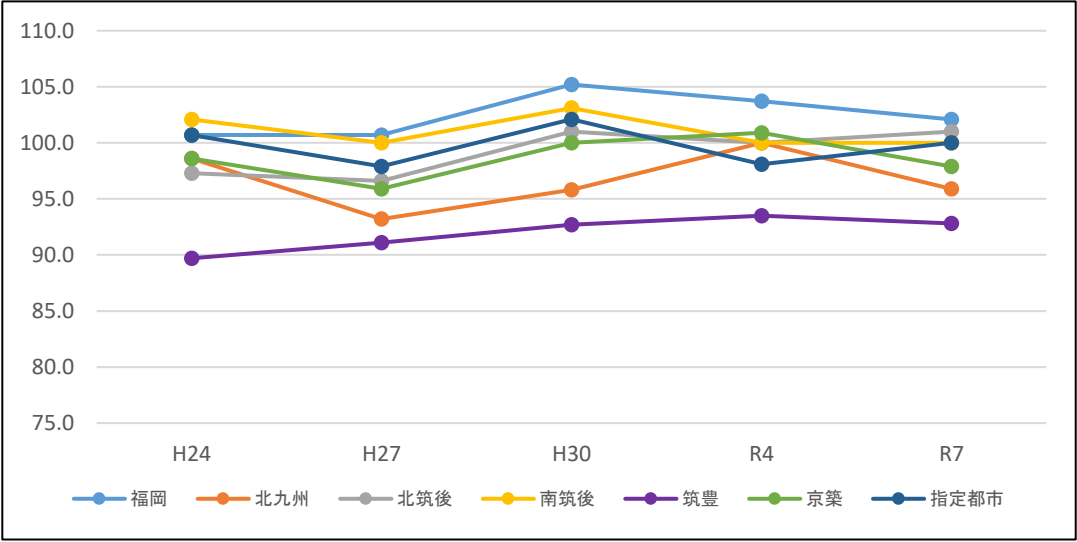
- 7地区のうち5地区が全国平均以上であった。
- 前回と比較すると、7地区のうち2地区で上昇した。

#### <小学校算数>



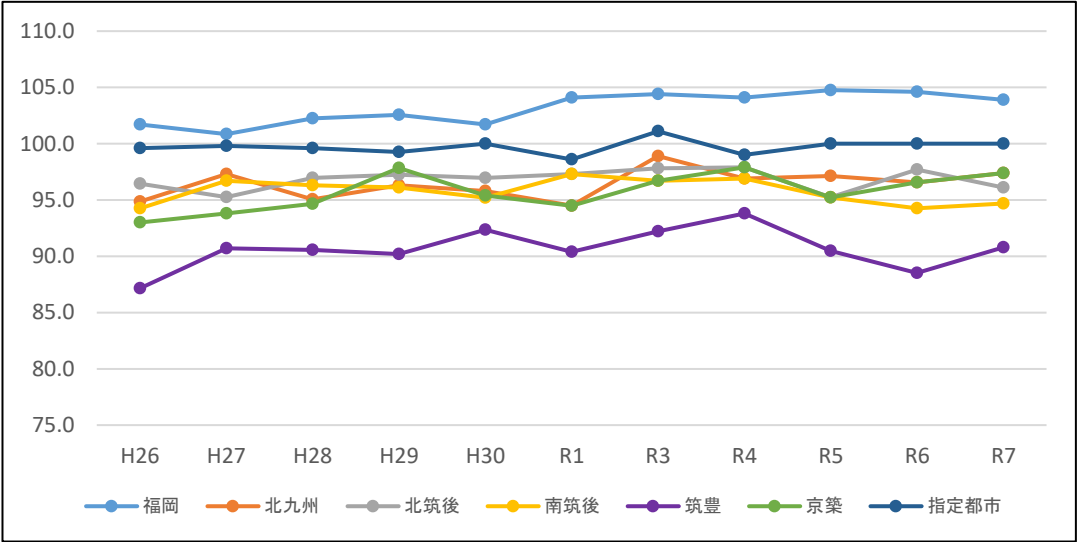
- 7地区のうち2地区が全国平均以上であった。
- 前回と比較すると、7地区のうち1地区で上昇した。

<小学校理科>



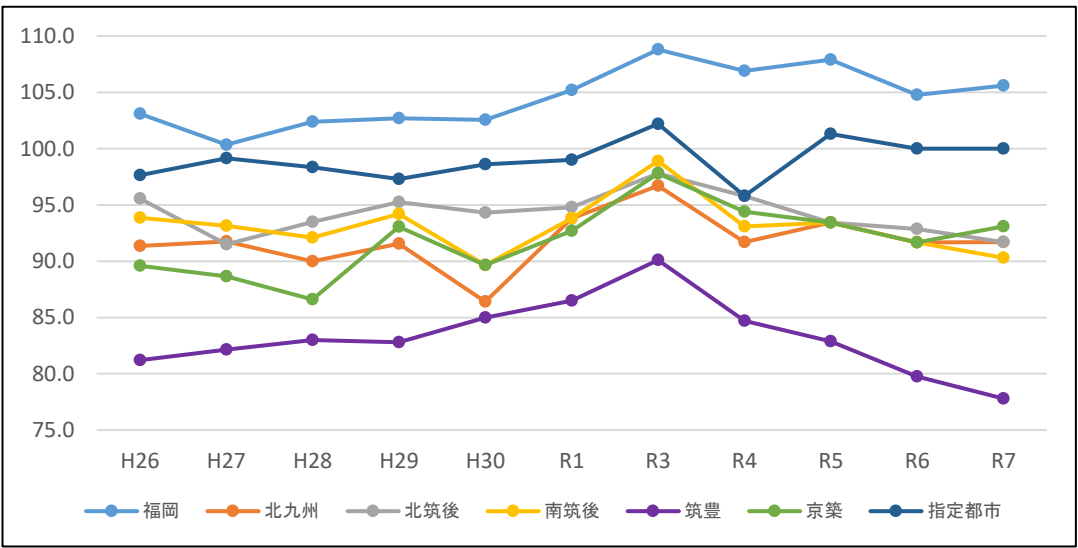
- 7地区のうち4地区が全国平均以上であった。
- 前回と比較すると、7地区のうち2地区で上昇した。

<中学校国語>



- 7地区のうち2地区が全国平均以上であった。
- 前回と比較すると、7地区のうち4地区で上昇した。

<中学校数学>



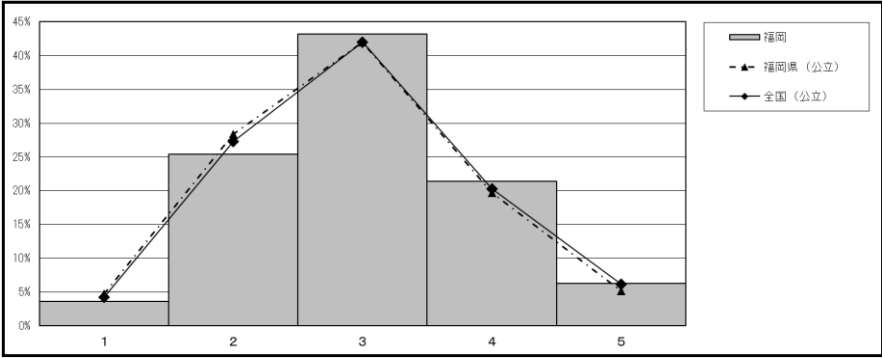
- 7地区のうち2地区が全国平均以上であった。
- 前回と比較すると、7地区のうち2地区で上昇した。

(4) 各地区の中学校理科の状況(IRTバンド分布) ※ 割合の合計は端数処理の関係で100%にならない場合がある。

○ 7地区のうち1地区において、IRTバンド3以上の割合が全国（68.5%）を上回った。

【福岡】

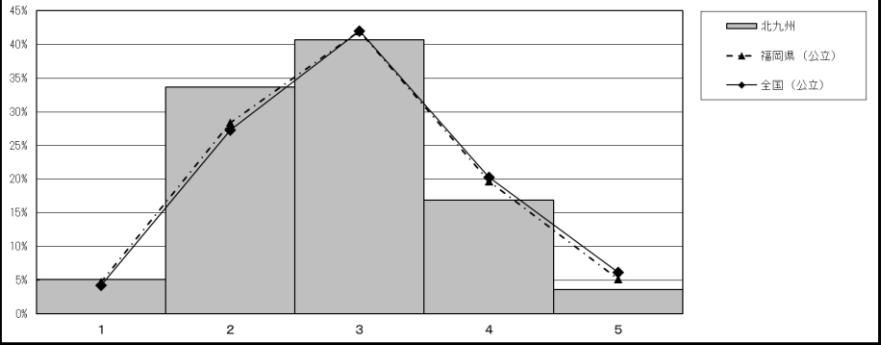
(横軸:IRTバンド 縦軸:割合)



IRT バンド	割合(%)		
	福岡	福岡県 (公立)	全国 (公立)
5	6.3	5.2	6.2
4	21.4	19.7	20.3
3	43.2	42.0	42.0
2	25.4	28.4	27.3
1	3.6	4.7	4.2

【北九州】

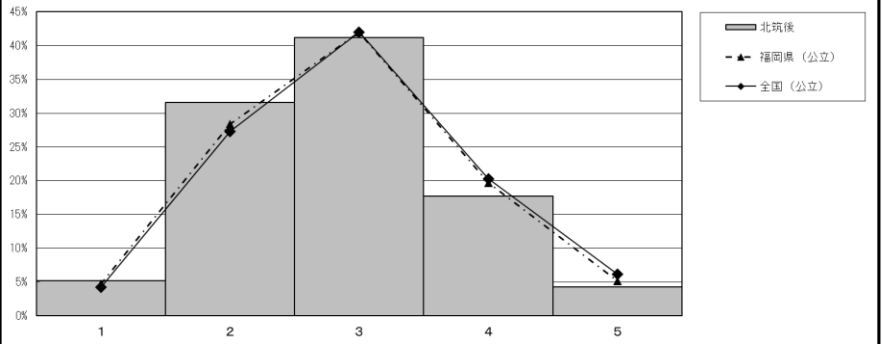
(横軸:IRTバンド 縦軸:割合)



IRT バンド	割合(%)		
	北九州	福岡県 (公立)	全国 (公立)
5	3.6	5.2	6.2
4	16.9	19.7	20.3
3	40.7	42.0	42.0
2	33.7	28.4	27.3
1	5.1	4.7	4.2

【北筑後】

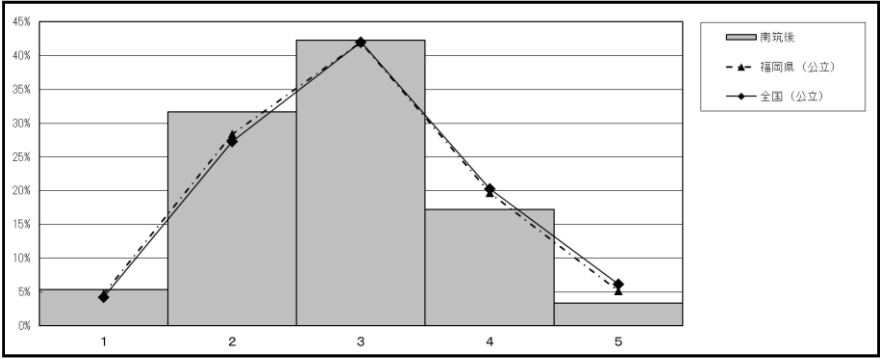
(横軸:IRTバンド 縦軸:割合)



IRT バンド	割合(%)		
	北筑後	福岡県 (公立)	全国 (公立)
5	4.3	5.2	6.2
4	17.7	19.7	20.3
3	41.2	42.0	42.0
2	31.6	28.4	27.3
1	5.2	4.7	4.2

【南筑後】

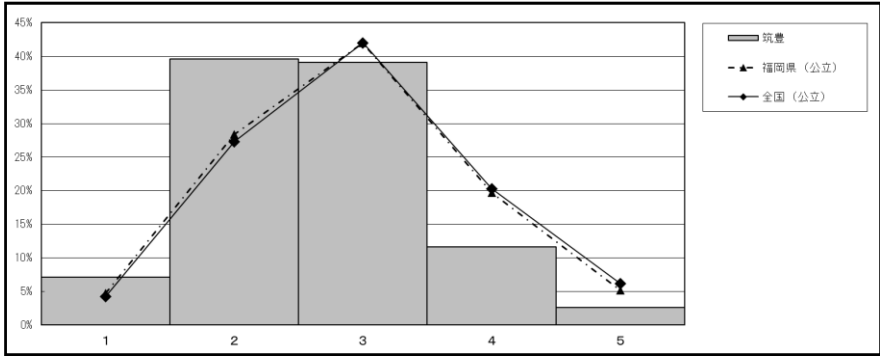
(横軸:IRTバンド 縦軸:割合)



IRT バンド	割合(%)		
	南筑後	福岡県 (公立)	全国 (公立)
5	3.4	5.2	6.2
4	17.2	19.7	20.3
3	42.3	42.0	42.0
2	31.7	28.4	27.3
1	5.4	4.7	4.2

【筑豊】

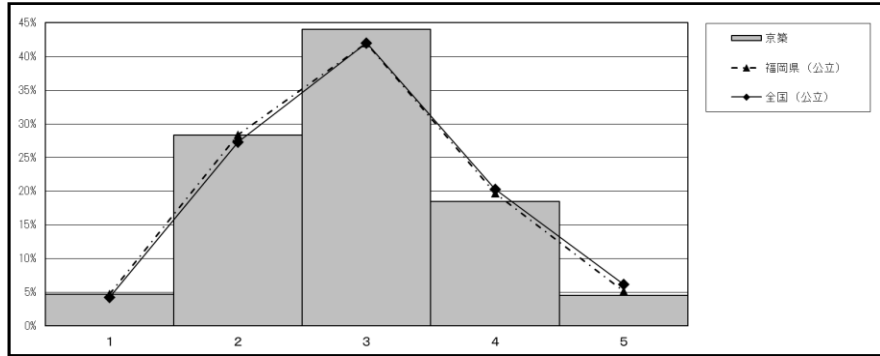
(横軸:IRTバンド 縦軸:割合)



IRT バンド	割合(%)		
	筑豊	福岡県 (公立)	全国 (公立)
5	2.6	5.2	6.2
4	11.6	19.7	20.3
3	39.1	42.0	42.0
2	39.6	28.4	27.3
1	7.1	4.7	4.2

【京築】

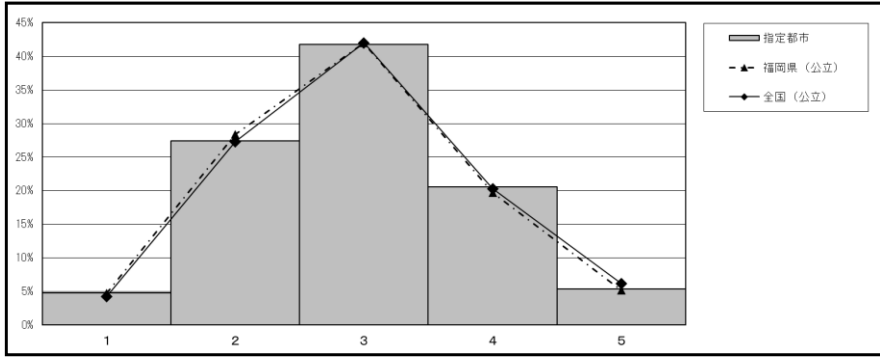
(横軸:IRTバンド 縦軸:割合)



IRT バンド	割合(%)		
	京築	福岡県 (公立)	全国 (公立)
5	4.5	5.2	6.2
4	18.5	19.7	20.3
3	44.0	42.0	42.0
2	28.3	28.4	27.3
1	4.7	4.7	4.2

【指定都市】

(横軸:IRTバンド 縦軸:割合)



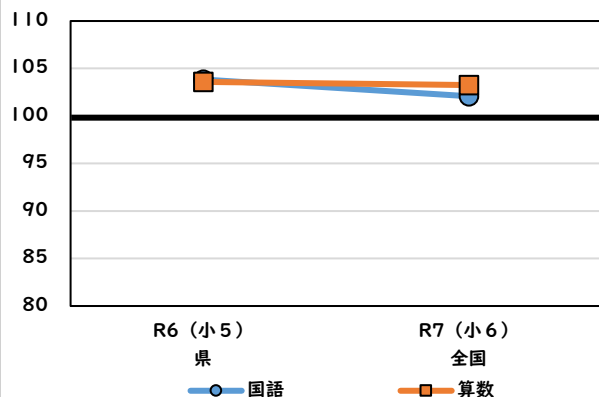
IRT バンド	割合(%)		
	指定都市	福岡県 (公立)	全国 (公立)
5	5.4	5.2	6.2
4	20.6	19.7	20.3
3	41.8	42.0	42.0
2	27.4	28.4	27.3
1	4.8	4.7	4.2

(5) 同一集団の標準化得点の推移

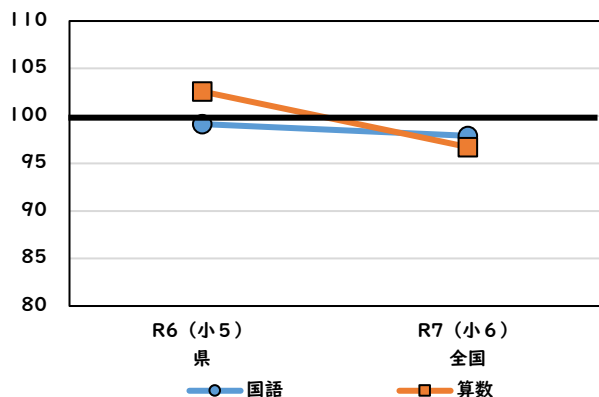
同一集団

ア 令和6年度小学校5年生(県調査)～令和7年度小学校6年生(全国調査 ※県の平均正答数を100)の推移

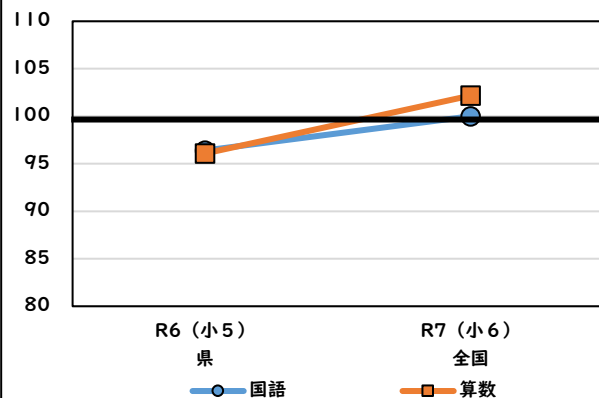
福岡教育事務所(小学校)



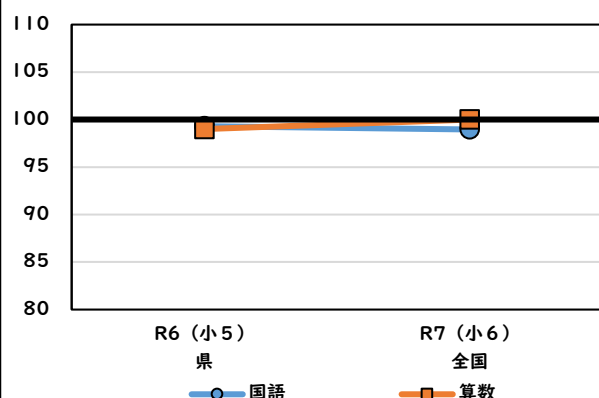
北九州教育事務所(小学校)



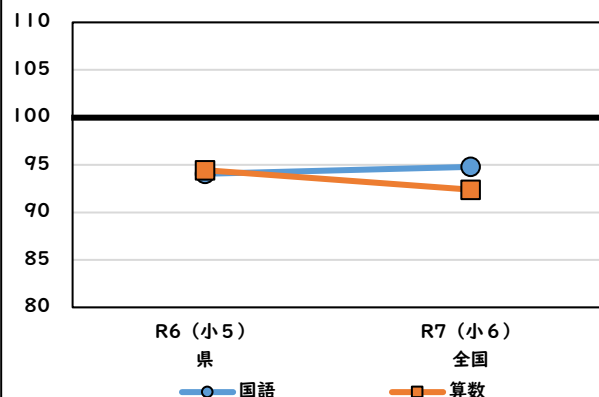
北筑後教育事務所(小学校)



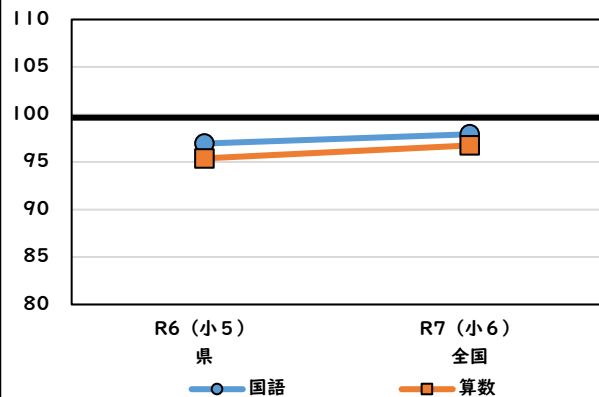
南筑後教育事務所(小学校)



筑豊教育事務所(小学校)



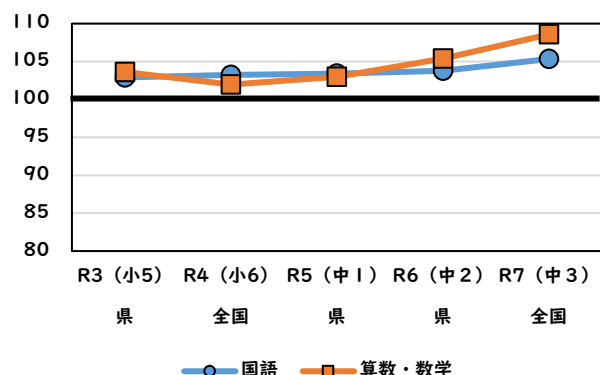
京築教育事務所(小学校)



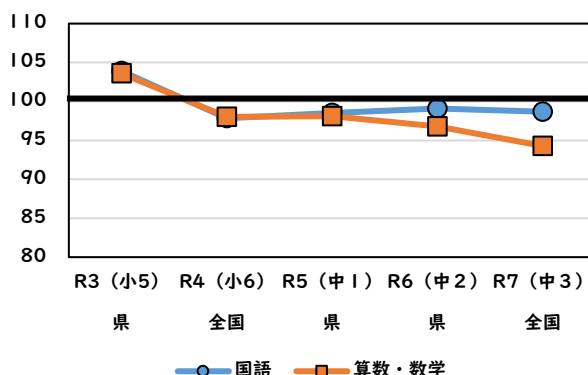
全ての児童生徒の学力を育成していくために、同じ児童生徒集団の学力の状況を追跡し、経年で分析することで指導や支援の効果の検証が可能になります。

イ 同一集団の令和3年度小学校5年生（県調査）～令和7年度中学校3年生（全国調査 ※県の平均正答数を100）の推移

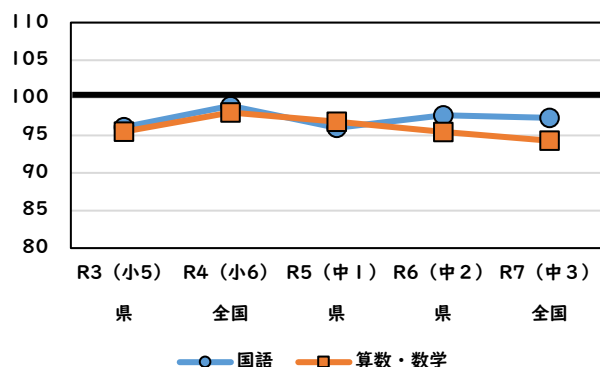
福岡教育事務所（中学校）



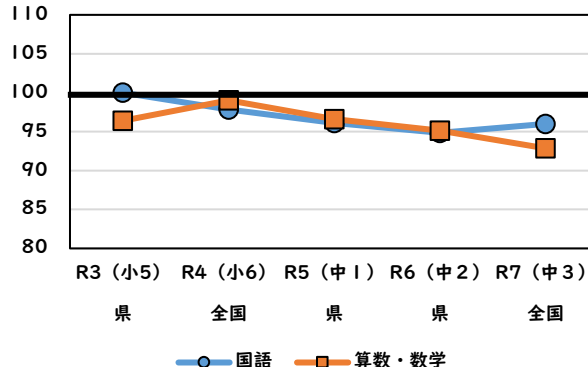
北九州教育事務所（中学校）



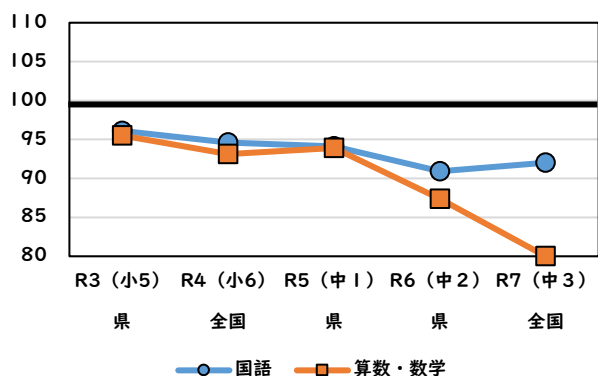
北筑後教育事務所（中学校）



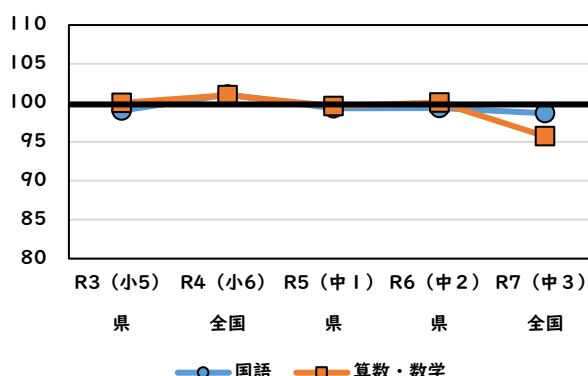
南筑後教育事務所（中学校）



筑豊教育事務所（中学校）



京築教育事務所（中学校）

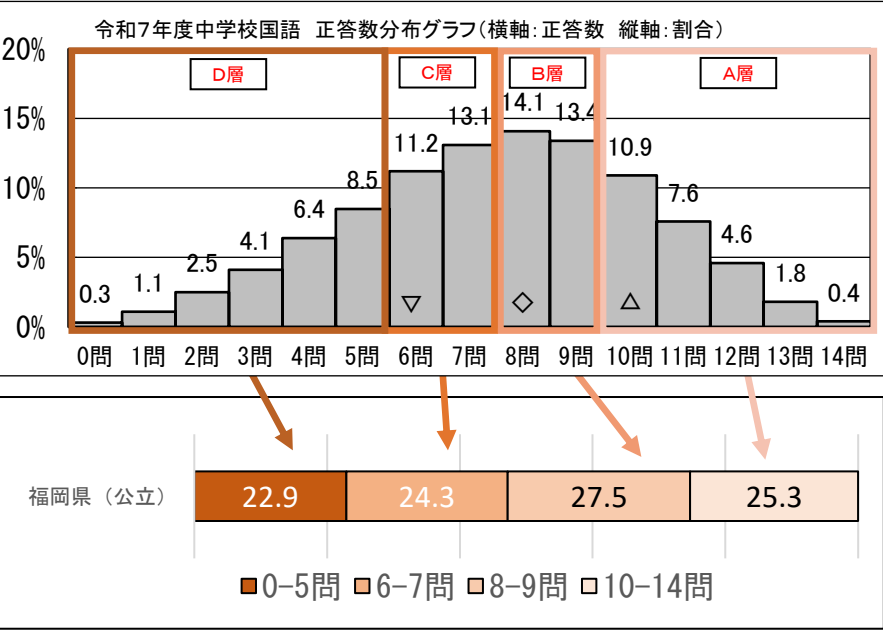


(6) 本県の学力層（四分位）の結果

ア 学力層（四分位）とは

四分位とは、集団のデータを大きさの順で並べた時に、4等分する位置の値のことである。小さい方から順に第1四分位、第2四分位（中央値と同じ値）、第3四分位という。  
学力層（四分位）とは、各正答数の児童生徒の割合の合計について、正答数が多い方から順に25%、50%、75%を基準として区切り、正答数ごとの層分布として、それぞれA層、B層、C層、D層としたものである。学力層（四分位）の区切りとなる25%、50%、75%を含む正答数の人数は全て、上位の層に含まれる。

(例) 令和7年度全国学力・学習状況調査（中学校国語）



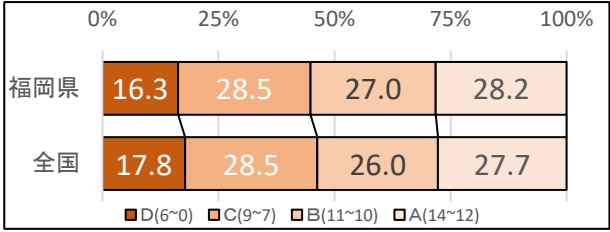
	全国（公立）
△ 第3四分位	10.0問
◇ 第2四分位	8.0問
▽ 第1四分位	6.0問

全国（公立）の第3四分位が10問だった。これをもとにすると、福岡県（公立）のA層の生徒の割合は、10問以上正答した生徒の割合の合計である25.3%となる。なお、全国（公立）のA層の割合は25.8%であったことから、福岡県のA層の生徒の割合は全国とほぼ同程度の割合であると言える。

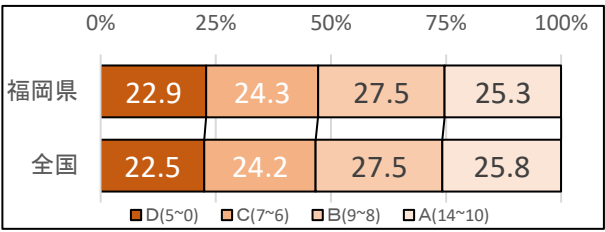
イ 本年度の本県と全国の学力層（四分位）の結果

全国の学力層（四分位）と同じ区切りで本県の学力層（四分位）を算出し比較する。

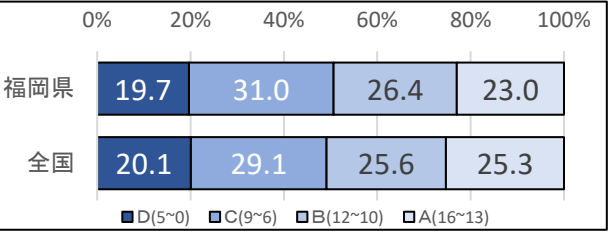
【小学校国語】



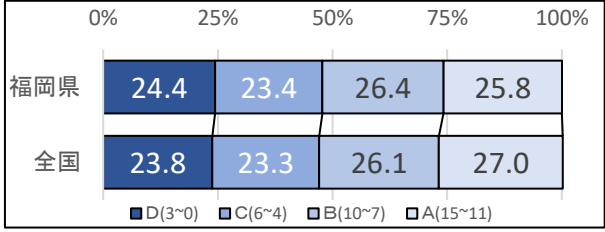
【中学校国語】



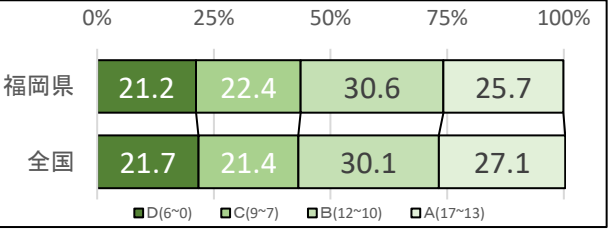
【小学校算数】



【中学校数学】



【小学校理科】



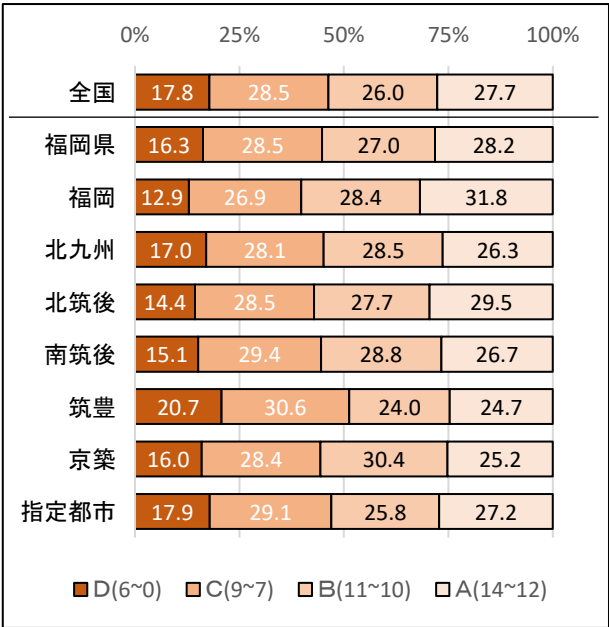
※各層の四捨五入の影響で、各層の合計が100%とならないことがある。

ウ 本年度の各地区の学力層（四分位）の結果  
全国の学力層（四分位）と同じ区切りで各地区の学力層（四分位）を算出し比較する。

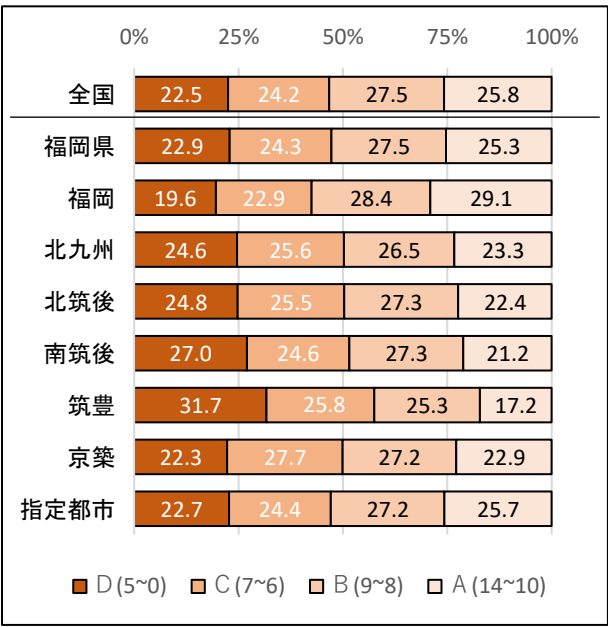
○本県の「確かな学力の育成」に係る目標値（「令和7年度福岡県教育施策実施計画」より）  
「全国学力・学習状況調査における学力上位層の構成割合が全国平均を上回る地区数（指定都市を除く。）」

	目標		R7実績
小学校	国語	6地区	5/6地区
	算数	6地区	1/6地区
中学校	国語	6地区	1/6地区
	数学	6地区	1/6地区

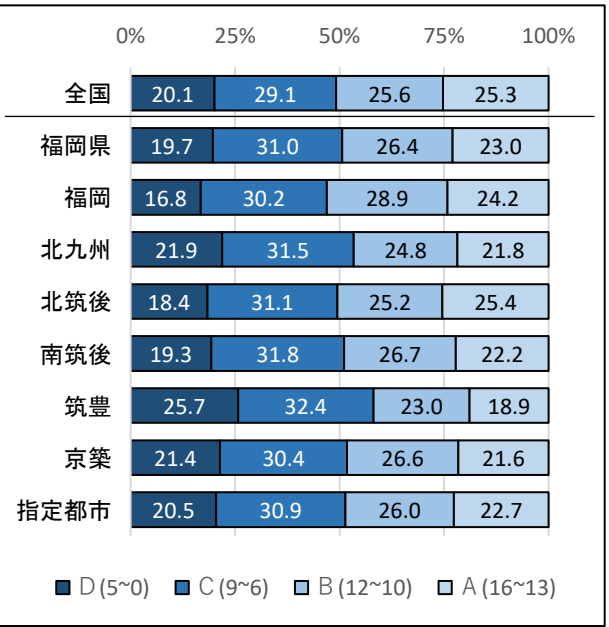
【小学校国語】



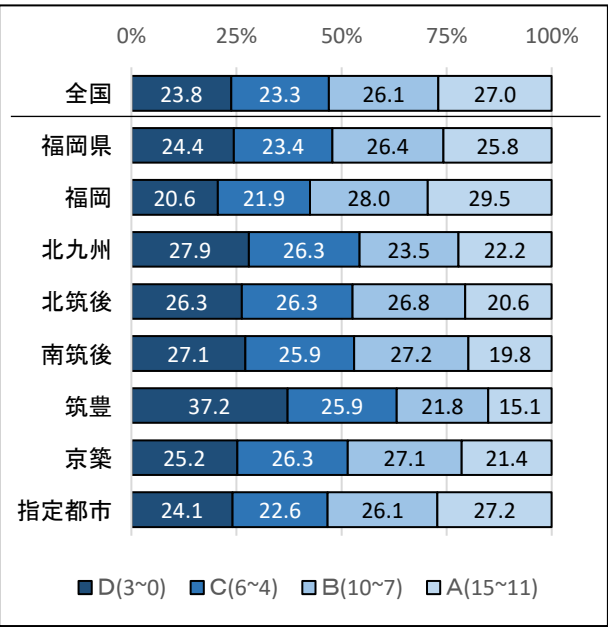
【中学校国語】



【小学校算数】



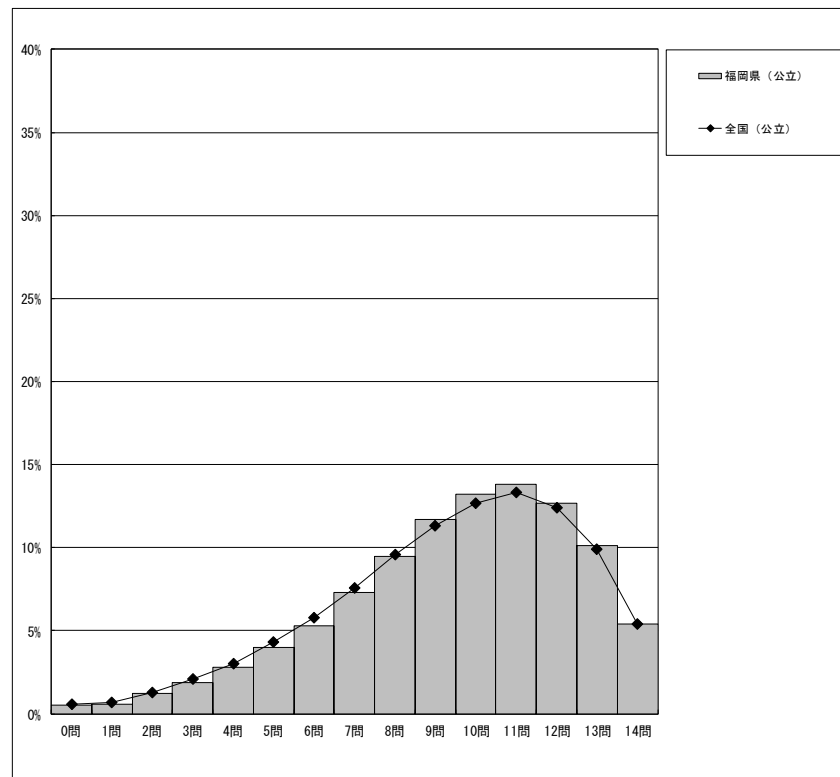
【中学校数学】



## Ⅰ 小学校国語

	児童数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
福岡県（公立）	42,143	9.5 / 14	68	10.0	3.0
全国（公立）	936,137	9.4 / 14	66.8	10.0	3.0

正答数分布グラフ（横軸：正答数 縦軸：割合）



正答数集計値			
正答数	児童数	割合(%)	
	福岡県 (公立)	福岡県 (公立)	全国 (公立)
14問	2,260	5.4	5.4
13問	4,255	10.1	9.9
△ 12問	5,371	12.7	12.4
◇ 11問	5,818	13.8	13.3
◇ 10問	5,542	13.2	12.7
▽ 9問	4,949	11.7	11.3
▽ 8問	4,014	9.5	9.6
7問	3,071	7.3	7.6
6問	2,240	5.3	5.8
5問	1,690	4.0	4.3
4問	1,183	2.8	3.0
3問	819	1.9	2.1
2問	498	1.2	1.3
1問	242	0.6	0.7
0問	191	0.5	0.6

※今回の調査での四分位は以下の通りでした。

	福岡県 (公立)	全国 (公立)
△ 第3四分位	12.0問	12.0問
◇ 第2四分位	10.0問	10.0問
▽ 第1四分位	8.0問	7.0問

### 福岡県の特徴

- ◇ 正答率が高い問題（2問） ○ 全国と比べて本県の成果がうかがえる問題  
◆ 正答率が低い問題（2問） ● 全国と比べて本県の課題がうかがえる問題 ※ ◇と○、◆と●が重複の場合、「差」の値に下線

番号・形式	出題の趣旨	福岡県	全国	差
2四ア 短答式	◇ 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる	82.9	81.6	+1.3
2二 選択式	◇ 図表などを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる	82.2	81.8	+0.4
3三 (2) 記述式	○ 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる	58.9	56.3	+2.6
3三 (1) 選択式	◆ 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる	39.8	40.8	<u>-1.0</u>
3二 (2) 選択式	◆ 事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができるかどうかをみる	52.2	51.3	+0.9



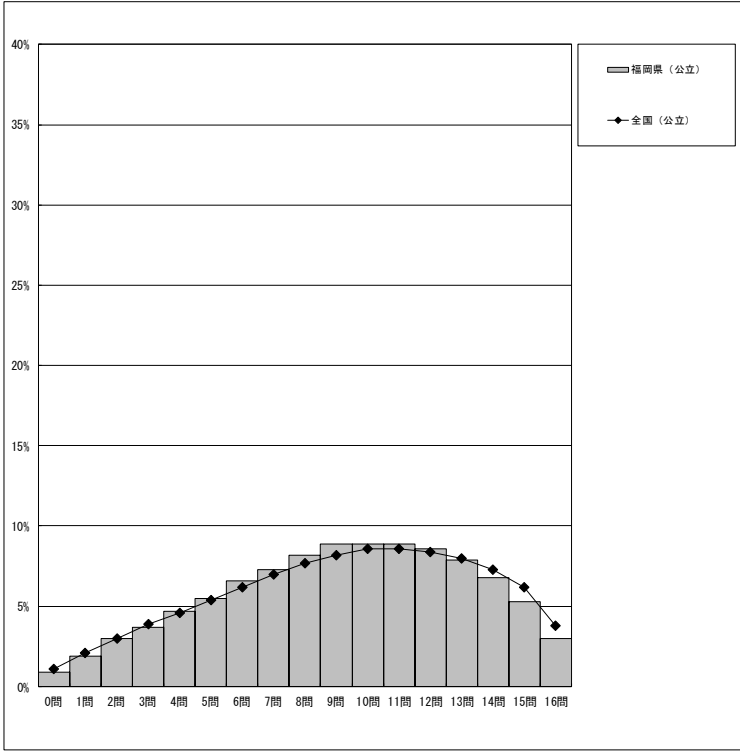
小学校国語では、特に、「目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けること」に課題が見られました。  
学習指導に当たっては、文章中に用いられている図表などが文章のどの部分と結び付くのかを明らかにしたり、文章と図表などの関係を捉えて読んだりすることで、内容についてより深く理解したり解釈したりするような学習場面を設定することが考えられます。

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	正答率(%)		無解答率(%)	
			福岡県 (公立)	全国 (公立)	福岡県 (公立)	全国 (公立)
1一	【話し合いの様子】における小森さんの傍線部の発言を説明したものととして適切なものを選択する	目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができるかどうかをみる	53.4	53.3	0.4	0.5
1二	【話し合いの記録】の書き表し方を説明したものととして適切なものを選択する	情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかをみる	63.8	63.1	0.4	0.5
1三(1)	【インタビューの様子の一部】で小森さんが傍線部アのように発言した目的として適切なものを選択する	自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えることができるかどうかをみる	71.9	71.8	0.4	0.6
1三(2)	【インタビューの様子の一部】で小森さんが傍線部イのように発言した理由として適切なものを選択する	話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる	75.3	73.7	0.5	0.6
2一	【ちらし】の文章の構成の工夫を説明したものととして適切なものを選択する	書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えることができるかどうかをみる	65.6	65.5	0.7	0.8
2二	山田さんが手ぬぐいの模様について言葉と図で説明した理由として適切なものを選択する	図表などを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる	82.2	81.8	0.7	0.8
2三	【ちらし】の二重傍線部を、【調べたこと】を基に詳しく書く	目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる	63.4	61.3	4.0	5.0
2四ア	【ちらし】の下線部アを、漢字を使って書き直す ( <u>こ</u> のみ)	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる	82.9	81.6	5.8	7.2
2四イ	【ちらし】の下線部イを、漢字を使って書き直す ( <u>あ</u> つい日)		74.8	72.1	3.3	4.3
3一	【資料1】を読んで思い出した【木村さんの経験】を通して、木村さんが気付いたこととして適切なものを選択する	時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付くことができるかどうかをみる	81.5	81.2	1.0	1.3
3二(1)	【木村さんのメモ】の空欄アに入る適切な言葉を【資料2】の中から書き抜く	時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができるかどうかをみる	81.6	81.6	2.4	2.9
3二(2)	【資料3】を読み、【木村さんのメモ】の空欄イに当てはまる内容として適切なものを選択する	事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができるかどうかをみる	52.2	51.3	2.0	2.4
3三(1)	【話し合いの様子】の田中さんの発言の空欄Aに当てはまる内容として適切なものを選択する	目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる	39.8	40.8	2.8	3.4
3三(2)	【資料1】を読み返して言葉の変化について自分が納得したことを、【資料2】、【資料3】、【資料4】に書かれていることを理由にしてまとめて書く	目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる	58.9	56.3	13.6	16.2

2 小学校算数

	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
福岡県（公立）	42,159	9.2 / 16	57	9.0	3.9
全国（公立）	936,399	9.3 / 16	58.0	10.0	4.0

正答数分布グラフ（横軸：正答数 縦軸：割合）



正答数集計値			
正答数	児童数	割合(%)	
	福岡県 (公立)	福岡県 (公立)	全国 (公立)
16問	1,262	3.0	3.8
15問	2,241	5.3	6.2
14問	2,874	6.8	7.3
13問	3,310	7.9	8.0
△ 12問	3,625	8.6	8.4
11問	3,759	8.9	8.6
10問	3,757	8.9	8.6
◇ 9問	3,732	8.9	8.2
8問	3,444	8.2	7.7
7問	3,084	7.3	7.0
▽ 6問	2,766	6.6	6.2
5問	2,319	5.5	5.4
4問	1,966	4.7	4.6
3問	1,577	3.7	3.9
2問	1,266	3.0	3.0
1問	796	1.9	2.1
0問	381	0.9	1.1

※今回の調査での四分位は以下の通りでした。

	福岡県 (公立)	全国 (公立)
△ 第3四分位	12.0問	13.0問
◇ 第2四分位	9.0問	10.0問
▽ 第1四分位	6.0問	6.0問

福岡県の特徴

- ◇ 正答率が高い問題(2問)    ○ 全国と比べて本県の成果がうかがえる問題  
◆ 正答率が低い問題(2問)    ● 全国と比べて本県の課題がうかがえる問題    ※ ◇と○、◆と●が重複の場合、「差」の値に下線

番号・形式	出題の趣旨	福岡県	全国	差
3(4) 短答式	◇ 異分母の分数の加法の計算をすることができるかどうかをみる	82.5	81.3	<u>+1.2</u>
4(1) 選択式	◇ 伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見いだすことができるかどうかをみる	82.0	82.8	-0.8
3(2) 記述式	◆ 分数の加法について、共通する単位分数を見だし、加数と被加数が、共通する単位分数の幾つ分かを数や言葉を用いて記述できるかどうかをみる	22.6	23.0	-0.4
3(3) 短答式	◆ 数直線上で、1の目盛りに着目し、分数を単位分数の幾つ分として捉えることができるかどうかをみる	31.2	35.0	<u>-3.8</u>



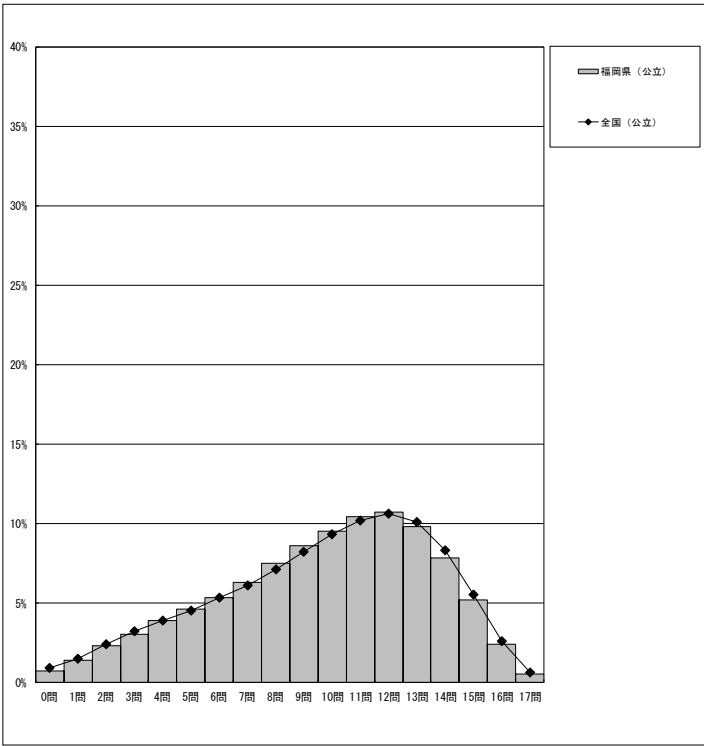
小学校算数では、特に、「数直線上で、1の目盛りに着目し、分数を単位分数の幾つ分として捉えること」に課題が見られました。  
学習指導に当たっては、数直線上の目盛りが表す数を分数で表すことで、分数の意味や表し方について理解を深めるような学習場面を設定することが考えられます。

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	正答率(%)		無解答率(%)	
			福岡県 (公立)	全国 (公立)	福岡県 (公立)	全国 (公立)
1 (1)	2022年の全国のプロッコリーの出荷量が2002年の全国のプロッコリーの出荷量の約何倍かを、棒グラフから読み取って選ぶ	棒グラフから、項目間の関係を読み取ることができるかどうかをみる	78.6	78.7	0.3	0.4
1 (2)	都道府県Aのプロッコリーの出荷量が増えたかどうかを調べるために、適切なグラフを選び、出荷量の増減を判断し、そのわけを書く	目的に応じて適切なグラフを選択して出荷量の増減を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる	31.4	31.0	0.7	0.9
1 (3)	示された表から、「春だいこん」や「秋冬だいこん」より「夏だいこん」の出荷量が多い都道府県を選ぶ	簡単な二次元の表から、条件に合った項目を選ぶことができるかどうかをみる	70.1	71.6	3.0	3.5
1 (4)	示された資料から、必要な情報を選び、ピーマン1個とプロッコリー4個の重さを求める式と答えを書く	示された資料から、必要な情報を選び、数量の関係を式に表し、計算することができるかどうかをみる	75.4	74.5	2.0	2.6
2 (1)	示された平行四辺形をかくために、コンパスの開く長さを書き、コンパスの針を刺す場所を選ぶ	平行四辺形の性質を基に、コンパスを用いて平行四辺形を作図することができるかどうかをみる	59.1	58.3	1.0	1.2
2 (2)	方眼上の五つの図形の中から、台形を選ぶ	台形の意味や性質について理解しているかどうかをみる	48.9	50.2	0.5	0.7
2 (3)	角をつくる二つの辺をそれぞれのばした図形の角の大きさについてわかることを選ぶ	角の大きさについて理解しているかどうかをみる	78.8	79.3	0.7	1.0
2 (4)	五角形の面積を求めるために五角形を二つの図形に分割し、それぞれの図形の面積の求め方を書く	基本図形に分割することができる図形の面積の求め方を、式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる	35.5	37.0	1.9	2.7
3 (1)	0.4 + 0.05について、整数の加法で考えるときの共通する単位を書く	小数の加法について、数の相対的な大きさを用いて、共通する単位を捉えることができるかどうかをみる	74.4	74.1	2.2	2.8
3 (2)	$3\frac{1}{4} + 2\frac{2}{3}$ について、共通する単位分数と、 $3\frac{1}{4}$ と $2\frac{2}{3}$ が、共通する単位分数の幾つ分になるかを書く	分数の加法について、共通する単位分数を見だし、加数と被加数が、共通する単位分数の幾つ分かを数や言葉を用いて記述できるかどうかをみる	22.6	23.0	13.8	15.7
3 (3)	数直線上に示された数を分数で書く	数直線上で、1の目盛りに着目し、分数を単位分数の幾つ分として捉えることができるかどうかをみる	31.2	35.0	6.8	7.8
3 (4)	$1\frac{1}{2} + 1\frac{1}{3}$ を計算する	異分母の分数の加法の計算をすることができるかどうかをみる	82.5	81.3	3.5	4.1
4 (1)	新品のハンドソープが空になるまでに何プッシュすることができるのかを調べるために、必要な事柄を選ぶ	伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見いだすことができるかどうかをみる	82.0	82.8	2.2	2.6
4 (2)	使いかけのハンドソープがあと何プッシュすることができるのかを調べるために、必要な事柄を判断し、求め方を書く	伴って変わる二つの数量の関係に着目し、問題を解決するために必要な数量を見だし、知りたい数量の大きさの求め方を式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる	48.4	48.7	2.9	3.4
4 (3)	はかりが示された場面で、はかりの目盛りを読む	はかりの目盛りを読むことができるかどうかをみる	58.9	60.9	4.1	4.2
4 (4)	10%増量したつめかえ用のハンドソープの含量が、増量前の何倍かを選ぶ	「10%増量」の意味を解釈し、「増量後の量」が「増量前の量」の何倍になっているかを表すことができるかどうかをみる	38.6	40.9	4.0	4.1

3 小学校理科

	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
福岡県（公立）	42,217	9.7 / 17	57	10.0	3.8
全国（公立）	936,576	9.7 / 17	57.1	10.0	3.8

正答数分布グラフ（横軸：正答数 縦軸：割合）



正答数集計値			
正答数	児童数	割合(%)	
	福岡県 (公立)	福岡県 (公立)	全国 (公立)
17問	230	0.5	0.6
16問	1,009	2.4	2.6
15問	2,197	5.2	5.5
14問	3,313	7.8	8.3
△ 13問	4,133	9.8	10.1
12問	4,501	10.7	10.6
11問	4,378	10.4	10.2
◇ 10問	4,027	9.5	9.3
9問	3,634	8.6	8.2
8問	3,170	7.5	7.1
▽ 7問	2,671	6.3	6.1
6問	2,252	5.3	5.3
5問	1,929	4.6	4.5
4問	1,660	3.9	3.9
3問	1,284	3.0	3.2
2問	952	2.3	2.4
1問	586	1.4	1.5
0問	291	0.7	0.9


※今回の調査での四分位は以下の通りでした。

	福岡県 (公立)	全国 (公立)
△ 第3四分位	13.0問	13.0問
◇ 第2四分位	10.0問	10.0問
▽ 第1四分位	7.0問	7.0問

福岡県の特徴

- ◇ 正答率が高い問題(2問)    ○ 全国と比べて本県の成果がうかがえる問題  
◆ 正答率が低い問題(2問)    ● 全国と比べて本県の課題がうかがえる問題    ※ ◇と○、◆と●が重複の場合、「差」の値に下線

番号・形式	出題の趣旨	福岡県	全国	差
1 (1) 短答式	◇ 赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、赤玉土の量と水の量を正しく設定した実験の方法を発想し、表現することができるかどうかをみる	79.3	79.5	-0.2
2 (3) 短答式	◇ 電流がつくる磁力について、電磁石の強さは巻数によって変わることの知識が身に付いているかどうかをみる	78.8	78.0	+0.8
3 (3) 選択式	○ 発芽するために必要な条件について、実験の条件を制御した解決の方法を発想し、表現することができるかどうかをみる	63.3	62.0	+1.3
2 (1) 選択式	◆ 身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引き付けられる物があることの知識が身に付いているかどうかをみる	10.3	10.6	-0.3
3 (4) 記述式	◆ レタスの種子の発芽の条件について、差異点や共通点を基に、新たな問題を見だし、表現することができるかどうかをみる	33.0	29.9	+3.1
3 (2) 選択式	● 顕微鏡を操作し、適切な像にするための技能が身に付いているかどうかをみる	38.8	45.6	-6.8



小学校理科では、特に、「顕微鏡を操作し、適切な像にするための技能」に課題が見られました。

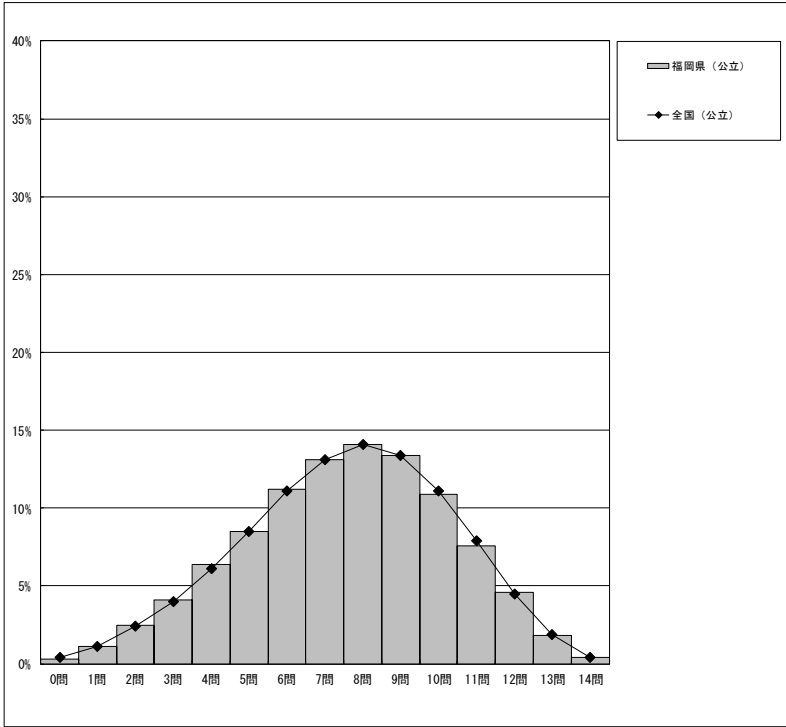
学習指導に当たっては、顕微鏡を実際に操作する機会を増やし、様々な状態を想定して実際に操作するような学習場面を設定することが考えられます。

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	正答率(%)		無解答率(%)	
			福岡県 (公立)	全国 (公立)	福岡県 (公立)	全国 (公立)
1 (1)	赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み時間の違いを調べる実験の条件について、コップAの土の量と水の量から、コップBの条件を書く	赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、赤玉土の量と水の量を正しく設定した実験の方法を発想し、表現することができるかどうかをみる	79.3	79.5	1.9	2.5
1 (2)	赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いをまとめたわけについて、結果を用いて書く	赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、結果を基に結論を導いた理由を表現することができるかどうかをみる	61.6	60.5	7.0	8.5
1 (3)	【結果】や【問題に対するまとめ】から、中くらいの粒の赤玉土に水がしみ込む時間を予想し、予想した理由とともに選ぶ	赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、【結果】や【問題に対するまとめ】を基に、他の条件での結果を予想して、表現することができるかどうかをみる	78.5	77.8	0.6	0.9
2 (1)	アルミニウム、鉄、銅について、電気を通すか、磁石に引き付けられるか、それぞれの性質に当てはまるものを選ぶ	身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引き付けられる物があることの知識が身に付いているかどうかをみる	10.3	10.6	0.4	0.6
2 (2)	電気を通す物と通さない物でできた人形について、人形Aの剣を人形Bに当てたときだけ、ベルが鳴る回路を選ぶ	電気の回路のつくり方について、実験の方法を発想し、表現することができるかどうかをみる	42.1	42.9	0.4	0.6
2 (3)	ベルをたたく装置の電磁石について、電流がつくる磁力を強めるため、コイルの巻数の変え方を書く	電流がつくる磁力について、電磁石の強さは巻数によって変わることの知識が身に付いているかどうかをみる	78.8	78.0	2.0	2.7
2 (4)	乾電池2個のつなぎ方について、直列につなぎ、電磁石を強くできるものを選ぶ	乾電池のつなぎ方について、直列つなぎに関する知識が身に付いているかどうかをみる	55.4	55.1	0.6	0.8
3 (1)	ヘチマの花のおしべとめしべについて選び、受粉について書く	ヘチマの花のつくり方や受粉についての知識が身に付いているかどうかをみる	71.2	70.7	1.0	1.5
3 (2)	ヘチマの花粉を顕微鏡で観察するとき、適切な像にするための顕微鏡の操作を選ぶ	顕微鏡を操作し、適切な像にするための技能が身に付いているかどうかをみる	38.8	45.6	0.5	0.8
3 (3)	ヘチマの種子が発芽する条件を調べる実験において、条件を制御した解決の方法を選ぶ	発芽するために必要な条件について、実験の条件を制御した解決の方法を発想し、表現することができるかどうかをみる	63.3	62.0	1.1	1.7
3 (4)	レタスの種子の発芽の結果から、てるみさんの気付きを基に、見いだした問題について書く	レタスの種子の発芽の条件について、差異点や共通点を基に、新たな問題を見だし、表現することができるかどうかをみる	33.0	29.9	9.3	11.4
4 (1)	水の温まり方について、問題に対するまとめをいうために、調べる必要があることについて書く	水の温まり方について、問題に対するまとめを導き出す際、解決するための観察、実験の方法が適切であったかを検討し、表現することができるかどうかをみる	50.1	50.6	5.1	6.1
4 (2) イウ	水の蒸発について、温度によって水の状態が変化するという知識と関連付け、適切に説明しているものを選ぶ	水の蒸発について、温度によって水の状態が変化するという知識を基に、概念的に理解しているかどうかをみる	64.9	64.2	0.9	1.3
4 (2) エオ	水の結露について、温度によって水の状態が変化するという知識と関連付け、適切に説明しているものを選ぶ	水の結露について、温度によって水の状態が変化するという知識を基に、概念的に理解しているかどうかをみる	55.8	57.5	1.1	1.5
4 (3) カ	海にある水がとけることについて、水が氷に変わる温度を根拠に予想しているものを選ぶ	水が氷に変わる温度を根拠に、オホーツク海の水の面積が減少した理由を予想し、表現することができるかどうかをみる	59.4	59.8	1.6	2.3
4 (3) キ	水が陸から海へ流れていくことについて、水の行方と関連付けているものを選ぶ	水がとけてできた水が海に流れていくことの根拠について、理科で学習したことと関連付けて、知識を概念的に理解しているかどうかをみる	60.0	60.9	1.7	2.4
4 (3) ク	海面水位の上昇について、水の温度による体積の変化を根拠に予想しているものを選ぶ	「水は温まると体積が増える」を根拠に、海面水位の上昇した理由を予想し、表現することができるかどうかをみる	65.1	65.6	1.8	2.5

4 中学校国語

	生徒数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
福岡県（公立）	40,284	7.6 / 14	54	8.0	2.7
全国（公立）	870,560	7.6 / 14	54.3	8.0	2.7

正答数分布グラフ（横軸：正答数 縦軸：割合）



正答数集計値			
正答数	生徒数	割合(%)	
		福岡県（公立）	全国（公立）
14問	165	0.4	0.4
13問	730	1.8	1.9
12問	1,849	4.6	4.5
11問	3,077	7.6	7.9
△ 10問	4,403	10.9	11.1
9問	5,385	13.4	13.4
◇ 8問	5,663	14.1	14.1
7問	5,289	13.1	13.1
▽ 6問	4,508	11.2	11.1
5問	3,419	8.5	8.5
4問	2,560	6.4	6.1
3問	1,656	4.1	4.0
2問	999	2.5	2.4
1問	455	1.1	1.1
0問	126	0.3	0.4

※今回の調査での四分位は以下の通りでした。

	福岡県（公立）	全国（公立）
△ 第3四分位	10.0問	10.0問
◇ 第2四分位	8.0問	8.0問
▽ 第1四分位	6.0問	6.0問

福岡県の特徴

- ◇ 正答率が高い問題（2問） ○ 全国と比べて本県の成果がうかがえる問題  
◆ 正答率が低い問題（2問） ● 全国と比べて本県の課題がうかがえる問題 ※ ◇と○、◆と●が重複の場合、「差」の値に下線

番号・形式	出題の趣旨	福岡県	全国	差
3二 短答式	◇ 文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方を捉えることができるかどうかをみる	89.7	89.9	-0.2
1二 選択式	◇ 目的に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができるかどうかをみる	82.7	82.5	+0.2
3一 選択式	○ 表現の効果について、根拠を明確にして考えることができるかどうかをみる	80.1	80.0	+0.1
3四 記述式	◆ 文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることができるかどうかをみる	17.1	17.1	0
2四 記述式	◆ 資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる	24.6	23.2	+1.4
4二 記述式	● 読み手の立場に立って、語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができるかどうかをみる	27.5	30.1	-2.6



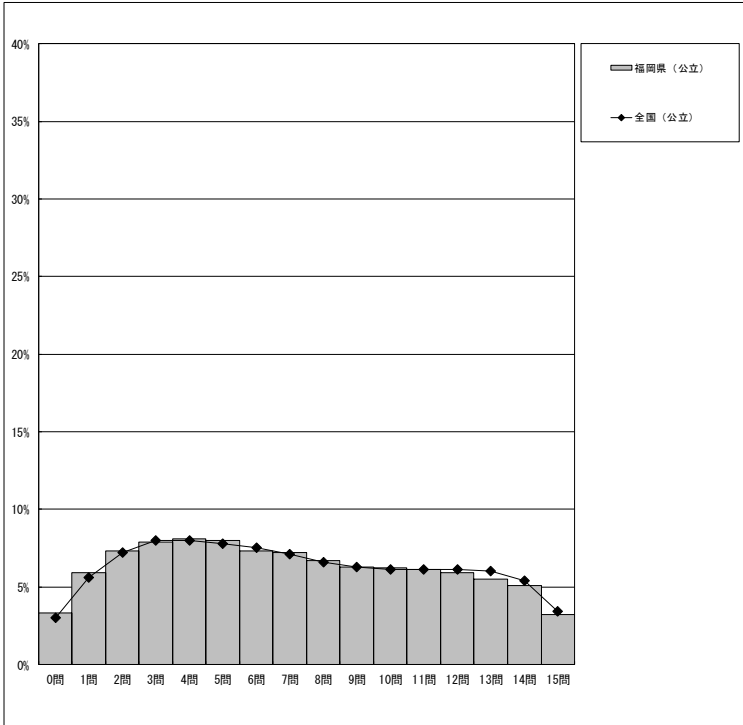
中学校国語では、特に、「読み手の立場に立って、語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えること」に課題が見られました。  
学習指導に当たっては、行事後に書いた作文など、これまでに書いた文章を時間を置いて読み返し、観点を明確にして文章を整えたり、具体的な相手を想定して読み返し、伝えようとすることが伝わるかどうかを確かめたりするような学習場面を設定することが考えられます。

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	正答率(%)		無解答率(%)	
			福岡県 (公立)	全国 (公立)	福岡県 (公立)	全国 (公立)
1 一	変換した漢字として適切なものを選択する (かいしん)	文脈に即して漢字を正しく使うことができるかどうかをみる	32.8	35.2	0.1	0.2
1 二	ちらしに「会場図」を加えた目的を説明したものとして適切なものを選択する	目的に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができるかどうかをみる	82.7	82.5	0.1	0.2
1 三	ちらしの中の情報について、示す位置を変えた意図を説明したものとして適切なものを選択する	書く内容の中心が明確になるように、内容のまとまりを意識して文章の構成や展開を考えることができるかどうかをみる	61.7	63.3	0.4	0.5
1 四	ちらしの読み手に向けて、今年の美術展の工夫について伝える文章を書く	自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができるかどうかをみる	31.4	31.0	1.2	1.6
2 一	スライドを使ってどのように話しているのかを説明したものとして適切なものを選択する	資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる	38.7	38.1	0.3	0.3
2 二	聞き手の反応を見て発した言葉について、そのように発言した理由を説明したものとして適切なものを選択する	相手の反応を踏まえながら、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる	77.6	77.9	0.2	0.3
2 三	「話の順序を入れ替えた方がよい」という助言の意図を説明したものとして適切なものを選択する	自分の考えが明確になるように、論理の展開に注意して、話の構成を工夫することができるかどうかをみる	73.4	73.4	0.6	0.6
2 四	発表のまとめの内容をより分かりやすく伝えるためのスライドの工夫について、どのような助言をするか、自分の考えを書く	資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる	24.6	23.2	3.4	4.0
3 一	物語の始めに問いかけが示されていることについて、その効果を説明したものとして適切なものを選択する	表現の効果について、根拠を明確にして考えることができるかどうかをみる	80.1	80.0	0.6	0.5
3 二	「兄」と「弟」が、物語の中でどのような性格の人物として描かれているかを書く	文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方を捉えることができるかどうかをみる	89.7	89.9	3.9	4.0
3 三	「しきりと」の意味として適切なものを選択する	事象や行為を表す語彙について理解しているかどうかをみる	61.5	61.0	0.9	0.8
3 四	「一 榎木の実」に書かれている場面が、「二 釣の話」には書かれていないことによる効果について、自分の考えとそう考えた理由を書く	文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることができるかどうかをみる	17.1	17.1	26.9	28.1
4 一	手紙の下書きを見直し、誤って書かれている漢字を見付けて修正する	読み手の立場に立って、表記を確かめて、文章を整えることができるかどうかをみる	57.0	57.3	34.3	33.5
4 二	手紙の下書きを見直し、修正した方がよい部分を見付けて修正し、修正した方がよいと考えた理由を書く	読み手の立場に立って、語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができるかどうかをみる	27.5	30.1	19.9	19.1

5 中学校数学

	生徒数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
福岡県（公立）	40,323	7.1 / 15	47	7.0	4.2
全国（公立）	871,097	7.2 / 15	48.3	7.0	4.2

正答数分布グラフ（横軸：正答数 縦軸：割合）



正答数集計値			
正答数	生徒数	割合(%)	
	福岡県 (公立)	福岡県 (公立)	全国 (公立)
15問	1,279	3.2	3.4
14問	2,053	5.1	5.4
13問	2,218	5.5	6.0
12問	2,374	5.9	6.1
△ 11問	2,451	6.1	6.1
10問	2,514	6.2	6.1
9問	2,534	6.3	6.3
8問	2,704	6.7	6.6
◇ 7問	2,889	7.2	7.1
6問	2,961	7.3	7.5
5問	3,212	8.0	7.8
▽ 4問	3,286	8.1	8.0
3問	3,191	7.9	8.0
2問	2,950	7.3	7.2
1問	2,372	5.9	5.6
0問	1,335	3.3	3.0

※今回の調査での四分位は以下の通りでした。

	福岡県 (公立)	全国 (公立)
△ 第3四分位	11.0問	11.0問
◇ 第2四分位	7.0問	7.0問
▽ 第1四分位	4.0問	4.0問

福岡県の特徴

- ◇ 正答率が高い問題(2問)    ○ 全国と比べて本県の成果がうかがえる問題  
◆ 正答率が低い問題(2問)    ● 全国と比べて本県の課題がうかがえる問題    ※ ◇と○、◆と●が重複の場合、「差」の値に下線

番号・形式	出題の趣旨	福岡県	全国	差
7(1) 短答式	◇ 必ず起こる事柄の確率について理解しているかどうかをみる	77.2	77.4	-0.2
8(1) 選択式	◇ 事象に即して、グラフから必要な情報を読み取ることができるかどうかをみる	70.4	71.9	-1.5
5 短答式	○ 相対度数の意味を理解しているかどうかをみる	45.6	42.5	+3.1
6(2) 記述式	◆ 式の意味を読み取り、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる	25.2	25.7	-0.5
4 短答式	◆ 一次関数 $y=ax+b$ について、変化の割合を基に、 $x$ の増加量に対する $y$ の増加量を求めることができるかどうかをみる	31.2	34.7	-3.5
9(3) 記述式	● ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することができるかどうかをみる	31.5	33.2	-1.7



中学校数学では、特に、「ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明すること」に課題が見られました。  
学習指導に当たっては、仮定や仮定から分かる事柄、結論を導くために必要な事柄を明らかにするなどして証明の方針を立て、その方針を基に推論の過程を数学的に表現するような学習場面を設定することが考えられます。

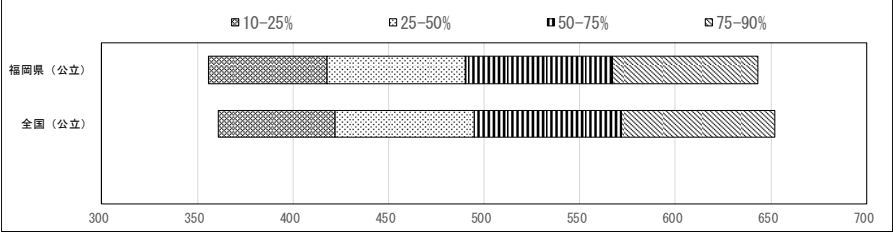
問題番号	問題の概要	出題の趣旨	正答率(%)		無解答率(%)	
			福岡県 (公立)	全国 (公立)	福岡県 (公立)	全国 (公立)
1	1 から 9 までの数の中から素数を全て選ぶ	素数の意味を理解しているかどうかをみる	31.9	31.8	0.5	0.7
2	果汁 4 0 % の飲み物 a m L に含まれる果汁の量を、a を用いた式で表す	数量を文字を用いた式で表すことができるかどうかをみる	51.1	51.9	6.6	7.3
3	$\triangle ABC$ において、 $\angle A$ の大きさが $50^\circ$ のときの頂点 A における外角の大きさを求める	多角形の外角の意味を理解しているかどうかをみる	56.1	58.1	2.1	2.0
4	一次関数 $y = 6x + 5$ について、x の増加量が 2 のときの y の増加量を求める	一次関数 $y = ax + b$ について、変化の割合を基に、x の増加量に対する y の増加量を求めることができるかどうかをみる	31.2	34.7	8.0	8.0
5	ある学級の生徒 4 0 人のハンドボール投げの記録をまとめた度数分布表から、2 0 m 以上 2 5 m 未満の階級の相対度数を求める	相対度数の意味を理解しているかどうかをみる	45.6	42.5	8.6	9.4
6 (1)	連続する二つの 3 の倍数の和が 9 の倍数になるとは限らないことの説明を完成するために、予想が成り立たない例をあげ、その和を求める	事柄が常に成り立つとは限らないことを説明する場面において、反例をあげることができるかどうかをみる	62.1	62.8	4.3	4.6
6 (2)	$3n$ と $3n + 3$ の和を $2(3n + 1) + 1$ と表した式から、連続する二つの 3 の倍数の和がどんな数であるかを説明する	式の意味を読み取り、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる	25.2	25.7	21.9	24.9
6 (3)	連続する三つの 3 の倍数の和が、9 の倍数になることの説明を完成する	目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるかどうかをみる	47.1	45.2	20.0	20.2
7 (1)	A の手元のカードが 3 枚とも「グー」、B の手元のカードが 3 枚とも「チョキ」でじゃんけんカードゲームの 1 回目を行うとき、1 回目に A が勝つ確率を書く	必ず起こる事柄の確率について理解しているかどうかをみる	77.2	77.4	3.1	3.2
7 (2)	A の手元のカードが「グー」、「チョキ」、「パー」、「パー」の 4 枚、B の手元のカードが「グー」、「チョキ」の 2 枚のとき、A と B の勝ちやすさについての正しい記述を選び、その理由を確率を用いて説明する	不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる	56.6	55.9	1.8	2.2
8 (1)	A 駅からの走行距離と運賃の関係を表すグラフの何を読み取れば C 駅と D 駅の間の走行距離が分かるかを選ぶ	事象に即して、グラフから必要な情報を読み取ることができるかどうかをみる	70.4	71.9	2.0	2.3
8 (2)	A 駅から 6 0 . 0 km 地点につくられる新しい駅の運賃がおおよそ何円になるかを求める方法を説明する	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる	37.6	38.0	36.2	35.0
9 (1)	四角形 A E C F が平行四辺形であることの証明を振り返り、新たに分かることを選ぶ	証明を振り返り、証明された事柄を基にして、新たに分かる辺や角についての関係を見いだすことができるかどうかをみる	56.0	58.5	1.0	1.1
9 (2)	平行四辺形 A B C D の辺 C B、A D を延長した直線上に $BE = DF$ となる点 E、F を取っても、四角形 A E O F は平行四辺形となることの証明を完成する	統合的・発展的に考え、条件を変えた場合について、証明を評価・改善することができるかどうかをみる	32.0	36.3	5.8	7.2
9 (3)	平行四辺形 A B C D の辺 B C、D A を延長した直線上に $BE = DF$ となる点 E、F を取り、辺 A B と線分 F C の交点を G、辺 D C と線分 A E の交点を H としたとき、四角形 A G C H が平行四辺形になることを証明する	ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することができるかどうかをみる	31.5	33.2	28.0	31.5

6 中学校理科

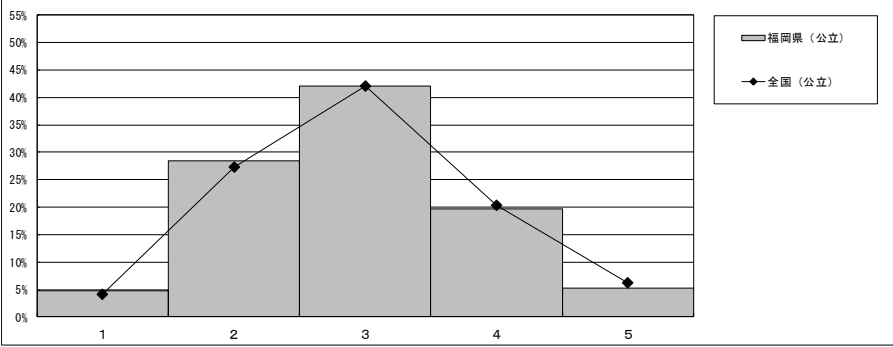
IRTスコア集計値

	平均IRTスコア	標準偏差	パーセンタイル値				
			10%	25%	50%	75%	90%
福岡県（公立）	497	119.5	356	418	490	567	643
全国（公立）	503	124.0	361	422	495	572	652

IRTスコア分布グラフ（パーセンタイル値：10%、25%、50%、75%、90%）



IRTバンド分布グラフ（横軸：IRTバンド 縦軸：割合）



IRTバンド集計値

IRT バンド	生徒数	割合（%）	
		福岡県 （公立）	全国 （公立）
5	2,093	5.2	6.2
4	7,924	19.7	20.3
3	16,897	42.0	42.0
2	11,422	28.4	27.3
1	1,885	4.7	4.2

福岡県の特徴

- ◇ 正答率が高い問題（2問） ○ 全国と比べて本県の成果がうかがえる問題  
◆ 正答率が低い問題（2問） ● 全国と比べて本県の課題がうかがえる問題 ※ ◇と○、◆と●が重複の場合、「差」の値に下線

番号・形式	出題の趣旨	福岡県	全国	差
2（2） 選択式	◇ ストローの太さと音の高低に関する情報を収集してまとめるを行う学習活動の場面で、収集する資料や情報の信頼性についての知識及び技能が身に付いているかどうかをみる	93.3	94.6	-1.3
4（2） 選択式	◇ 火災における適切な避難行動を問うことで、気体の性質に関する知識が概念として身に付いているかどうかをみる	92.5	92.8	-0.3
9（2） 選択式	○ 気圧に関する身近な事象を問うことで、気圧の知識が概念として身に付いているかどうかをみる	61.0	58.1	+2.9
2（1） 選択式	◆ 【考察】をより確かなものにするために、音に関する知識及び技能を活用して、変える条件に着目した実験を計画し、予想される実験の結果を適切に説明できるかどうかをみる	12.1	14.0	-1.9
8（2） 記述式	◆ 大地の変化について、時間的・空間的な見方を働かせて、土地の様子とボーリング調査の結果を関連付けて、地層の広がりを検討して表現できるかどうかをみる	17.6	18.1	-0.5
6（1） 選択式	● スケッチから分かることを問うことで、スケッチに関する知識及び技能が身に付いているかどうかをみる	62.5	65.9	-3.4

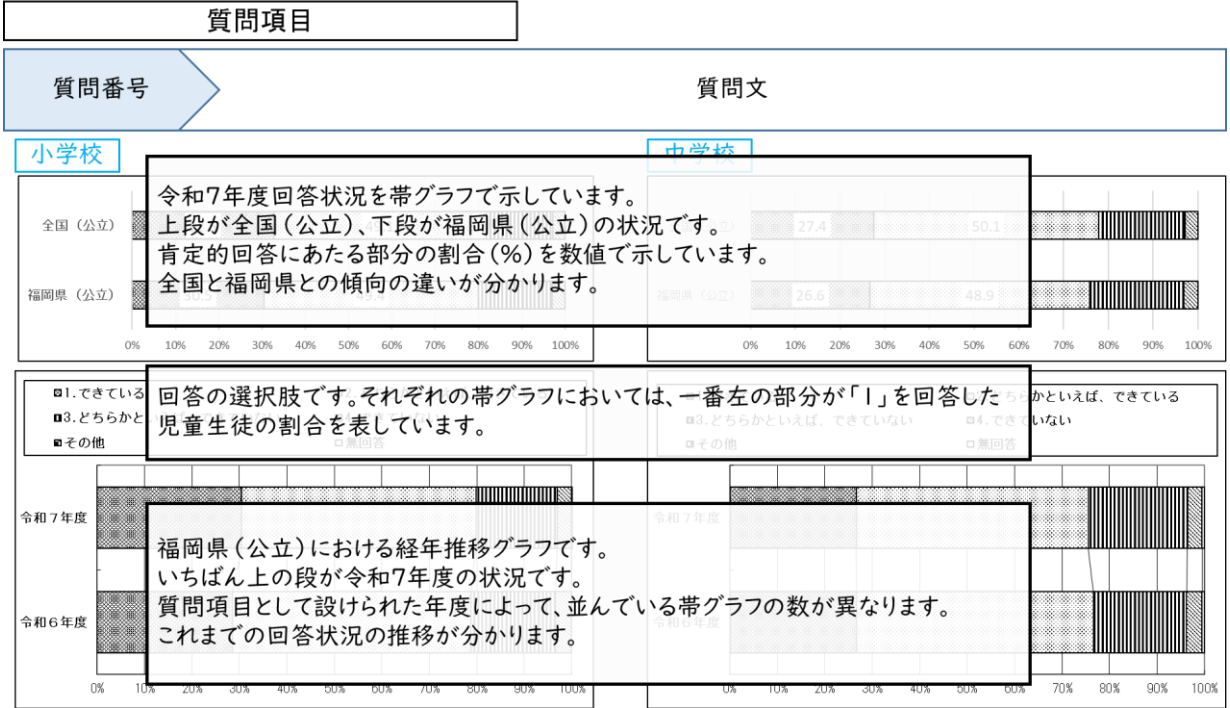


中学校理科では、特に、「スケッチに関する知識及び技能」に課題が見られました。  
学習指導に当たっては、お互いのスケッチを見せ合い、良い点や改善すべき点を話し合ったり、模範のスケッチと自分のスケッチを比較したりする学習場面を設定することが考えられます。

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	正答率(%)		無解答率(%)		問題の難易度
			福岡県 (公立)	全国 (公立)	福岡県 (公立)	全国 (公立)	
1 (1)	電熱線を利用して水を温めるための電気回路について、直列と並列とで回路全体の抵抗が大きい装置や速く水が温まる装置を選択する	電熱線で水を温める学習場面において、回路の電流・電圧と抵抗や熱量に関する知識及び技能が身に付いているかどうかをみる	51.5	51.9	0.1	0.2	5
1 (2)	「理科の実験では、なぜ水道水ではなく精製水を使うのかな？」という疑問を解決するための課題を記述する	身の回りの事象から生じた疑問や見いだした問題を解決するための課題を設定できるかどうかをみる	42.9	46.2	7.9	8.0	5
1 (3)	地層1から地層4までの性質から、水が染み出る場所を判断し、その場所を選択する	露頭のどの位置から水が染み出るかを観察する場面において、小学校で学習した知識を基に、地層に関する知識及び技能を関連付けて、地層を構成する粒の大きさとすき間の大きさに着目して分析して解釈できるかどうかをみる	35.4	36.2	0.5	0.6	5
1 (4)	生物1から生物4までの動画を見て、呼吸を行う生物をすべて選択する	水の中の生物を観察する場面において、呼吸を行う生物について問うことで、生命を維持する働きに関する知識が概念として身に付いているかどうかをみる	29.2	29.7	0.1	0.2	5
1 (5)	塩素の元素記号を記述する	塩素の元素記号を問うことで、元素を記号で表すことに関する知識及び技能が身に付いているかどうかをみる	44.7	44.9	7.6	8.5	4
1 (6)	水道水と精製水に関する2人の発表を見て、探究の過程におけるあなたの振り返りを記述する	科学的な探究を通してまとめたものを他者が発表する学習場面において、探究から生じた新たな疑問や身近な生活との関連などに着目した振り返りを表現できるかどうかをみる	79.9	79.4	9.2	9.9	3
2 (1)	【考察】をより確かなものにするために必要な実験を選択し、予想される実験の結果を記述する	【考察】をより確かなものにするために、昔に関する知識及び技能を活用して、実る条件に着目した実験を計画し、予想される実験の結果を適切に説明できるかどうかをみる	12.1	14.0	1.5	1.9	5
2 (2)	「Webページの情報だけを借用して考察してよいか」について判断し、その理由として適切なものをすべて選択する	ストーリーの太さと音の高低に関する情報を収集してまとめを行う学習活動の場で、収集する資料や情報の信頼性についての知識及び技能が身に付いているかどうかをみる	93.3	94.6	0.1	0.1	2
3 (1)	設定した【仮説】が正しい場合の実験結果の予想を選択する	仮説を立てて科学的に探究する学習場面において、電気回路に関する知識及び技能を活用して、仮説が正しい場合の結果を予想することができるかどうかをみる	34.3	34.9	0.2	0.2	5
3 (2)	抵抗に関する知識を手掛かりに、身近な電気回路に抵抗がついている理由を選択する	身近な電化製品の電気回路について探究する学習場面において、回路に抵抗がついている理由を問うことで、抵抗に関する知識が概念として身に付いているかどうかをみる	84.3	85.2	0.1	0.1	2
4 (1)	プロパンガスと都市ガスでシャボン玉を作ったときの様子から、プロパンガス、都市ガス、空気の密度の大小を判断し、小さい順に並べる	ガス警報器の設置場所が異なる理由を考える学習場面において、実験の様子と、密度に関する知識および技能を関連付けて、それぞれの気体の密度の大小関係を分析して解釈できるかどうかをみる	49.2	50.4	0.2	0.1	4
4 (2)	「一酸化炭素は空気より軽い」という性質を基に、適切な避難行動を選択する	火災における適切な避難行動を問うことで、気体の性質に関する知識が概念として身に付いているかどうかをみる	92.5	92.8	0.1	0.1	2
5 (1)	加熱を伴う実験において、火傷をしたときの適切な応急処置を選択する	加熱を伴う実験における実験器具の操作等に関する技能が身に付いているかどうかを見る	91.9	93.0	0.1	0.1	1
5 (2)	実験の動画と実験結果の図から、どのような化学変化が起きているか判断し、原子や分子のモデルを移動させることで、その化学変化をモデルで表す	化学変化に関する知識及び技能を活用して、実験の結果を分析して解釈し、化学変化を原子や分子のモデルで表すことができるかどうかをみる	35.3	35.6	4.0	4.6	4
6 (1)	牧野富太郎の「ノジギク」のスケッチから分かるスケッチの技能について、適切なものを選択する	スケッチから分かることを問うことで、スケッチに関する知識及び技能が身に付いているかどうかをみる	62.5	65.9	0.2	0.2	4
6 (2)	牧野富太郎の「サクユリ」のスケッチから、サクユリの【茎の横断面】、【根】として適切なものを判断し、選択する	スケッチから分かる植物の特徴を基に、植物の葉、茎、根のつくりに関する知識及び技能を活用して、植物の茎の横断面や根の構造について適切に表現できるかどうかをみる	41.5	41.9	0.1	0.1	4
7 (1)	小腸の柔毛、肺の肺胞、根毛に共通する構造と同じ構造をもつものとして適切な事象を判断し、選択する	小腸の柔毛、肺の肺胞、根毛に共通する構造について学習する場面において、共通性と多様性の見方を働かせながら比較し、多面的、総合的に分析して解釈することができるかどうかをみる	33.6	34.8	0.2	0.2	5
7 (2)	消化によってデンプンがブドウ糖に分解されることと、同じ化学変化であるものを選択する	分解に関する身近な事象を問うことで、これまでに学習した理科の知識及び技能を基に、化学変化の分解の知識が概念として身に付いているかどうかをみる	54.2	51.6	0.2	0.2	5
8 (1)	大地の変化に関する言い伝えを1つ選択し、その選択した言い伝えが科学的に正しいと判断するための理由を「地層を調べたときに何が分ればよいか」に着目して記述する	地域の言い伝えを科学的に探究する学習場面において、大地の変化と、地層の様子やその構成物に関する知識及び技能を関連付けて、地層の重なり方や広がり方を推定できるかどうかをみる	44.3	42.2	3.0	3.2	4
8 (2)	Aさんの考えを肯定するためにはボーリング地点③の結果がどのようなになればよいかを判断し、青色の地層を移動させ、ボーリング地点③の結果をモデルで示す	大地の変化について、時間的・空間的な見方を働かせて、土地の様子とボーリング調査の結果を関連付けて、地層の広がりを検討して表現できるかどうかをみる	17.6	18.1	1.1	1.1	5
9 (1)	【予想】から学習した内容が反映されたAさんの【振り返り】を読み、Aさんの【予想】を判断し、選択する	気圧について科学的に探究する場面において、状態変化や圧力に関する知識及び技能を基に、予想が反映された振り返りについて問うことで、探究の過程の見通しについて分析して解釈できるかどうかをみる	31.6	31.8	0.3	0.3	5
9 (2)	クリーンルームのほかに気圧を利用している身近な事象を選択する	気圧に関する身近な事象を問うことで、気圧の知識が概念として身に付いているかどうかをみる	61.0	58.1	0.2	0.3	4

## I 児童生徒質問調査に関する調査結果

本県において育成を目指す「資質・能力」である「学びに向かう力、人間性等」の4項目「学びを調整する力」「粘り強く挑む力」「自己有用感・自己効力感」「協働する力」の状況について、児童生徒質問調査結果を示す。



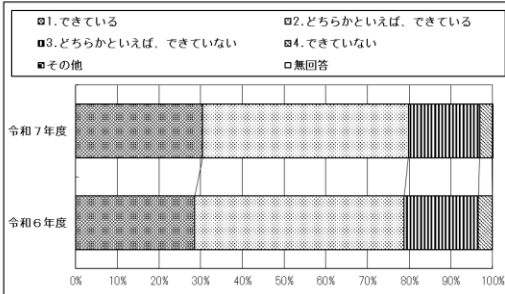
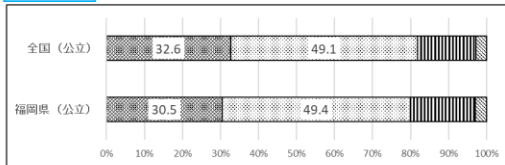
### (1) 学びを調整する力

自分で学び方を考え、工夫できている

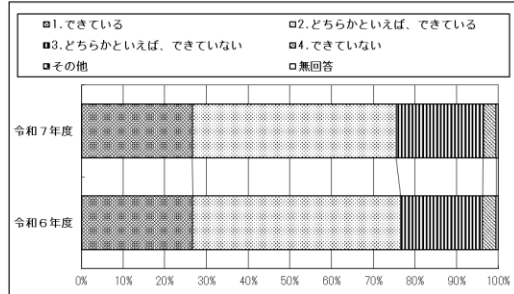
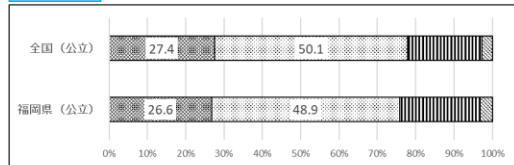
児童[16]  
生徒[16]

分からないことやよくしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか。

小学校



中学校

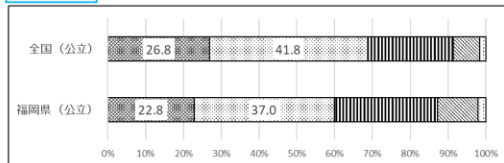


## 授業で工夫して発表していた

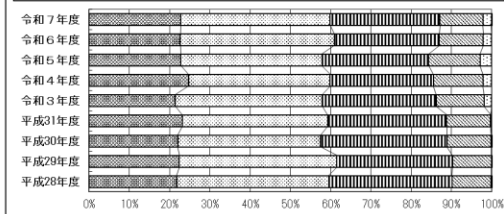
児童〔31〕  
生徒〔31〕

5年生まで〔1、2年生のとき〕に受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。

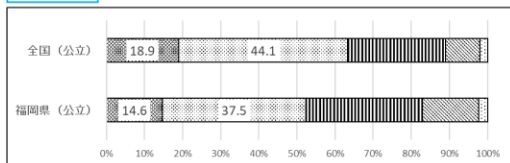
### 小学校



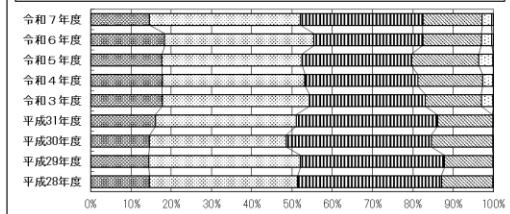
☐ 1.発表していた  
☐ 2.どちらかといえば、発表していた  
☐ 3.どちらかといえば、発表していなかった  
☐ 4.発表していなかった  
☐ 5.考えを発表する機会 was なかった  
☐ その他  
☐ 無回答



### 中学校



☐ 1.発表していた  
☐ 2.どちらかといえば、発表していた  
☐ 3.どちらかといえば、発表していなかった  
☐ 4.発表していなかった  
☐ 5.考えを発表する機会 was なかった  
☐ その他  
☐ 無回答

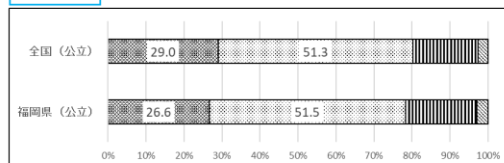


## 課題の解決に向けて自分から取り組んだ

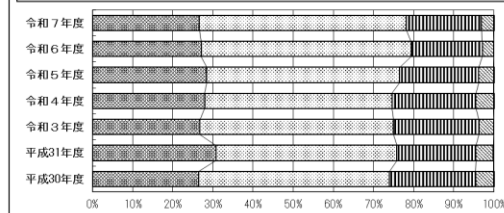
児童〔32〕  
生徒〔32〕

5年生まで〔1、2年生のとき〕に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。

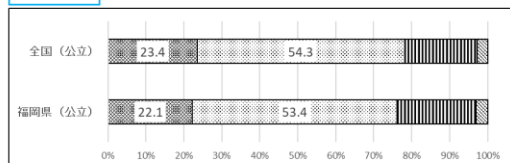
### 小学校



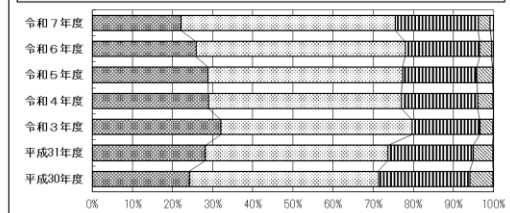
☐ 1.当てはまる  
☐ 2.どちらかといえば、当てはまる  
☐ 3.どちらかといえば、当てはまらない  
☐ 4.当てはまらない  
☐ その他  
☐ 無回答



### 中学校



☐ 1.当てはまる  
☐ 2.どちらかといえば、当てはまる  
☐ 3.どちらかといえば、当てはまらない  
☐ 4.当てはまらない  
☐ その他  
☐ 無回答

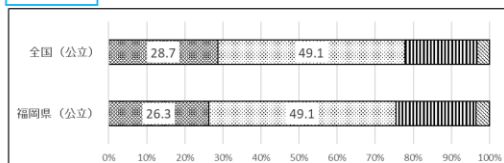


## 学んだことを生かしながら考えをまとめていた

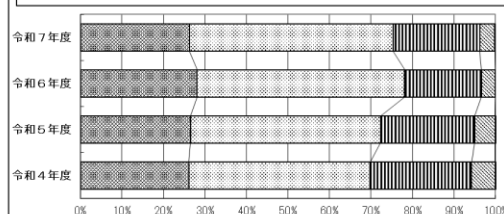
児童〔33〕  
生徒〔33〕

5年生まで〔1、2年生のとき〕に受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか。

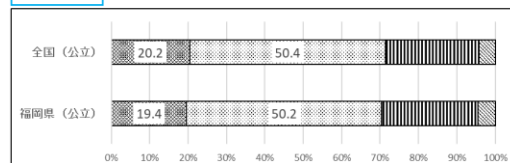
### 小学校



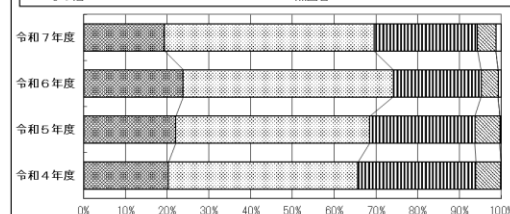
☐ 1.当てはまる  
☐ 2.どちらかといえば、当てはまる  
☐ 3.どちらかといえば、当てはまらない  
☐ 4.当てはまらない  
☐ その他  
☐ 無回答



### 中学校



☐ 1.当てはまる  
☐ 2.どちらかといえば、当てはまる  
☐ 3.どちらかといえば、当てはまらない  
☐ 4.当てはまらない  
☐ その他  
☐ 無回答

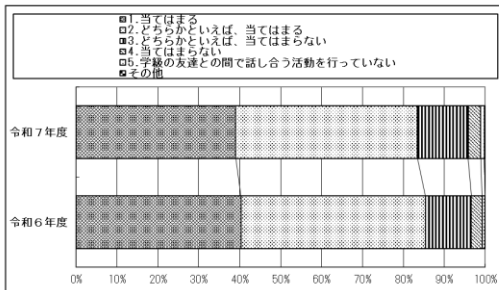
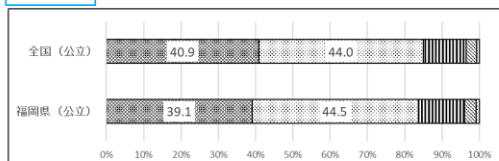


## 話し合いで考えを深めたり新たな考えに気付いたりしている

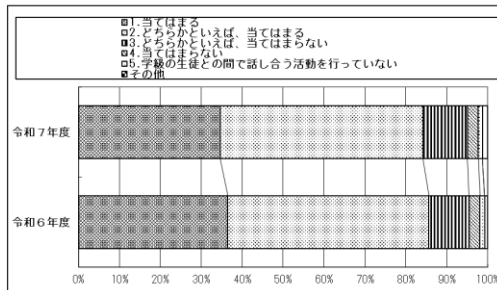
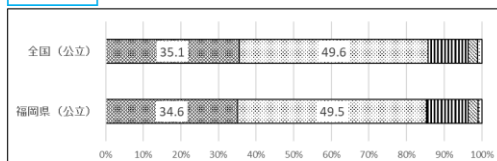
児童[35]  
生徒[35]

学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。

### 小学校



### 中学校

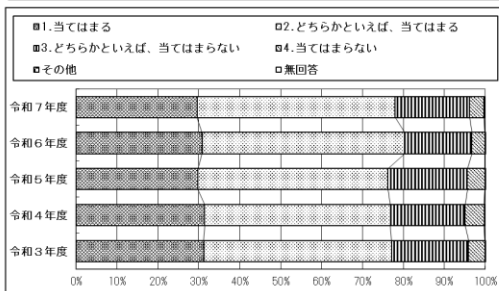
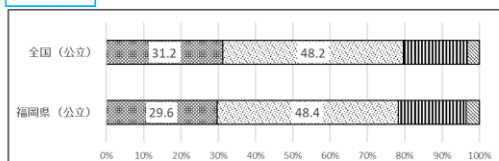


## よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげている

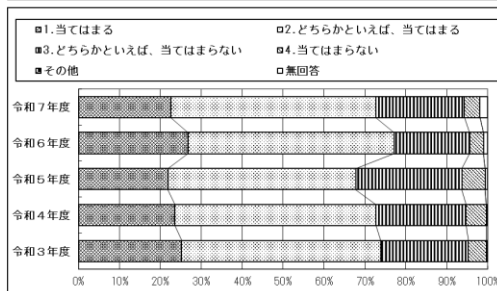
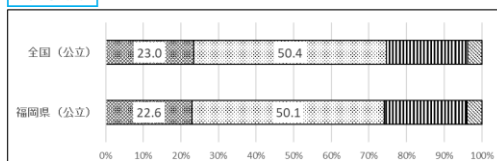
児童[36]  
生徒[36]

学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。

### 小学校



### 中学校

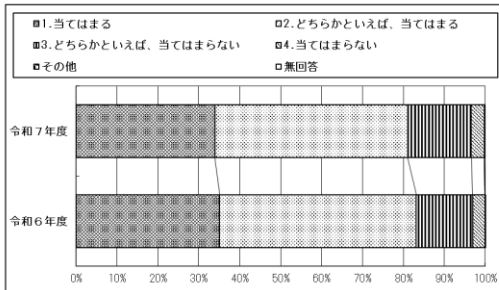
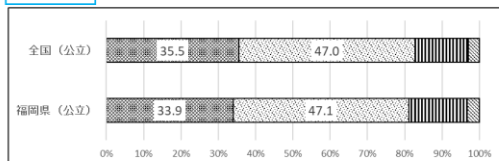


## 授業で学んだことを次の学習や実生活に結びつけたり生かしたりしている

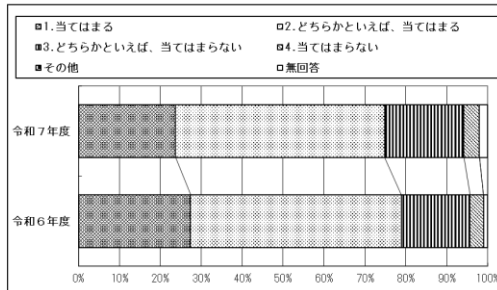
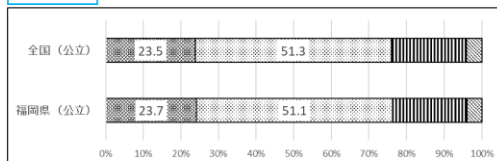
児童[37]  
生徒[37]

授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると感じていますか。

### 小学校



### 中学校



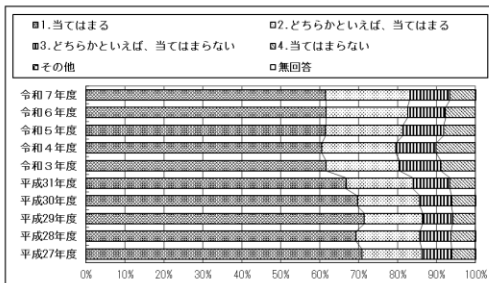
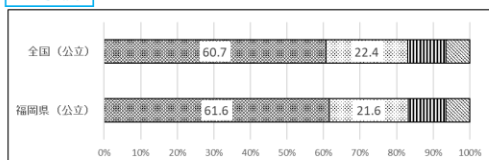
## (2) 粘り強く挑む力

### 将来の夢や目標を持っている

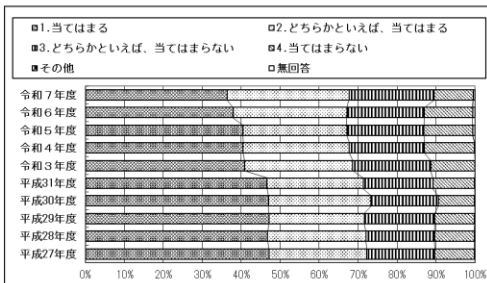
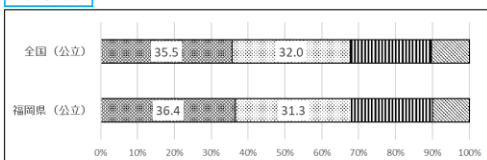
児童〔7〕  
生徒〔7〕

将来の夢や目標を持っていますか。

#### 小学校



#### 中学校

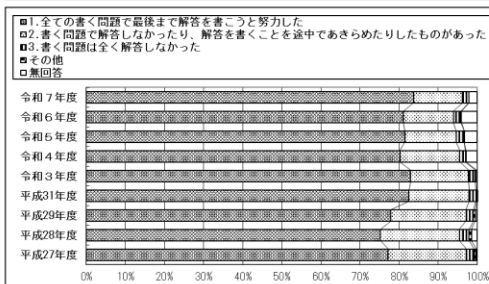
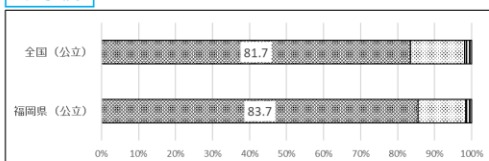


### 国語 解答を文章で書く問題

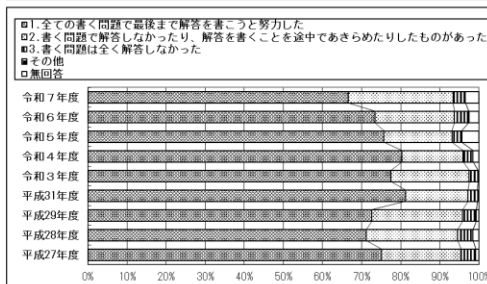
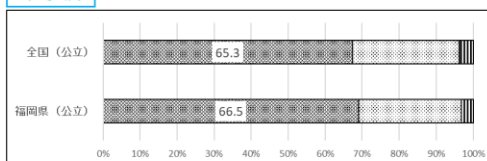
児童〔国1〕  
生徒〔国1〕

今回の国語の問題では、解答を文章で書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか。

#### 小学校



#### 中学校

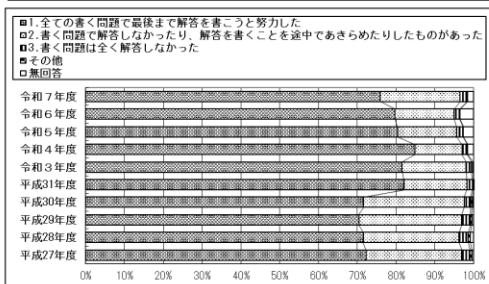
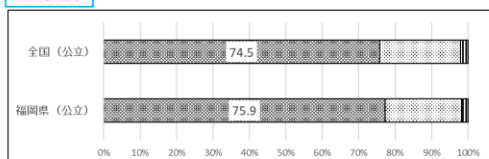


### 算数〔数学〕言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く〔説明する〕問題

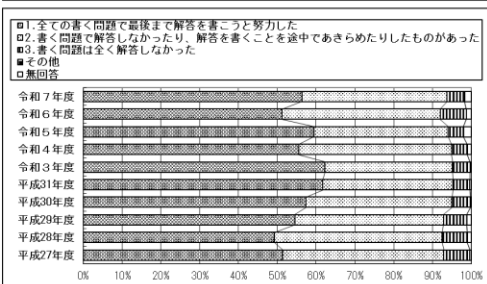
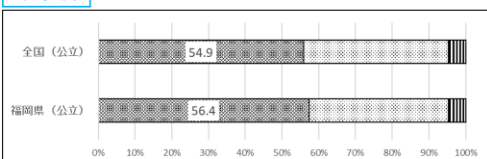
児童〔算1〕  
生徒〔数1〕

今回の算数の問題では、言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題がありました。〔今回の数学の問題では、解答を言葉や数、式を使って説明する問題がありました。〕それらの問題について、どのように解答しましたか。

#### 小学校



#### 中学校



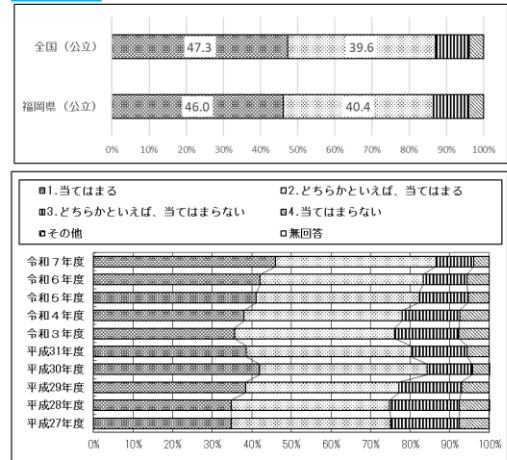
(3) 自己有用感・自己効力感

自分には、よいところがあると思う

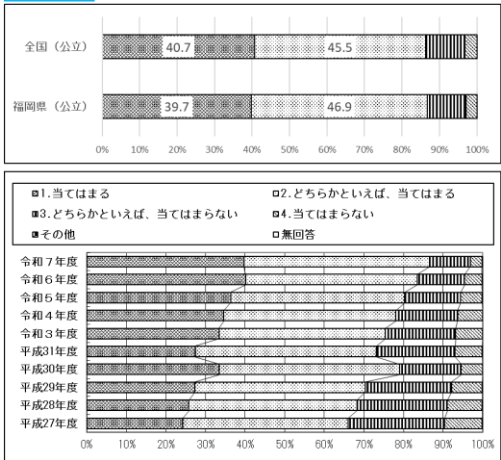
児童〔5〕  
生徒〔5〕

自分には、よいところがあると思いますか。

小学校



中学校

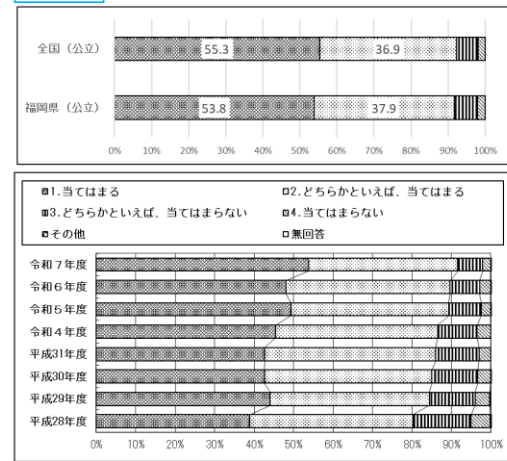


先生がよいところを認めてくれている

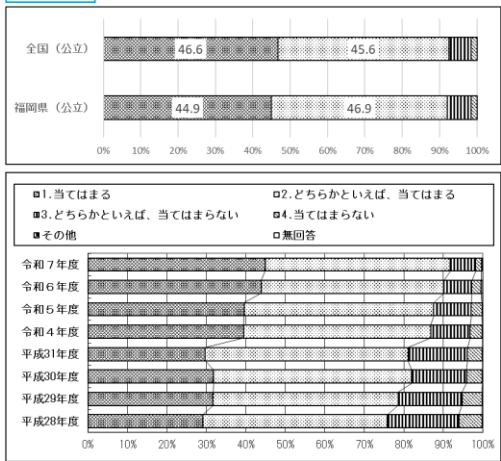
児童〔6〕  
生徒〔6〕

先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。

小学校



中学校



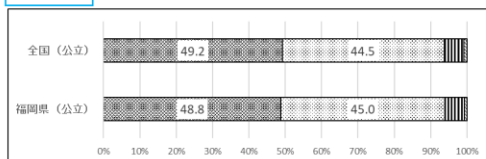
## (4) 協働する力

### 人が困っているとき、進んで助けている

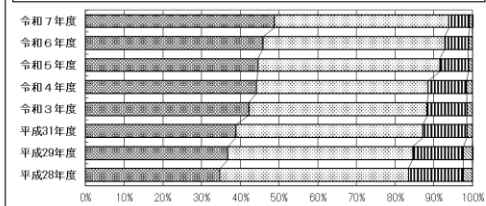
児童〔8〕  
生徒〔8〕

人が困っているときは、進んで助けていますか。

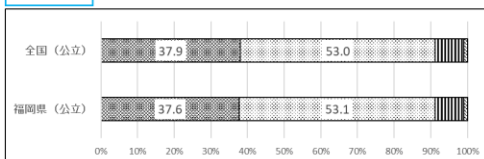
#### 小学校



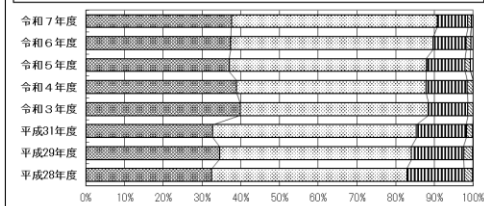
■1. 当てはまる  
■3. どちらかといえば、当てはまらない  
■その他  
■2. どちらかといえば、当てはまる  
■4. 当てはまらない  
□無回答



#### 中学校



■1. 当てはまる  
■3. どちらかといえば、当てはまらない  
■その他  
■2. どちらかといえば、当てはまる  
■4. 当てはまらない  
□無回答

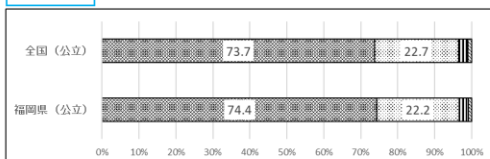


### 人の役に立つ人間になりたい

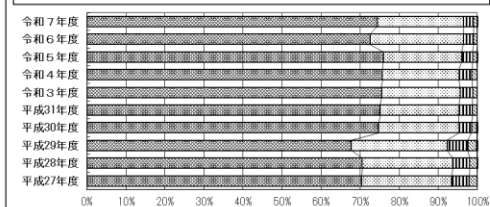
児童〔11〕  
生徒〔11〕

人の役に立つ人間になりたいと思いますか。

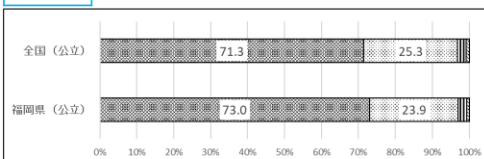
#### 小学校



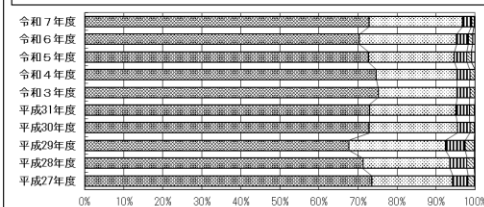
■1. 当てはまる  
■3. どちらかといえば、当てはまらない  
■その他  
■2. どちらかといえば、当てはまる  
■4. 当てはまらない  
□無回答



#### 中学校



■1. 当てはまる  
■3. どちらかといえば、当てはまらない  
■その他  
■2. どちらかといえば、当てはまる  
■4. 当てはまらない  
□無回答

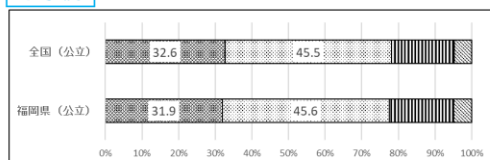


### 自分と違う意見について考えるのは楽しい

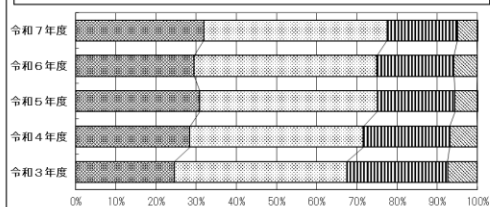
児童〔13〕  
生徒〔13〕

自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。

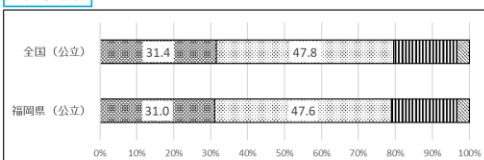
#### 小学校



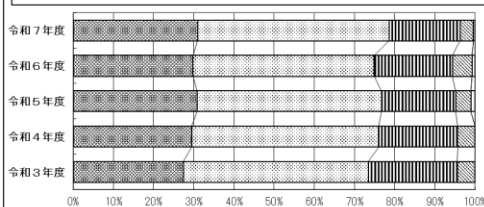
■1. 当てはまる  
■3. どちらかといえば、当てはまらない  
■その他  
■2. どちらかといえば、当てはまる  
■4. 当てはまらない  
□無回答



#### 中学校



■1. 当てはまる  
■3. どちらかといえば、当てはまらない  
■その他  
■2. どちらかといえば、当てはまる  
■4. 当てはまらない  
□無回答

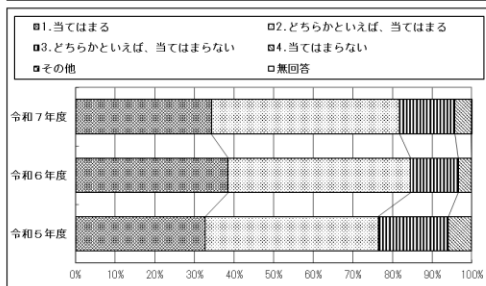
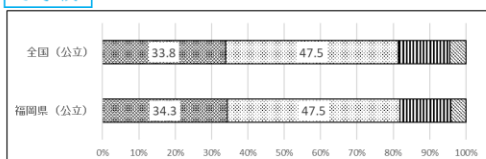


## 地域や社会をよくするために何かしてみたい

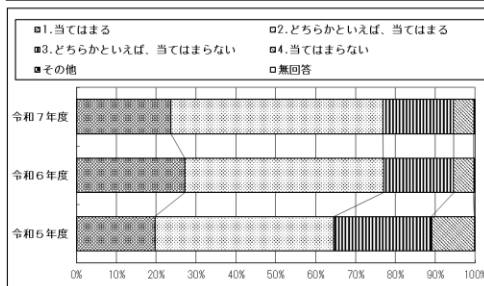
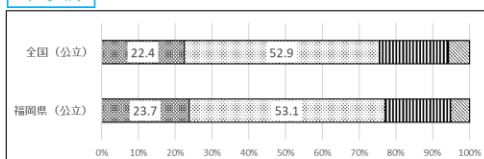
児童〔27〕  
生徒〔27〕

地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。

### 小学校



### 中学校



## 「学びを調整する力」に関わる項目

- 「〔35〕学級の友達（生徒）との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」については、肯定的回答をした児童生徒の割合が小学校、中学校ともに8割を超えていた。
- 「〔31〕授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか」については、小学校、中学校ともに全国平均を5%以上下回った。

## 「粘り強く挑む力」に関わる項目

- 「〔7〕将来の夢や目標を持っていますか」については、肯定的回答をした児童生徒の割合が8割を超えており、小学校、中学校ともに全国平均を上回った。

## 「自己有用感・自己効力感」に関わる項目

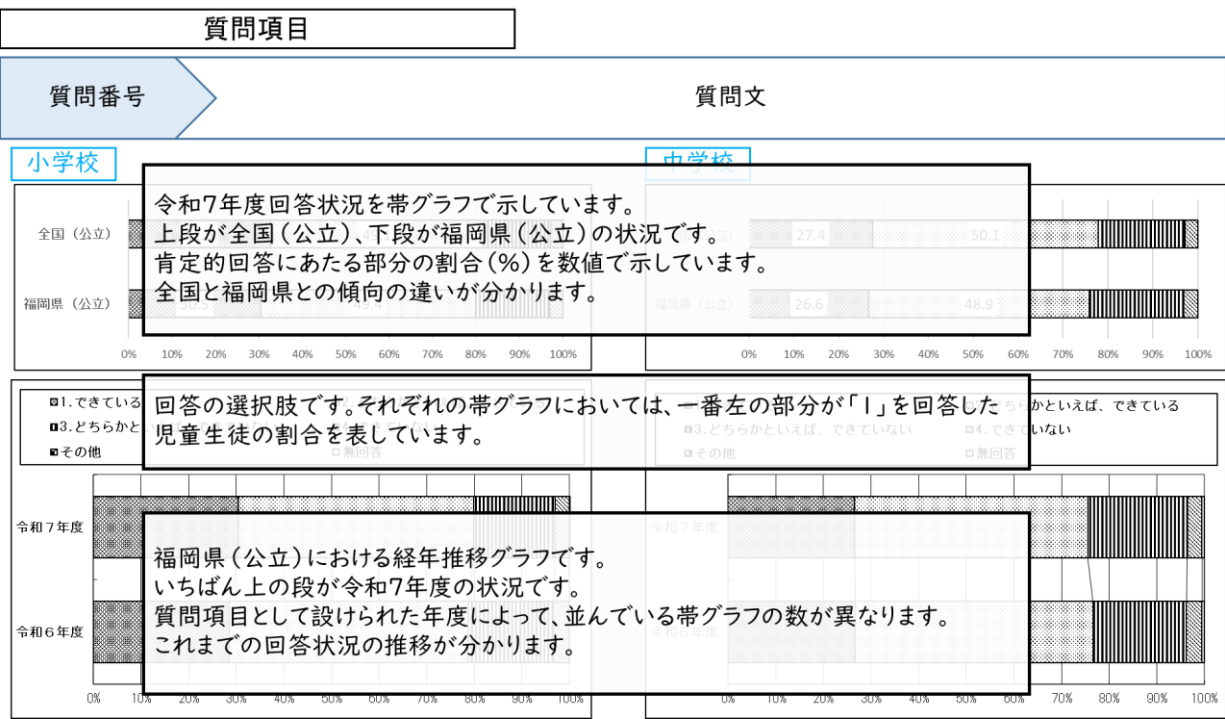
- 「〔5〕自分には、よいところがあると思いますか」「〔6〕先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」については、肯定的回答をした児童生徒の割合が小学校、中学校ともに8割を超えていた。

## 「協働する力」に関わる項目

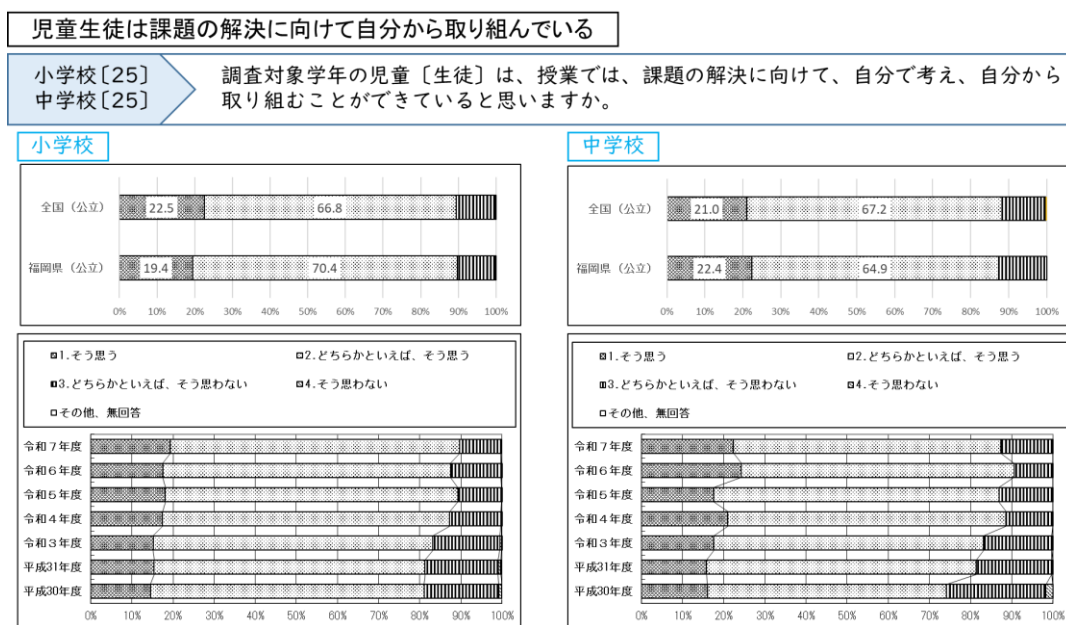
- 「〔8〕人が困っているときは、進んで助けていますか」「〔11〕人の役に立つ人間になりたいと思いますか」については、肯定的回答をした児童生徒の割合が小学校、中学校ともに9割を超えていた。

2 学校質問調査に関する調査結果と分析

学びを調整する力の育成及び組織運営に関わる取組状況に係る学校質問調査結果と分析したことを示す。



(1) 学びを調整する力

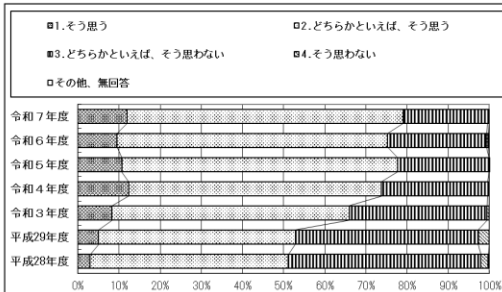
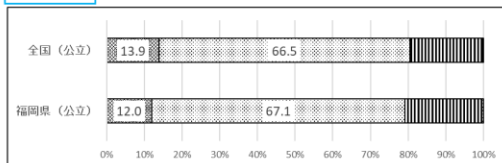


## 児童生徒は授業で工夫して発表している

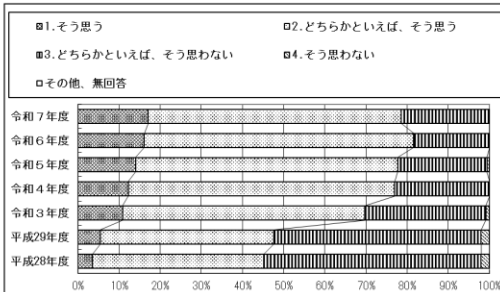
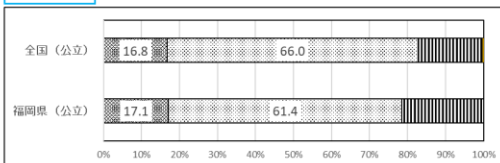
小学校〔26〕  
中学校〔26〕

調査対象学年の児童〔生徒〕は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていると思いますか。

### 小学校



### 中学校

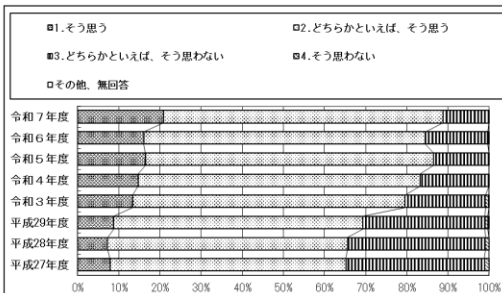
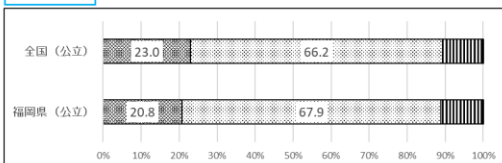


## 児童生徒は自分の考えを相手に伝えることができている

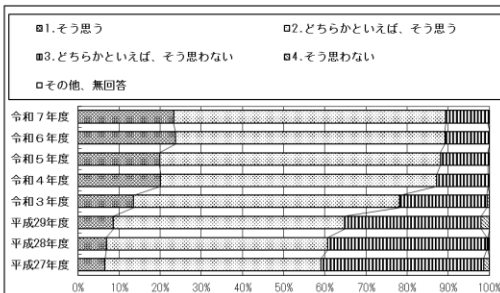
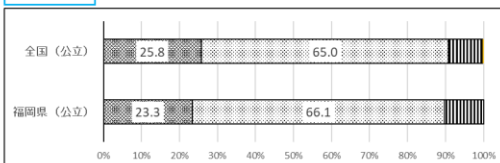
小学校〔27〕  
中学校〔27〕

調査対象学年の児童〔生徒〕は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができていると思いますか。

### 小学校



### 中学校

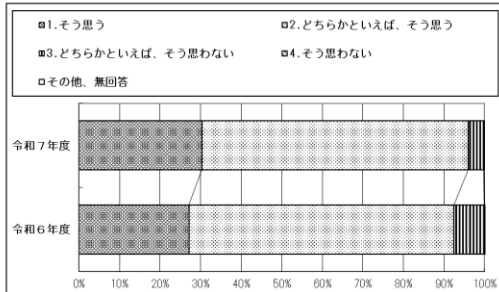
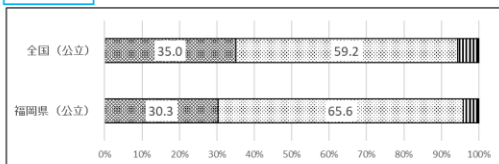


## 児童生徒は、協力しながら課題の解決に取り組んでいる

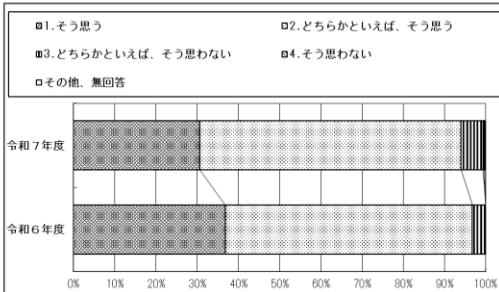
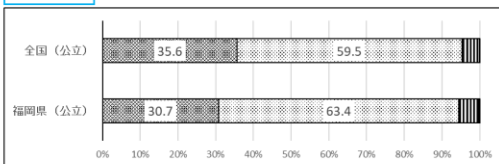
小学校〔28〕  
中学校〔28〕

調査対象学年の児童〔生徒〕は、授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいると思いますか。

### 小学校



### 中学校

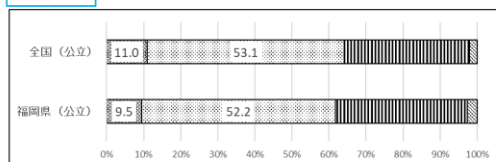


## 児童生徒は、自分で学ぶ内容を決め、計画を立てて学んでいる

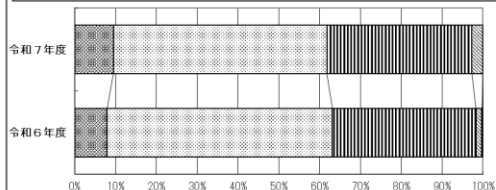
小学校〔29〕  
中学校〔29〕

調査対象学年の児童〔生徒〕は、授業では、自分で学ぶ内容を決め、計画を立てて学ぶ活動を行っていると思いますか。

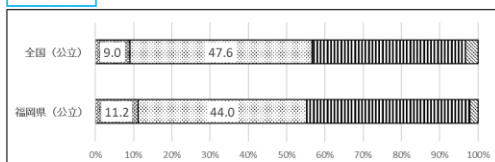
### 小学校



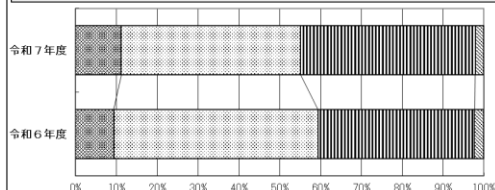
□1. そう思う □2. どちらかといえば、そう思う  
■3. どちらかといえば、そう思わない □4. そう思わない  
○その他、無回答



### 中学校



□1. そう思う □2. どちらかといえば、そう思う  
■3. どちらかといえば、そう思わない □4. そう思わない  
○その他、無回答

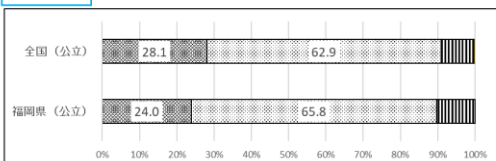


## 児童生徒に対して、一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫した

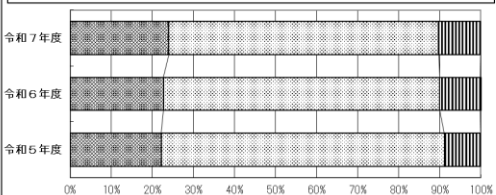
小学校〔30〕  
中学校〔30〕

調査対象学年の児童〔生徒〕に対して、前年度までに、学習指導において、児童〔生徒〕一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫しましたか。

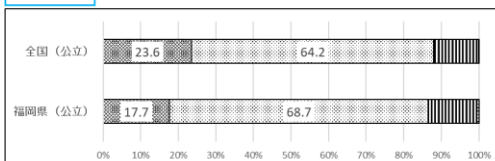
### 小学校



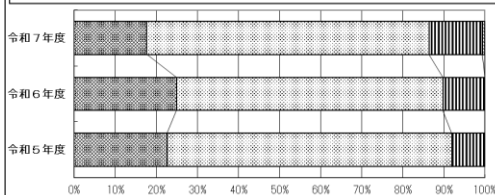
■1. よく行った □2. どちらかといえば、行った ■3. あまり行かなかった  
□4. 全く行かなかった ○その他、無回答



### 中学校



■1. よく行った □2. どちらかといえば、行った ■3. あまり行かなかった  
□4. 全く行かなかった ○その他、無回答

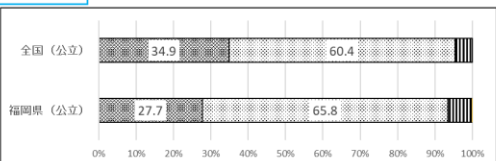


## 児童生徒に対して、他者と情報交換して話し合う等ができるように工夫した

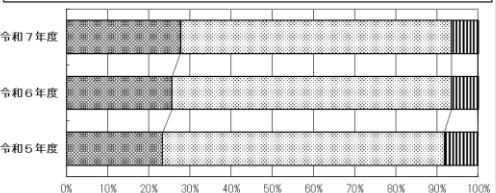
小学校〔31〕  
中学校〔31〕

調査対象学年の児童〔生徒〕に対して、前年度までに、学習指導において、児童〔生徒〕が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫しましたか。

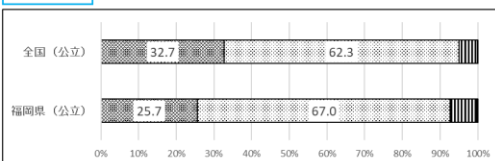
### 小学校



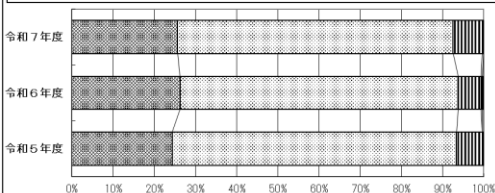
■1. よく行った □2. どちらかといえば、行った ■3. あまり行かなかった  
□4. 全く行かなかった ○その他、無回答



### 中学校



■1. よく行った □2. どちらかといえば、行った ■3. あまり行かなかった  
□4. 全く行かなかった ○その他、無回答

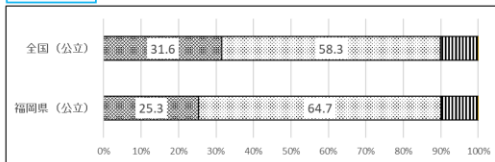


## 児童生徒に対して、学級やグループで課題を解決する学習活動を取り入れた

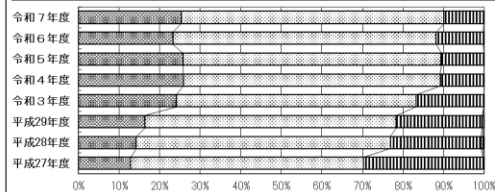
小学校[32]  
中学校[32]

調査対象学年の児童〔生徒〕に対して、前年度までに、授業において、児童〔生徒〕自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか。

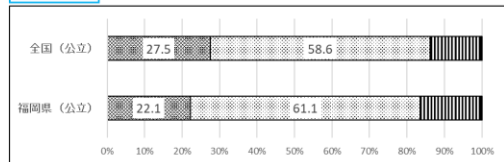
### 小学校



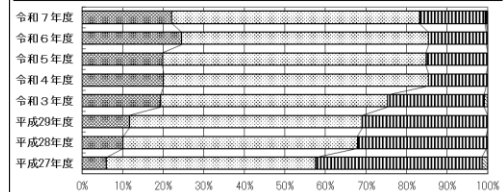
■1.よく行った      ■2.どちらかといえば、行った ■3.あまり行わなかった  
■4.全く行わなかった      □その他、無回答



### 中学校



■1.よく行った      ■2.どちらかといえば、行った ■3.あまり行わなかった  
■4.全く行わなかった      □その他、無回答

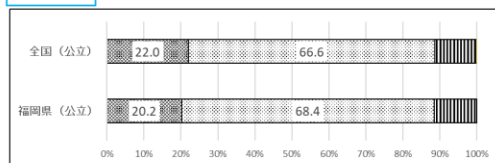


## 児童生徒に対して、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をした

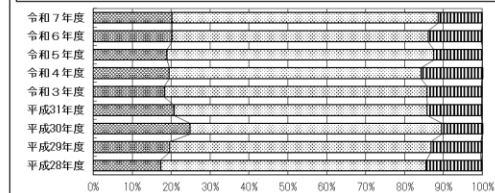
小学校[33]  
中学校[33]

調査対象学年の児童〔生徒〕に対して、前年度までに、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか。

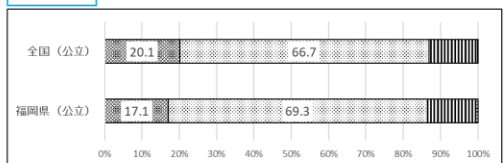
### 小学校



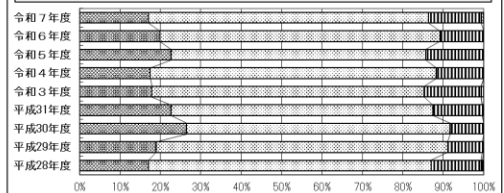
■1.よく行った      ■2.どちらかといえば、行った  
■3.あまり行わなかった      ■4.全く行わなかった  
□その他、無回答



### 中学校



■1.よく行った      ■2.どちらかといえば、行った  
■3.あまり行わなかった      ■4.全く行わなかった  
□その他、無回答

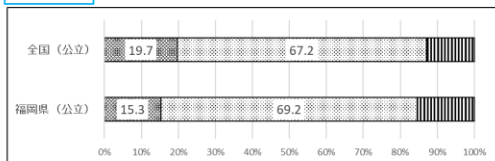


## 児童生徒に対して、各教科等で身に付けたことを、課題解決に生かす機会を設けた

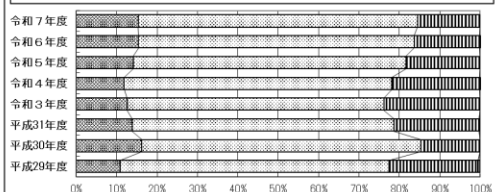
小学校[34]  
中学校[34]

調査対象学年の児童〔生徒〕に対して、前年度までに、各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けましたか。

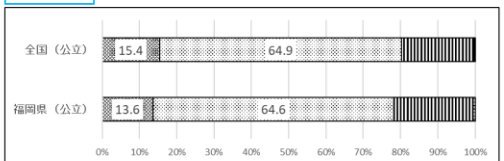
### 小学校



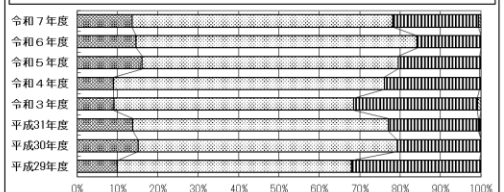
■1.よく行った      ■2.どちらかといえば、行った ■3.あまり行わなかった  
■4.全く行わなかった      □その他、無回答



### 中学校



■1.よく行った      ■2.どちらかといえば、行った ■3.あまり行わなかった  
■4.全く行わなかった      □その他、無回答

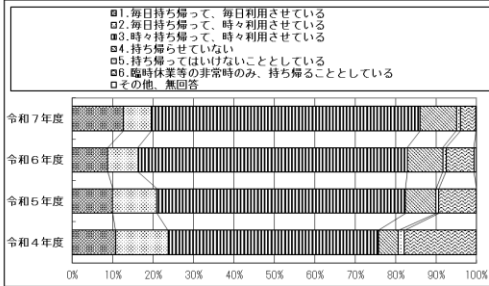
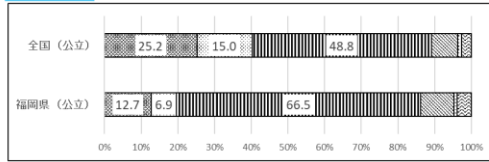


一人一台端末を家庭で利用できるようにしている

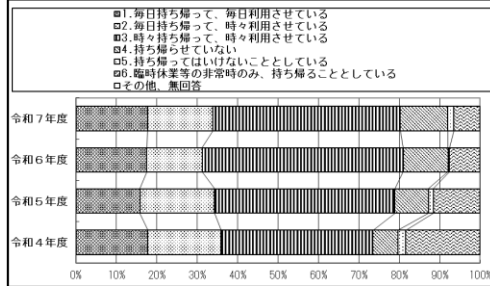
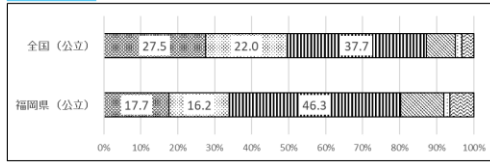
小学校〔66〕  
中学校〔66〕

児童〔生徒〕一人一人に配備されたPC・タブレットなどの端末を、どの程度家庭で利用できるようにしていますか。

小学校



中学校



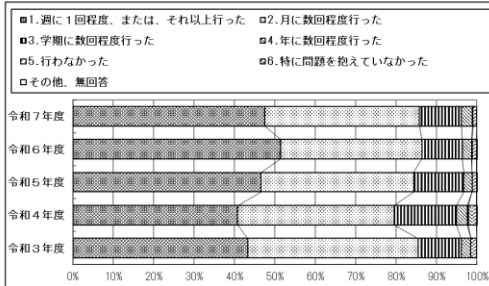
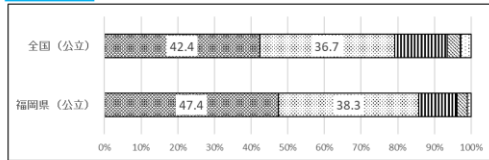
(2) 組織運営に関わる取組状況

教員が授業で問題を抱えている場合、率先して話し合った

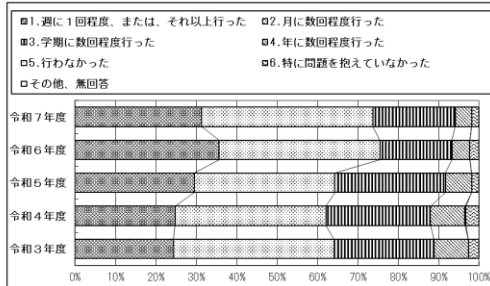
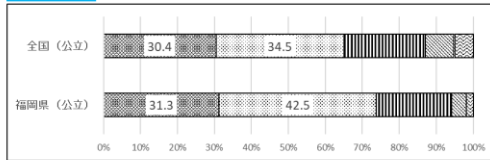
小学校〔11〕  
中学校〔11〕

前年度に、教員が授業で問題を抱えている場合、率先してそのことについて話し合うことを行いましたか。

小学校



中学校

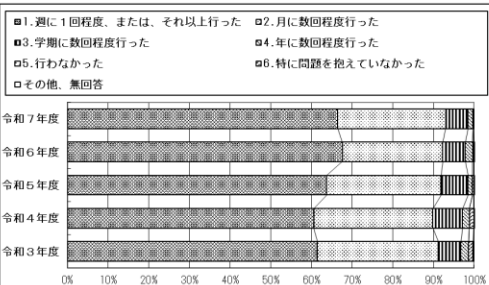
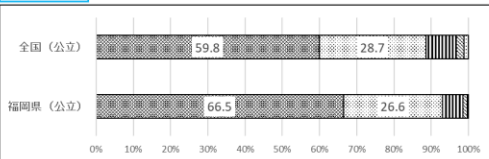


教員が学級の問題を抱えている場合、ともに問題解決に当たった

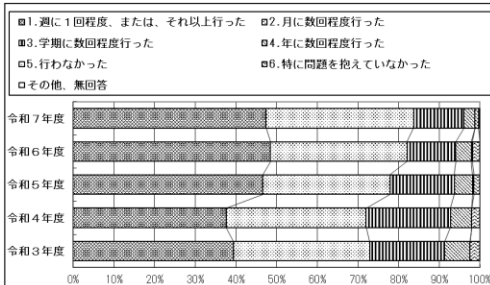
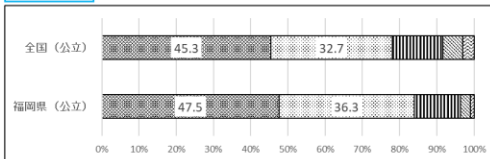
小学校〔12〕  
中学校〔12〕

前年度に、教員が学級の問題を抱えている場合、ともに問題解決に当たったことを行いましたか。

小学校



中学校

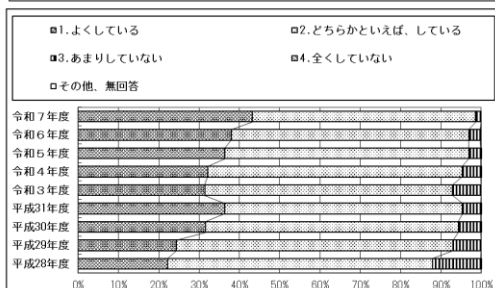
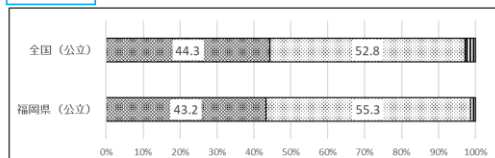


## PDCAサイクルを確立している

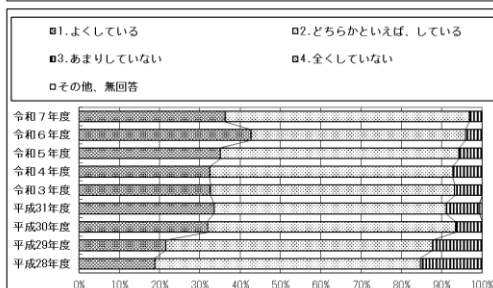
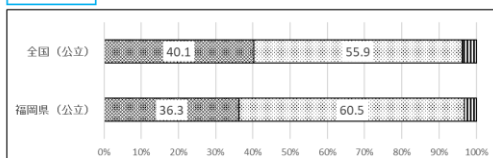
小学校〔15〕  
中学校〔15〕

児童〔生徒〕の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどにに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか。

### 小学校



### 中学校



## 授業での一人一台端末の活用

○「〔66〕児童（生徒）一人一人に配備されたPC・タブレットなどの端末を、どの程度家庭で利用できるようにしていますか」については、小学校、中学校ともに、持ち帰って利用させている学校（1，2，3を選択した学校）の割合は、令和4年度と比べると増えている。しかし、全国平均と比べたとき、毎日持ち帰って利用させている学校（1，2を選択した学校）の割合は、全国平均を下回っている。

## PDCAサイクルの確立

○「〔15〕児童（生徒）の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどにに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか」については、肯定的回答をした学校が、小学校、中学校ともに9割を超え、全国平均を上回った。

教科名の右に示す    内の数字は相関係数。

本調査においては、文部科学省の結果分析に沿って、0.2以上の場合に相関が見られると捉え、赤字で示している。

### 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善

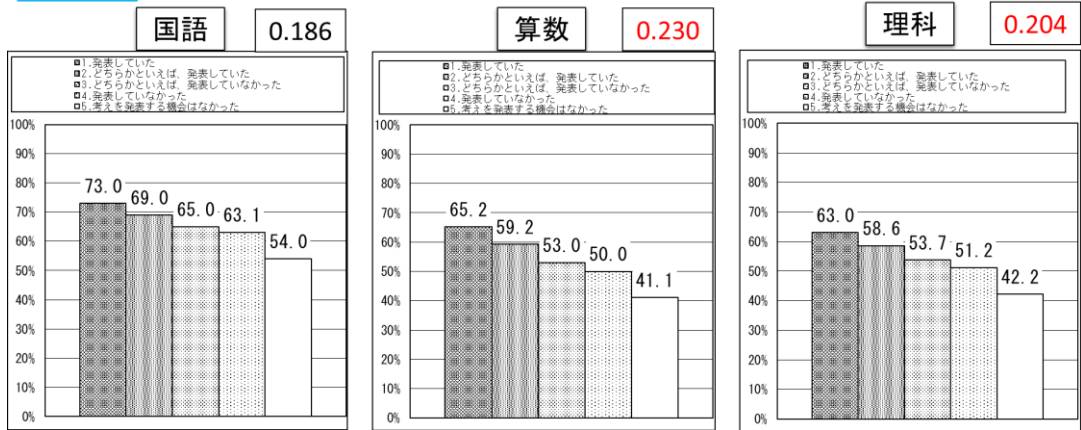
授業で工夫して発表していた

選択肢ごとの教科の平均正答率

児童[31]

5年生までに受けた授業では、授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか。

小学校



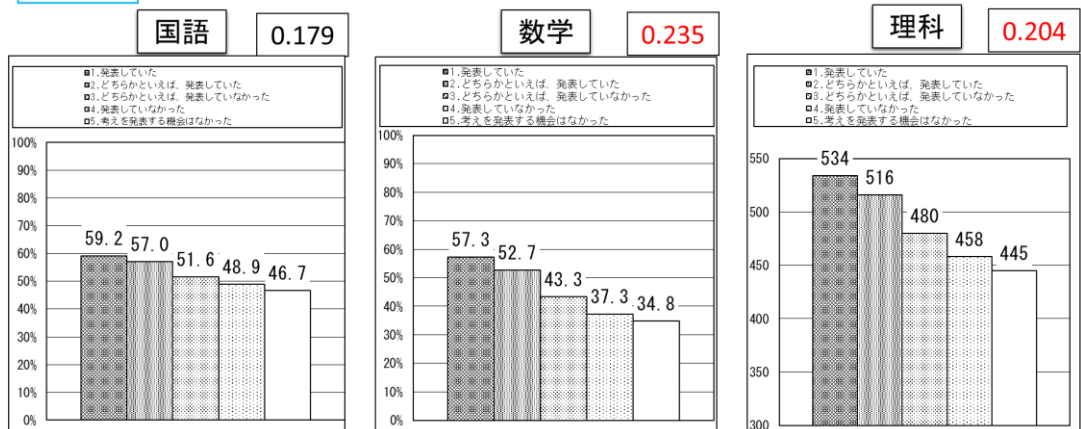
授業で工夫して発表していた

選択肢ごとの教科の平均正答率・平均IRTスコア

生徒[31]

1、2年生のときに受けた授業では、授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか。

中学校



## 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善

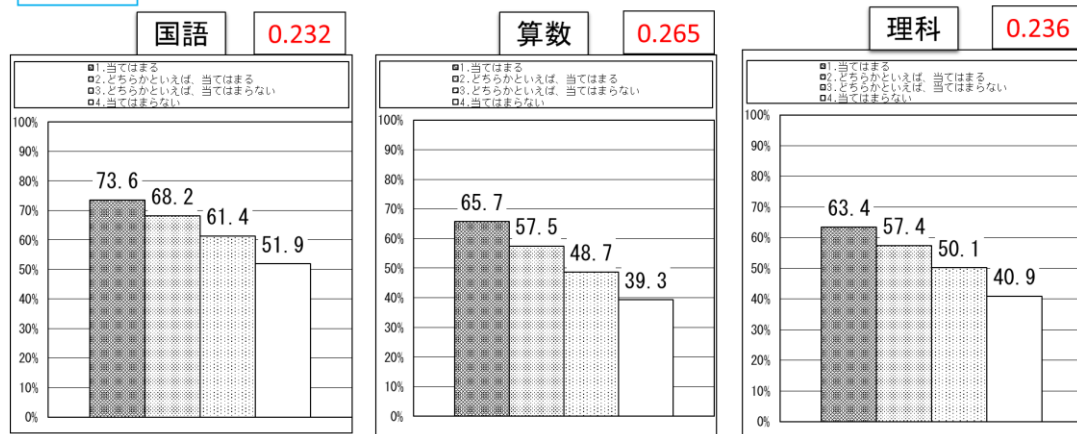
課題の解決に向けて自分から取り組んだ

選択肢ごとの教科の平均正答率

児童〔32〕

5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。

小学校



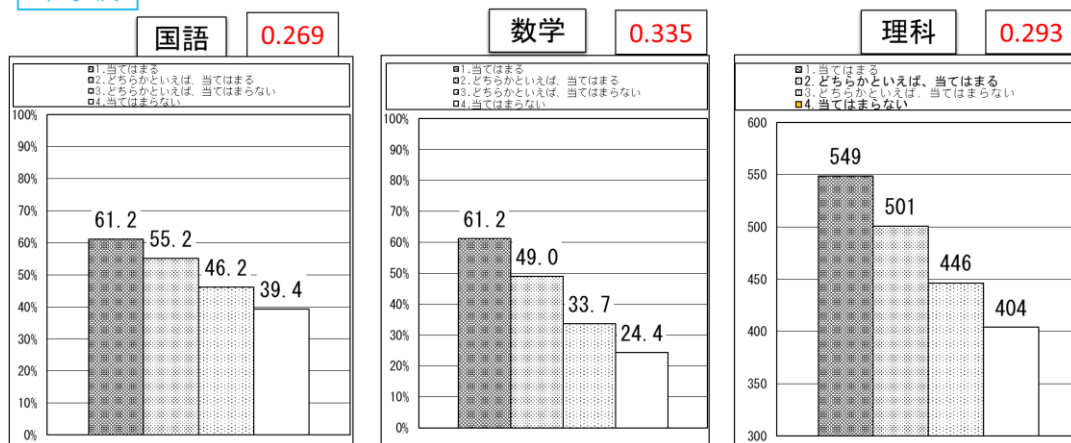
課題の解決に向けて自分から取り組んだ

選択肢ごとの教科の平均正答率・平均IRTスコア

生徒〔32〕

1、2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。

中学校



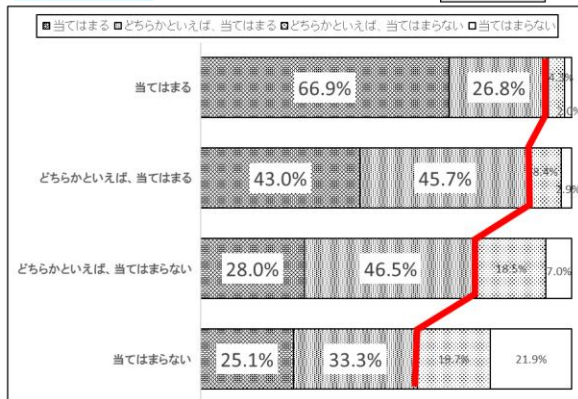
## 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善

[課題の解決に向けて自分から取り組んだ] × [自分にはよいところがあると思う]

自分には、よいところがあると思いますか。〔5〕

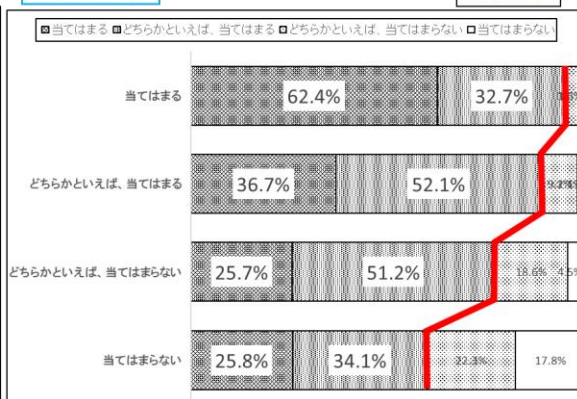
小学校

0.224



中学校

0.276



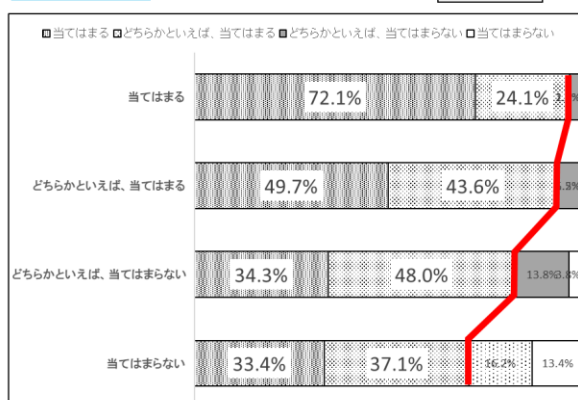
5年生（1・2年生）までに自分が取り組んでいた授業では、課題の解決に向けて、自分から取り組んでいましたか（32）

[個別最適な学び] × [先生がよいところを認めてくれる]

先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか〔6〕

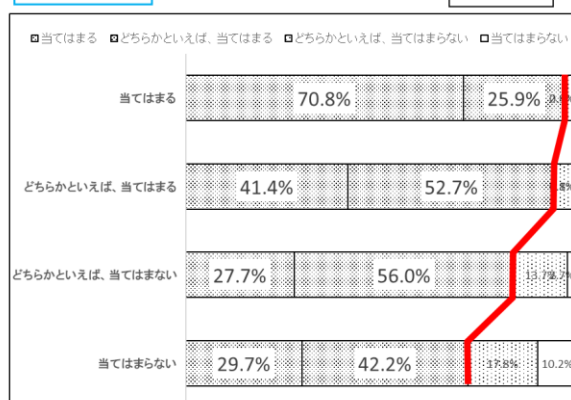
小学校

0.224



中学校

0.276



5年生（1・2年生）までに自分が取り組んでいた授業は、教材・学習時間などになっていたっていましたか（34）

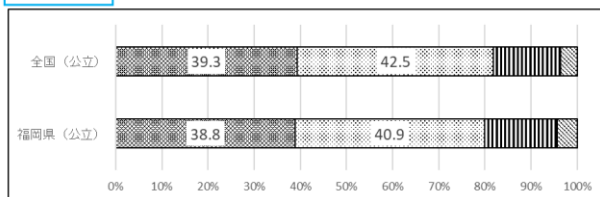
## ICTを活用する自信

児童〔29〕  
生徒〔29〕

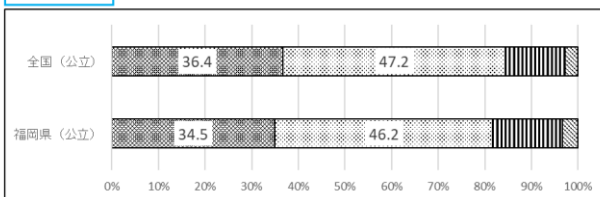
あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って以下のことができると思いますか。

## (1) 文章を作成する。(文字、コメントを書くなど)

## 小学校

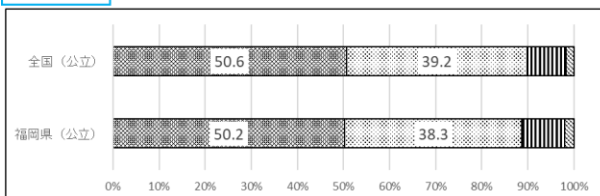


## 中学校

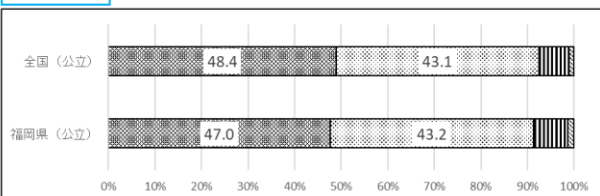


## (2) インターネットを使って情報を収集する。(検索する、調べるなど)

## 小学校

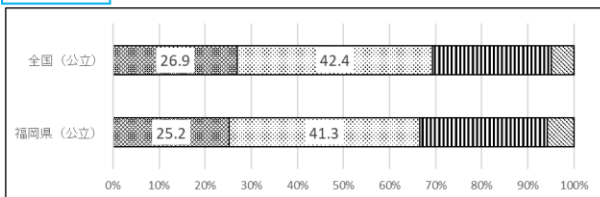


## 中学校

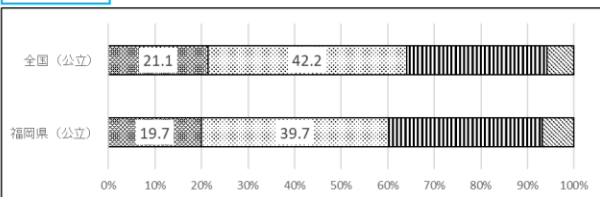


## (3) 情報を整理する。(図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる)

## 小学校

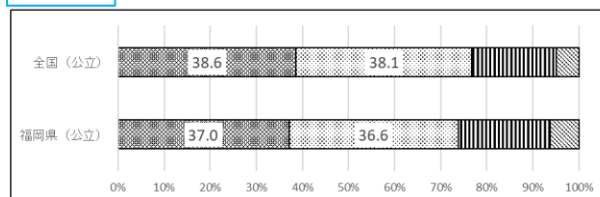


## 中学校

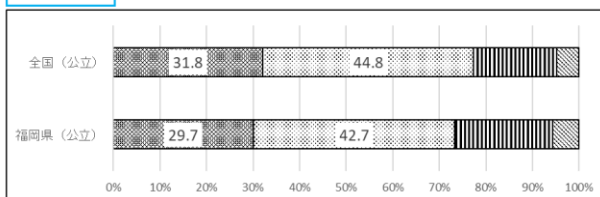


## (4) 学校のプレゼンテーション(発表のスライド)を作成する。

## 小学校



## 中学校



## ICTを活用した学習状況

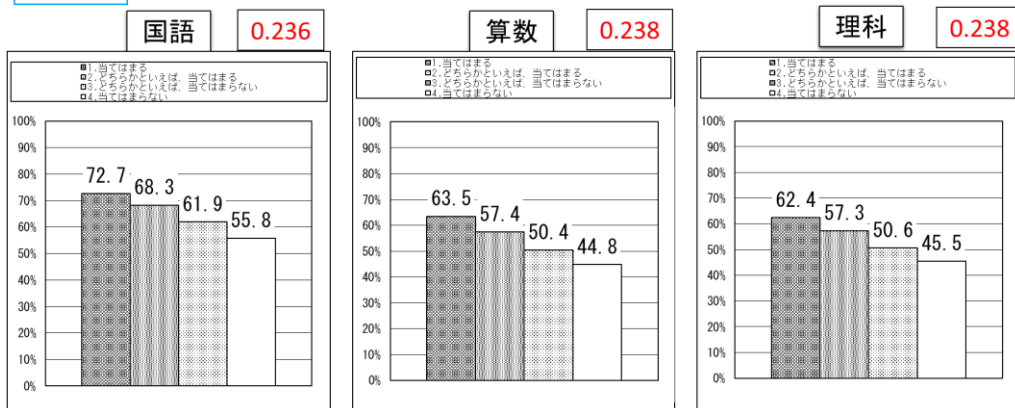
ICTを使って学校のプレゼンテーションを作成することができる

選択肢ごとの教科の平均正答率

児童〔29-4〕

あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って、学校のプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができると思いますか。

小学校



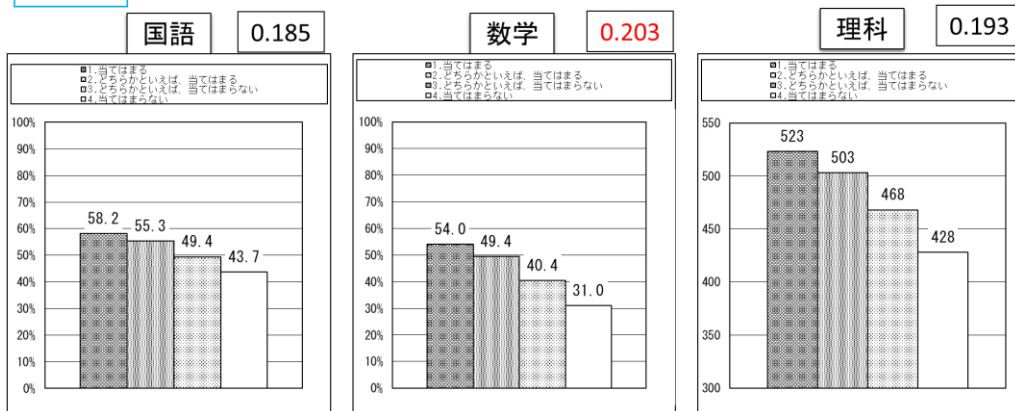
ICTを使って学校のプレゼンテーションを作成することができる

選択肢ごとの教科の平均正答率・平均IRTスコア

生徒〔29-4〕

あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って、学校のプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができると思いますか。

中学校



〔ICT機器を使って情報を整理できる〕×〔学んだことを生かしながら考えをまとめていた〕

5年生まで〔1, 2年生のとき〕に受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか〔33〕

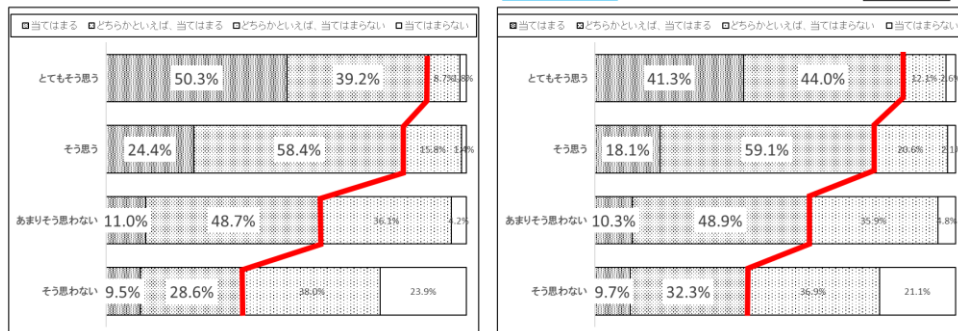
小学校

0.403

中学校

0.304

あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って情報を整理できると思いますか〔29-3〕



## 家庭学習の状況

### 学校外での平日の勉強時間

### 選択肢ごとの教科の平均正答率

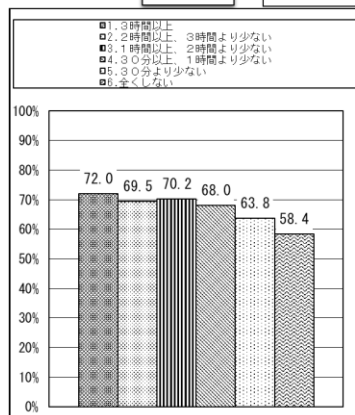
児童〔17〕

学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）

小学校

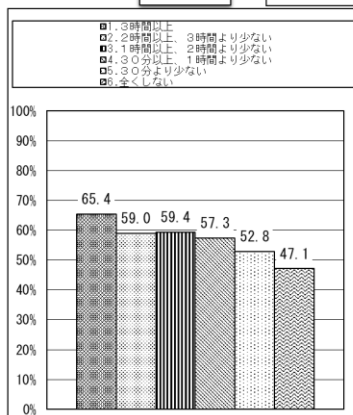
国語

0.149



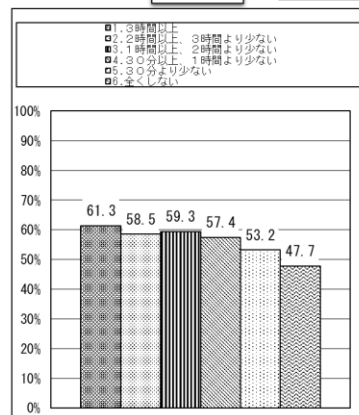
算数

0.165



理科

0.138



### 学校外での平日の勉強時間

### 選択肢ごとの教科の平均正答率・平均IRTスコア

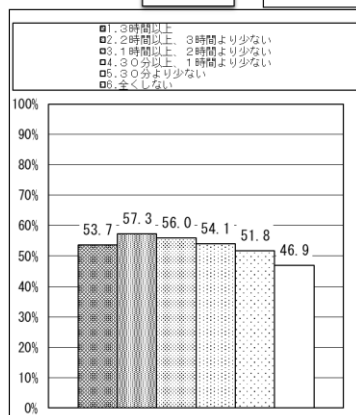
生徒〔17〕

学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）

中学校

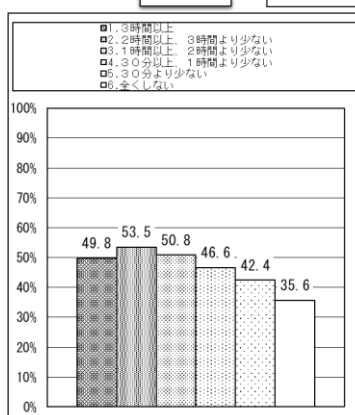
国語

0.116



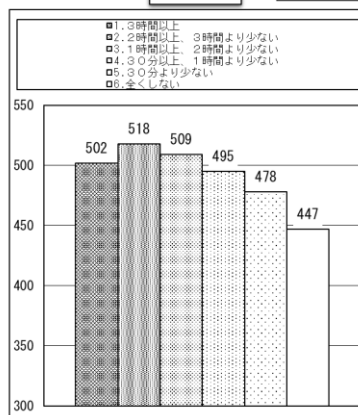
数学

0.162



理科

0.139



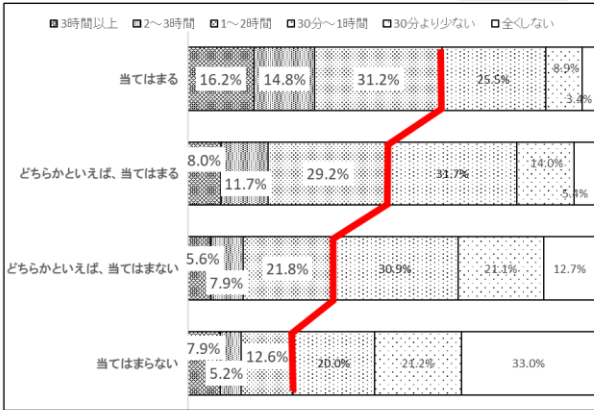
# 家庭学習の状況

## [課題の解決に向けて自分から取り組んだ] × [学校外での平日の勉強時間]

学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）〔17〕

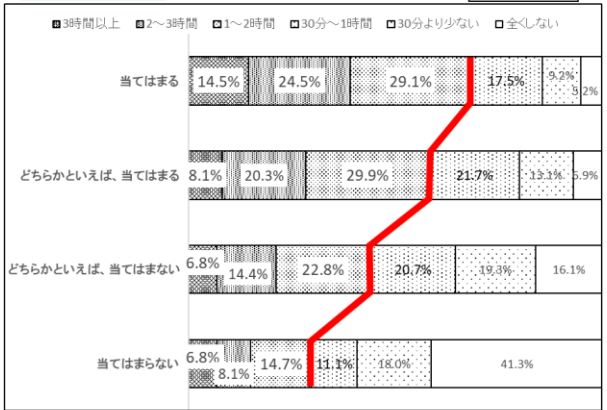
### 小学校

0.247



### 中学校

0.221



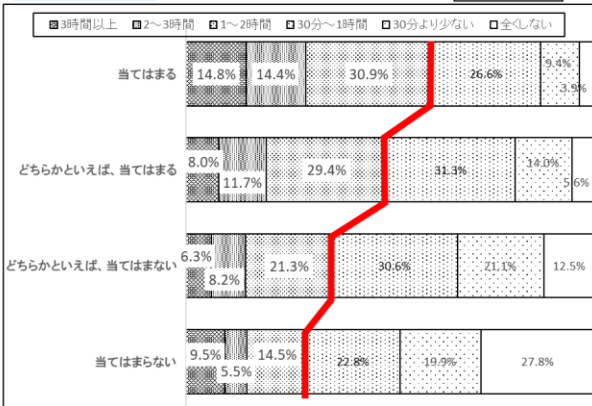
5年生（1、2年生）までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか（32）

## [よく分からなかった点等を見直し次の学習につなげた] × [学校外での平日の勉強時間]

学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）〔17〕

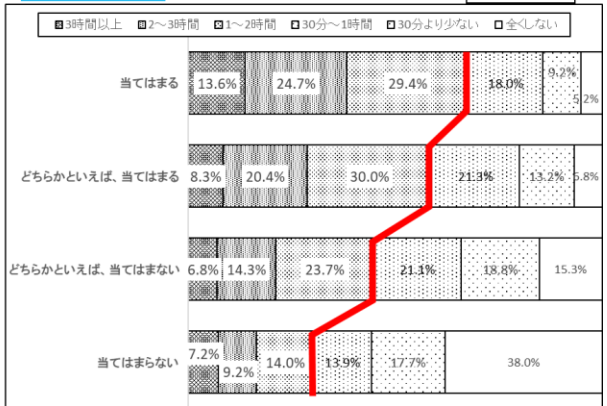
### 小学校

0.218



### 中学校

0.211



学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか（36）

## 組織運営に関する状況

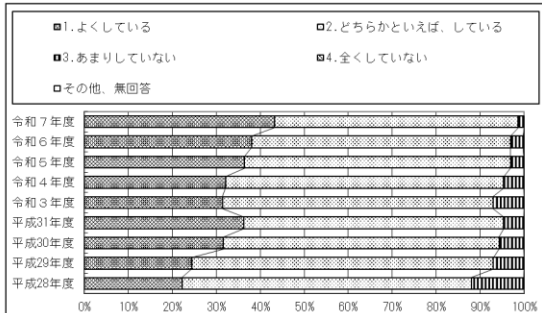
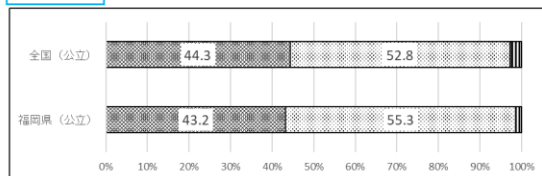
※ このページはクロス分析ではありません。

### PDCAサイクルを確立している

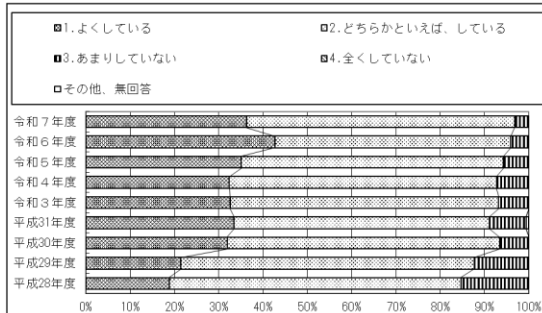
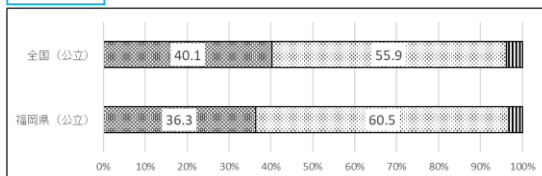
小学校〔15〕  
中学校〔15〕

児童〔生徒〕の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか。

#### 小学校



#### 中学校

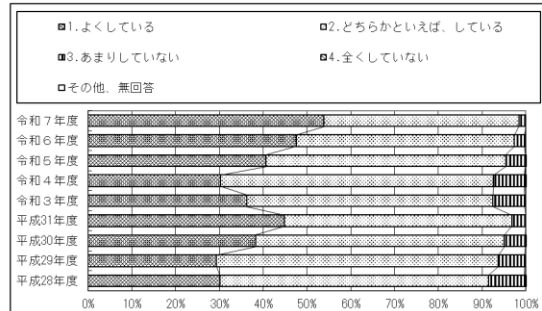
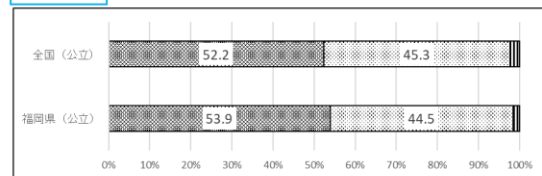


### 教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を効果的に組み合わせている

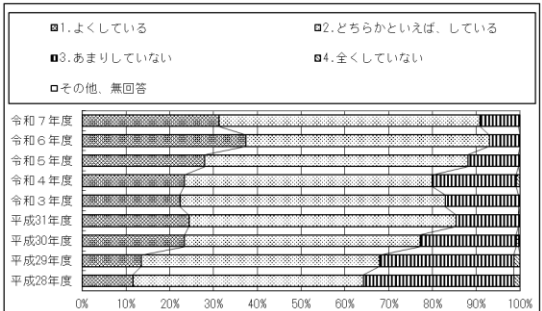
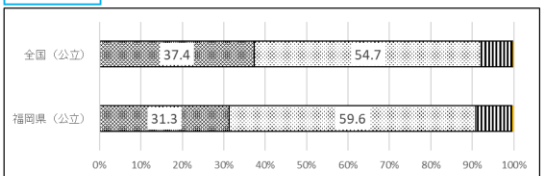
小学校〔16〕  
中学校〔16〕

指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせていますか。

#### 小学校



#### 中学校



## VII 令和7年度福岡県学力・学習状況調査

知識及び技能  
思考力、判断力、表現力等

### I 調査の概要

#### (1) 調査の目的

- ① 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、県内各地域における児童生徒の学力及び学習状況をきめ細かく把握・分析することにより、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ② 各市町村（学校組合）教育委員会（以下「市町村教育委員会」という。）及び学校が、自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、児童生徒の学習指導の改善・支援の充実を図るとともに、継続的な検証改善サイクルの維持・向上を支援する。
- ③ 児童生徒一人一人が、自らの伸びや課題を把握し、学びを調整しながら主体的・自律的に学びに向かうことができるよう支援する。

#### (2) 調査対象の学年（指定都市を除く。）

県内（指定都市を除く。）の公立小・中・義務教育学校、中等教育学校及び特別支援学校の次に掲げる学年の全ての児童生徒を対象とする。

##### ① 小学校調査

小学校、義務教育学校前期課程及び特別支援学校小学部の第5学年

##### ② 中学校調査

中学校、義務教育学校後期課程、中等教育学校前期課程及び特別支援学校中学部の第1、2学年

#### (3) 調査内容

##### ① 教科に関する調査

###### ア 小学校調査

第5学年・・・国語及び算数

###### イ 中学校調査

第1学年・・・国語及び数学

第2学年・・・国語、数学及び英語

ウ 出題範囲は調査対象学年の前学年までの指導事項（中学校調査第1学年においては小学校までの指導事項）とする。

##### ② 質問調査

学びに向かう力、人間性等に関する事項等

##### ③ 学校及び市町村教育委員会に対する質問調査

学校及び市町村教育委員会における教育活動等に関する事項

(4) 調査実施方式

教科に関する調査は、「IRT (Item Response Theory)」(項目反応理論)による調査を実施する。また、教科に関する調査、児童生徒質問調査及び学校及び市町村教育委員会に対する質問調査のいずれも、児童生徒が活用するICT 端末等を用いて、市町村教育委員会が導入している学習eポータルを使用し、文部科学省CBTシステム(MEXCBT)によるオンライン方式(CBT)で実施する。

(5) 調査実施日

令和7年5月19日(月)から6月13日(金)までの期間中、県教育委員会が指定した日

(6) 調査実施学校・児童生徒数

① 小学校

学年	学校数(校)		児童数(人)	
	国語	算数	国語	算数
第5学年	417	417	22,760	22,743

② 中学校

学年	学校数(校)			生徒数(人)		
	国語	数学	英語	国語	数学	英語
第1学年	198	198		22,102	22,119	
第2学年	198	198	198	21,176	21,185	21,178

※ 学校数は、分校を含む。

(7) 調査問題の内容

① 領域別の設問数

	国語				算数・数学				英語			
	言葉の特徴や使い方	情報の扱い方、我が国の言語文化	話すこと・聞くこと、書くこと	読むこと	小5、中1: 数と計算 中2: 数と式	図形	小5、中1: 変化と関係 中2: 関数	データの活用	聞くこと	読むこと	話すこと[発表、やり取り]	書くこと
小学校 第5学年	12問	4問	6問	8問	14問	8問	6問	4問				
中学校 第1学年	14問	4問	4問	8問	10問	10問	8問	5問				
中学校 第2学年	13問	7問	4問	7問	11問	8問	7問	7問	10問	15問	2問	9問

### ② 評価の観点別の設問数

	国語		算数・数学		英語	
	知識・技能	思考・判断・表現	知識・技能	思考・判断・表現	知識・技能	思考・判断・表現
小学校 第5学年	16問	14問	18問	14問		
中学校 第1学年	18問	12問	28問	5問		
中学校 第2学年	20問	11問	19問	14問	23問	13問

### ③ 解答形式別の設問数

	国語			算数・数学			英語		
	選択式	短答式	記述式	選択式	短答式	選択式	選択式	短答式	記述式
小学校 第5学年	21問	8問	1問	19問	12問	1問			
中学校 第1学年	21問	8問	1問	17問	15問	1問			
中学校 第2学年	21問	9問	1問	18問	14問	1問	32問	3問	1問

### (8) 調査の設計

本調査は、問題1問ごとの特徴（難しさ等）と、受検者（児童生徒）の能力を区別して分析し、児童生徒の学力のスコアを推定する統計モデルで設計されている。なお、本調査では、この学力のスコアのことを「学力のレベル」と称している。「学力のレベル」は下の表のとおり36段階で示している。具体的には、各学年7つの段階、さらに各段階ABCに3分割で表示している。学年ごとの調査問題は、その学年の「学力のレベル」に相当する程度の難しさの問題を出題している。

		小4	小5	小6	中1	中2	中3
12	A						12-A
	B						12-B
	C						12-C
11	A					11-A	11-A
	B					11-B	11-B
	C					11-C	11-C
10	A				10-A	10-A	10-A
	B				10-B	10-B	10-B
	C				10-C	10-C	10-C
9	A			9-A	9-A	9-A	9-A
	B			9-B	9-B	9-B	9-B
	C			9-C	9-C	9-C	9-C
8	A		8-A	8-A	8-A	8-A	8-A
	B		8-B	8-B	8-B	8-B	8-B
	C		8-C	8-C	8-C	8-C	8-C
7	A	7-A	7-A	7-A	7-A	7-A	7-A
	B	7-B	7-B	7-B	7-B	7-B	7-B
	C	7-C	7-C	7-C	7-C	7-C	7-C
6	A	6-A	6-A	6-A	6-A	6-A	6-A
	B	6-B	6-B	6-B	6-B	6-B	6-B
	C	6-C	6-C	6-C	6-C	6-C	6-C
5	A	5-A	5-A	5-A	5-A	5-A	
	B	5-B	5-B	5-B	5-B	5-B	
	C	5-C	5-C	5-C	5-C	5-C	
4	A	4-A	4-A	4-A	4-A		
	B	4-B	4-B	4-B	4-B		
	C	4-C	4-C	4-C	4-C		
3	A	3-A	3-A	3-A			
	B	3-B	3-B	3-B			
	C	3-C	3-C	3-C			
2	A	2-A	2-A				
	B	2-B	2-B				
	C	2-C	2-C				
1	A	1-A					
	B	1-B					
	C	1-C					

学力のレベル対応表

2 調査結果の概要

(1) 県全体の学力のレベル

福岡県全体

		国語	算数	英語
小学校第5学年	レベル(平均)	6-B	5-B	
中学校第1学年	レベル(平均)	7-A	6-A	
中学校第2学年	レベル(平均)	8-C	7-B	8-B

学力のレベル

特定の困難度がある問題をどれくらいの割合で正答できるかをもとに、学習到達度を一定の間隔で分割し、各学年7つの段階(さらに各段階をABCに3分割)で表示したもの。

福岡県の各学年のレベル(平均)				白が当該学年のレベルの範囲			
	レベル(3分割)	小4	小5	小6	中1	中2	中3
レベル12	12-A						
	12-B						
	12-C						
レベル11	11-A						
	11-B						
	11-C						
レベル10	10-A						
	10-B						
	10-C						
レベル9	9-A						
	9-B						
	9-C						
レベル8	8-A						
	8-B					英語	
	8-C					国語	
レベル7	7-A				国語		
	7-B					数学	
	7-C						
レベル6	6-A				数学		
	6-B		国語				
	6-C						
レベル5	5-A						
	5-B		算数				
	5-C						
レベル4	4-A						
	4-B						
	4-C						
レベル3	3-A						
	3-B						
	3-C						
レベル2	2-A						
	2-B						
	2-C						
レベル1	1-A						
	1-B						
	1-C						

(2) 地区別の学力のレベル

① 福岡教育事務所

		国語	算数・数学	英語
小学校第5学年	レベル(平均)	6-B	5-B	
中学校第1学年	レベル(平均)	8-C	6-A	
中学校第2学年	レベル(平均)	8-C	7-A	9-C

② 北九州教育事務所

		国語	算数・数学	英語
小学校第5学年	レベル(平均)	6-C	5-C	
中学校第1学年	レベル(平均)	7-B	6-B	
中学校第2学年	レベル(平均)	7-A	7-C	8-C

③ 北筑後教育事務所

		国語	算数・数学	英語
小学校第5学年	レベル(平均)	6-C	5-B	
中学校第1学年	レベル(平均)	7-A	6-B	
中学校第2学年	レベル(平均)	7-A	7-B	8-B

④ 南筑後教育事務所

		国語	算数・数学	英語
小学校第5学年	レベル(平均)	6-C	5-B	
中学校第1学年	レベル(平均)	7-B	6-B	
中学校第2学年	レベル(平均)	7-A	7-B	8-B

⑤ 筑豊教育事務所

		国語	算数・数学	英語
小学校第5学年	レベル(平均)	6-C	5-C	
中学校第1学年	レベル(平均)	7-B	6-B	
中学校第2学年	レベル(平均)	7-B	6-A	7-A

⑥ 京築教育事務所

		国語	算数・数学	英語
小学校第5学年	レベル(平均)	6-C	5-B	
中学校第1学年	レベル(平均)	7-B	6-B	
中学校第2学年	レベル(平均)	7-B	7-C	8-C

### (3) 本調査問題における福岡県の特徴

<記号の意味>

正答率が高い問題・・・◇ 正答率が低い問題・・・◆ 無解答率が最も高い問題・・・★

<困難度レベルについて>

困難度レベルとは、問題の難しさのことである。各学年7つの段階（さらに各段階をABCに3分割）で表示しており、レベルの段階が高いほど難易度の高い（CよりB、BよりAが難しい）問題であることを示す。

#### 小学校5年生

##### <国語>

問題番号	出題の趣旨	正答率	無解答率	困難度レベル
◇12 選択式	接続語の働きを理解する。	95.4	0.1	2-C
◇6 選択式	呼応の副詞を理解し、適切に使う。	94.5	0.0	2-B
◆18 (1) 選択式	考えとそれを支える理由の関係を理解する。	35.3	0.4	8-A
◆17 選択式	文章を書く上での文の構成を理解する。	15.7	0.6	8-A
★21 (3) 記述式	自分の意見を明確に書く。	35.4	23.2	7-A

##### <算数>

問題番号	出題の趣旨	正答率	無解答率	困難度レベル
◇2 (1) 選択式	十進法の位取り記数法について理解している。	90.0	0.3	3-C
◇1 (1) 短答式	繰り上がりのある小数の加法の計算をすることができる。	82.8	0.6	4-C
◆5 (1) 選択式	面積の単位について理解している。	13.5	1.6	8-A
◆★9 記述式	具体的な事象を伴って変わる2つの量に関連付け、根拠を明確にして説明できる。	0.8	32.9	8-A

中学校 1 年生

<国語>

問題番号	出題の趣旨	正答率	無解答率	困難度 レベル
◇9 選択式	多義語について異なる意味を理解する。	92.9	0.1	5-B
◇5 短答式	熟語の構成・接頭語の意味を理解する。	86.4	2.8	6-A
◆11 短答式	文の構成を理解する。	33.8	1.5	9-A
◆15 選択式	発表原稿に合わせて資料を比較して選択し、並び替える。	18.9	1.3	10-A
★20 (3) 記述式	根拠を明確にして、自分の意見を具体的に書く。	63.5	14.7	8-C

<数学>

問題番号	出題の趣旨	正答率	無解答率	困難度 レベル
◇1 (8) 選択式	数量の関係を文字を用いて式に表すことができる。	89.1	0.4	4-C
◇1 (9) 選択式	比について理解している。	87.0	0.3	5-C
◆2 (2) 短答式	具体的な事柄について、分数と小数の計算ができる。	22.9	9.2	9-A
◆3 (1) 短答式	縮図を利用して、実際には測定しにくい長さを求めることができる。	21.5	12.6	9-B
★4 (6) 記述式	与えられた情報をもとに、データの読み取りを代表値を用いて答えることができる。	38.3	27.6	8-B

中学校 2 年生

<国語>

問題番号	出題の趣旨	正答率	無解答率	困難度 レベル
◇5 短答式	熟語の意味を理解し、適切に使う。	84.0	1.9	5-A
◇6 選択式	呼応の副詞を理解し、適切に使う。	83.7	0.1	6-B
◆16 短答式	慣用句の意味を理解し、適切に使う。	14.5	2.8	11-A
◆23 (1) 選択式	意見を支える根拠として適切なものを考える。	10.1	1.6	11-A
★23 (2) 記述式	適切に根拠を示しながら、自分の考えを明確にする。	73.4	10.4	7-C

<数学>

問題番号	出題の趣旨	正答率	無解答率	困難度 レベル
◇2 (7) 選択式	多数回の試行によって得られる確率の意味を理解している。	89.9	0.4	5-C
◇4 (2) 選択式	回転体がどのように構成されているかを理解している。	85.0	0.9	5-B
◆5 記述式	データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる。	18.1	7.6	11-C
◆3 (8) 短答式	累積相対度数の意味を理解している。	15.1	16.6	11-C
★4 (7) 短答式	比例の関係にある2つの数量の関係を、式に表すことができる	31.4	20.8	9-A

<英語>

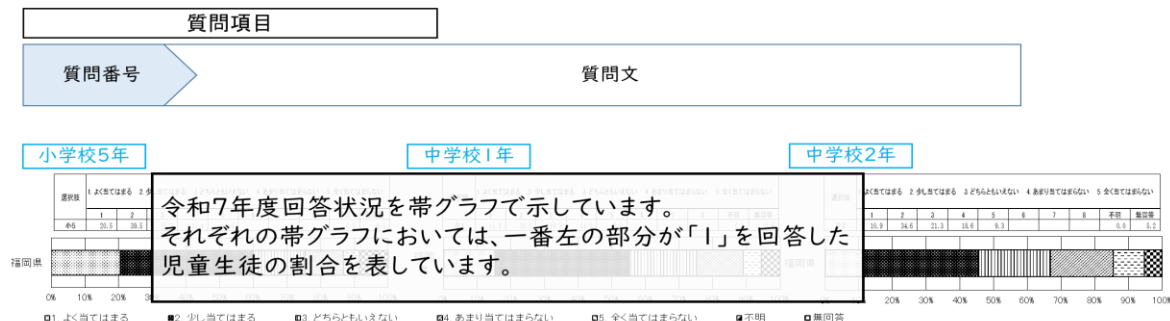
問題番号	出題の趣旨	正答率	無解答率	困難度 レベル
◇1 (4) 選択式	情報を正確に聞き取ることができるかどうかをみる。	96.4	0.2	5-C
◇7 (5) 選択式	相手からの応答に対して適切に質問することができるかどうかをみる。	88.5	0.2	6-C
◆10 選択式	日常的な話題について、話し手として伝えたい順番や聞き手に分かりやすい展開や構成を考えてスピーチをすることができるかどうかをみる。	21.5	2.7	11-A
◆★8 短答式	日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりすることができるかどうかをみる。	8.1	20.7	11-A

### 3 質問調査に関する調査結果

学びに向かう力、  
人間性等

#### (1) 児童生徒質問調査に関する調査結果

本県において育成を目指す「資質・能力」である「学びに向かう力、人間性等」の4項目「学びを調整する力」「粘り強く挑む力」「自己有用感・自己効力感」「協働する力」の状況について、児童生徒質問調査結果を示す。

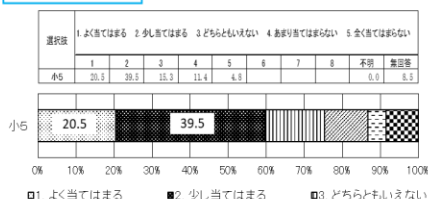


#### (1-1) 学びを調整する力

勉強のやり方を工夫している

2(イ) 勉強でわからないところがあったら、勉強のやり方をいろいろ変えてみる。

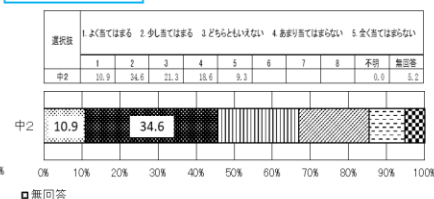
小学校5年



中学校1年



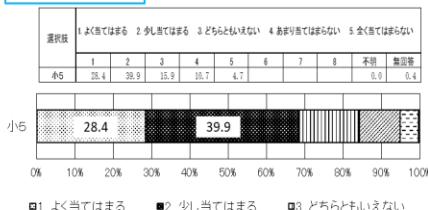
中学校2年



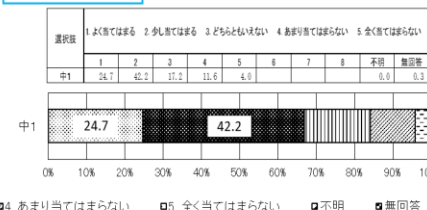
既習との関係を考えている

2(キ) 新しいことを勉強するとき、今までに勉強したことと関係があるかどうかを考えながら勉強する。

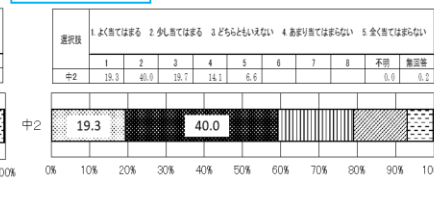
小学校5年



中学校1年



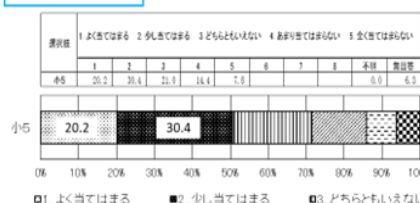
中学校2年



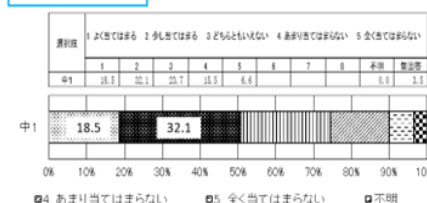
自分に合った勉強法を考えている

2(サ) 勉強のやり方が、自分に合っているかどうかを考えながら勉強する。

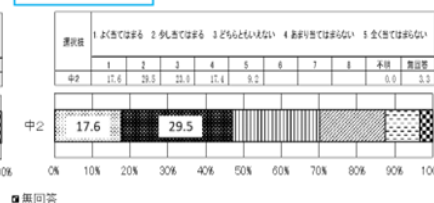
小学校5年



中学校1年



中学校2年

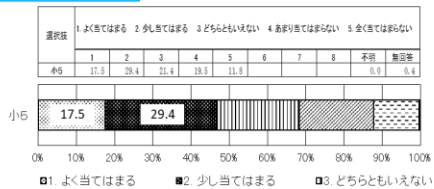


## 勉強の計画を立てている

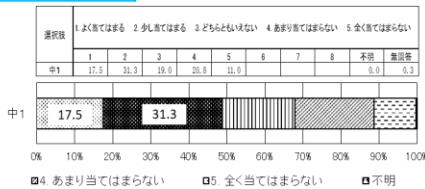
2(ス)

勉強するときは、最初に計画を立ててから始める。

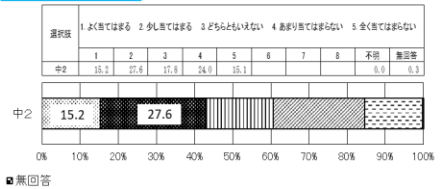
### 小学校5年



### 中学校1年



### 中学校2年

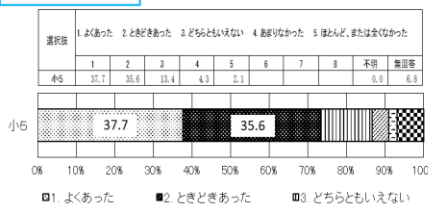


## 話し合いや資料により、考えが変容している実感がある

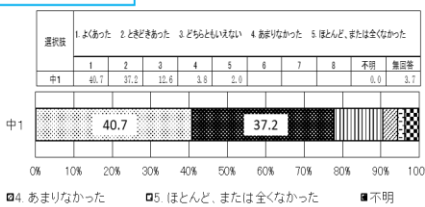
小5(54)  
中1(61)  
中2(54)

あなたの去年の国語※の授業では、次のようなことがどれくらいありましたか。  
話し合いや集めた資料から、自分の考え方が変わったり、深まったりしたこと。 ※中2のみ数学

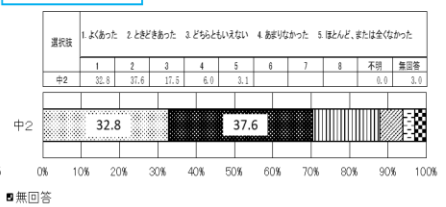
### 小学校5年



### 中学校1年



### 中学校2年



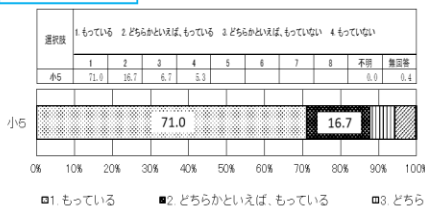
(1-2) 粘り強く挑む力

## 将来の夢や目標をもっている

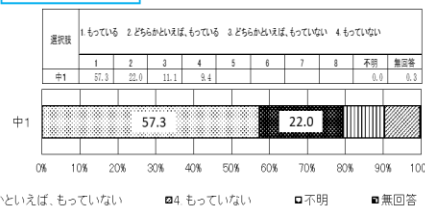
小5(19)  
中1(26)  
中2(19)

将来の夢や目標をもっていますか。

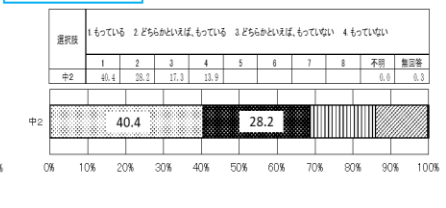
### 小学校5年



### 中学校1年



### 中学校2年



## (1-3) 自己肯定感・自己効力感

### 自分には、よいところがあると思う

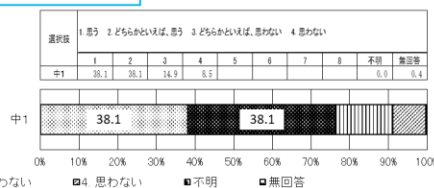
小5(16)  
中1(23)  
中2(16)

自分には、よいところがあると思いますか。

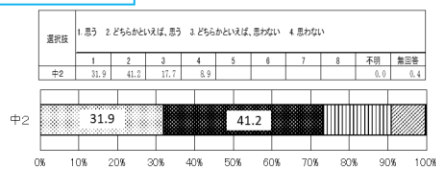
#### 小学校5年



#### 中学校1年



#### 中学校2年

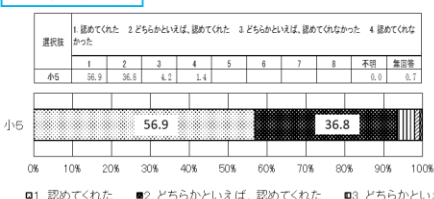


### 先生がよいところを認めてくれている

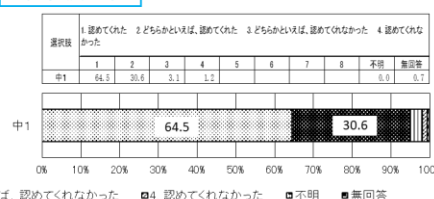
小5(40)  
中1(47)  
中2(40)

学校の先生たちは自分のよいところを認めてくれましたか。

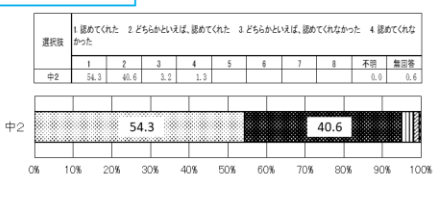
#### 小学校5年



#### 中学校1年



#### 中学校2年

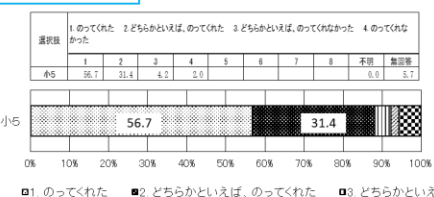


### 先生が相談にのってくれる

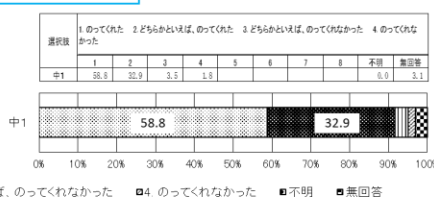
小5(41)  
中1(48)  
中2(41)

学校の先生たちは自分の悩みの相談にのってくれましたか。

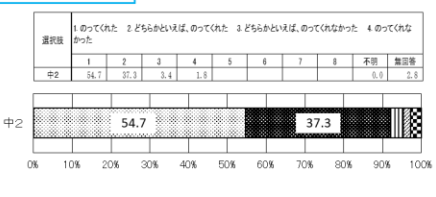
#### 小学校5年



#### 中学校1年



#### 中学校2年

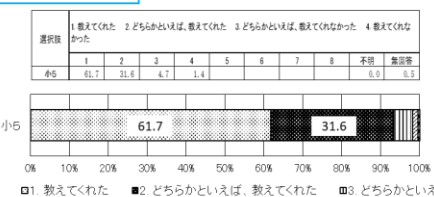


### 先生が分かるまで教えてくれる

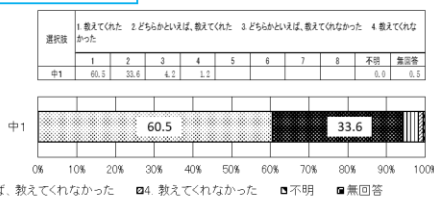
小5(43)  
中1(50)  
中2(43)

先生は、授業やテストで理解していないところや、間違えたところについて、わかるまで教えてくれましたか。

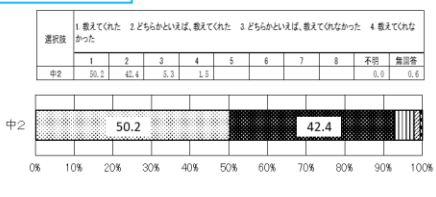
#### 小学校5年



#### 中学校1年



#### 中学校2年



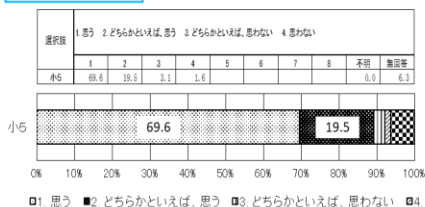
## (1-4) 協働する力

### 人の役に立つ人間になりたい

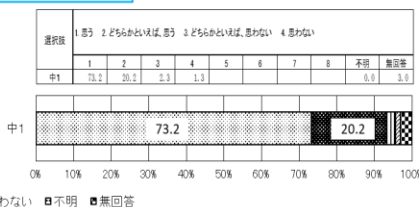
小5(18)  
中1(25)  
中2(18)

人の役に立つ人間になりたいと思いますか。

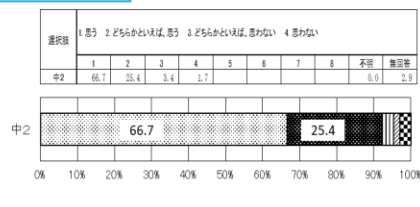
#### 小学校5年



#### 中学校1年



#### 中学校2年



### 自分と違う意見について考えるのが楽しい

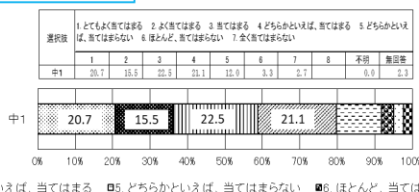
小5(20)  
中1(27)  
中2(20)

自分と違う意見について考えるのは楽しいですか。

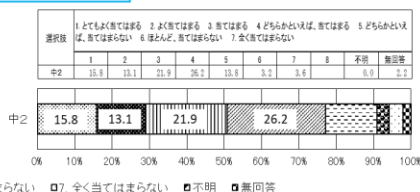
#### 小学校5年



#### 中学校1年



#### 中学校2年



### 「学びを調整する力」に関わる項目

- 「小5(54)中1(61)中2(54)あなたの去年の国語(中2のみ数学)の授業では、次のようなことがどれくらいありましたか。話し合いや集めた資料から、自分の考え方が変わったり、深まったりしたこと。」については、いずれの調査学年においても肯定的回答が7割以上であった。

### 「粘り強く挑む力」に関わる項目

- 「小5(19)中1(26)中2(19)将来の夢や目標をもっていますか」については、小学校5年生では肯定的回答が8割以上であり、中学校1年生、2年生では約7割であった。

### 「自己有用感・自己効力感」に関わる項目

- 「小5(40)中1(47)中2(40)学校の先生たちは自分のよいところを認めてくれましたか」については、いずれの調査学年においても肯定的回答が8割以上であった。

### 「協働する力」に関わる項目

- 「小5(18)中1(25)中2(18)人の役に立つ人間になりたいと思いますか」については、いずれの調査学年においても肯定的回答が8割以上であった。

(2) 学校質問調査に関する調査結果

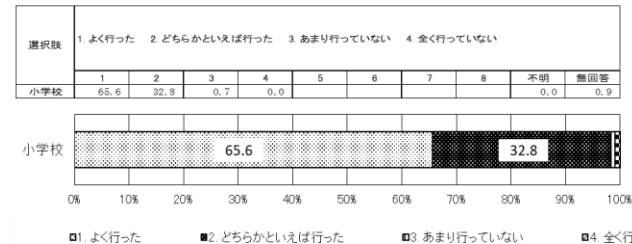
学びを調整する力の育成及び組織運営に関わる取組状況に係る学校質問調査結果と分析したことを示す。

PDCAサイクルを確立している

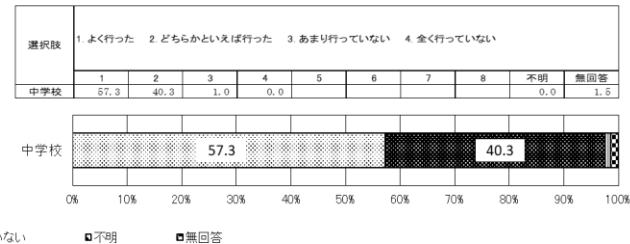
小学校(4)  
中学校(3)

児童生徒の学力について、現状把握と分析を行い、課題を把握しましたか。

小学校



中学校

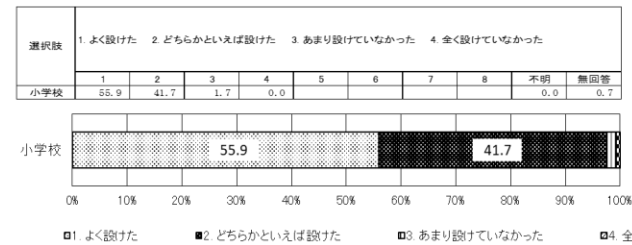


現状や課題を教職員間で共有している

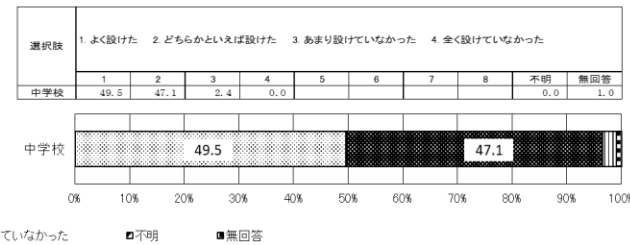
小学校(9)  
中学校(8)

学校の現状・分析・課題等について、教職員の間で話し合う機会を設けましたか。

小学校



中学校

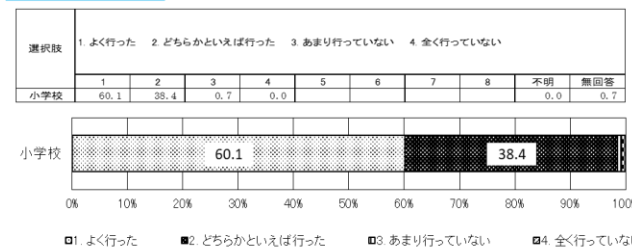


自分のよさや成長を実感させる活動を実施した

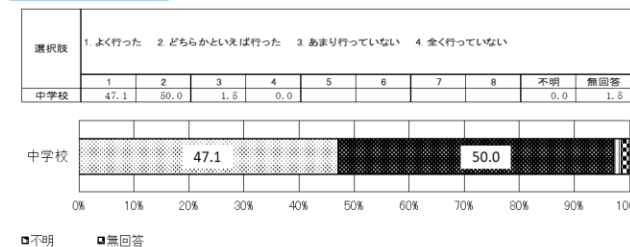
小学校(25)  
中学校(24)

児童生徒に対して、自分のよさや成長を実感させるような具体的な活動を行いましたか。

小学校



中学校

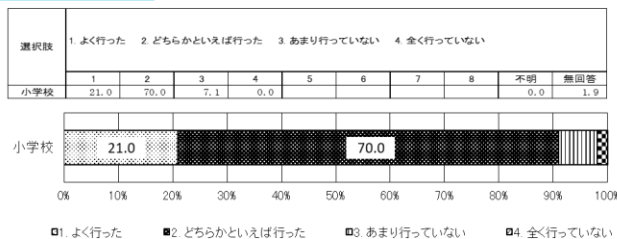


## 将来の夢等について考えさせる活動を実施した

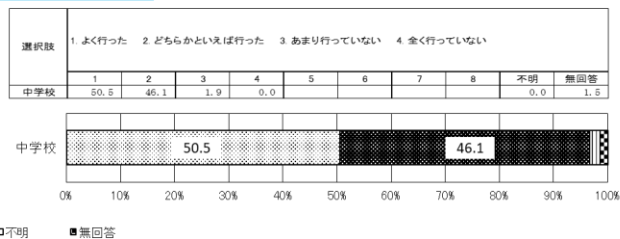
小学校(27)  
中学校(26)

児童生徒に対して、将来就きたい仕事や夢について考えさせるような具体的な活動を行いました。

### 小学校



### 中学校



## PDCAサイクルの確立・教職員間での情報共有

○「小（４）中（３）児童生徒の学力について、現状把握と分析を行い、課題を把握しましたか」「小（９）中（８）学校の現状・分析・課題等について、教職員の間で話し合う機会を設けましたか」については、肯定的回答をした学校が８割以上であった。

## 自分のよさを実感、将来の夢等を考えさせる活動の実施

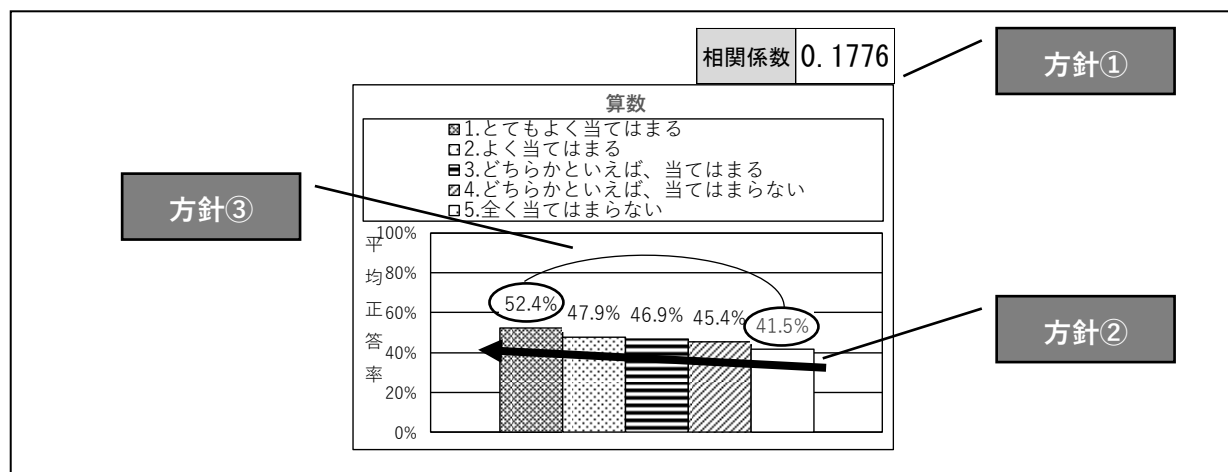
○「小５（４０）中１（４７）中２（４０）学校の先生たちは自分のよいところを認めてくれましたか」「小５（１９）中１（２６）中２（１９）将来の夢や目標を持っていますか」に関わる「小（２５）中（２４）児童生徒に対して、自分のよさや成長を実感させるような具体的な活動を行いましたか」「小（２７）中（２６）児童生徒に対して、将来就きたい仕事や夢について考えさせるような具体的な活動を行いましたか」では、肯定的回答をした学校が８割以上であった。

# (1) 児童生徒質問調査〔学びに向かう力、人間性等〕と教科に関する調査〔国語、算数・数学、英語〕のクロス分析

児童生徒質問調査と教科に関する調査との関連性を検討するため、質問項目と各教科の平均正答率とのクロス集計を行った。以下では、その結果を学年別にグラフ化することで、質問に肯定的・否定的に回答している児童生徒が学力調査でどのような結果を出しているのかを可視化し、そこで見られた傾向について考察を行った。

分析対象となる質問事項が9項目あることから、見るべきポイントを焦点化するために次のような方針で進めた。

- ① 相関係数が0.2以上あるか。
- ② 相関は見られなくとも、肯定的な回答の児童生徒ほど、教科の正答率が高い傾向にあるか。
- ③ 「最も肯定的な回答をした児童生徒の平均正答率」と、「最も否定的な回答をした児童生徒の平均正答率」の差が10ポイント程度見られるか。



## 相関係数とは

2つの項目（例：「読書が好きか」と「国語の正答率」）の間に、どれくらい関係があるかを-1から+1までの範囲の数値で表すもの。

+1に近い：一方が高いともう一方も高い（正の関係）

0に近い：ほとんど関係がない

-1に近い：一方が高いともう一方は低い（負の関係）

例えば、「読書が好きな児童ほど国語の正答率が高い」場合、相関係数は0.2や0.3などプラスの値になる。

本報告書では、相関係数が0.2以上の場合、「相関が見られる」と捉える。

ただし、相関係数が高くても「どちらかが原因」という意味ではなく、あくまで「一緒に変化しやすい」という意味にとどまることに注意する必要がある。

本調査においては、文部科学省の結果分析に沿って、相関係数が0.2以上の場合に相関がみられると捉え、赤字で示している。

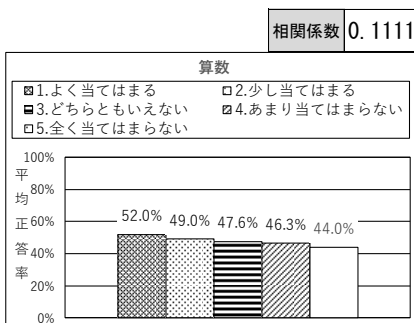
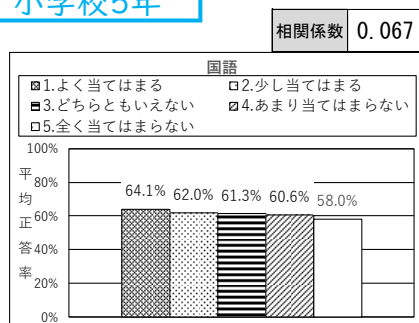
ここからのクロス集計分析では、「学びに向かう力、人間性等」と「知識及び技能」及び「思考力、判断力、表現力等」の相関について考察する。

## 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善

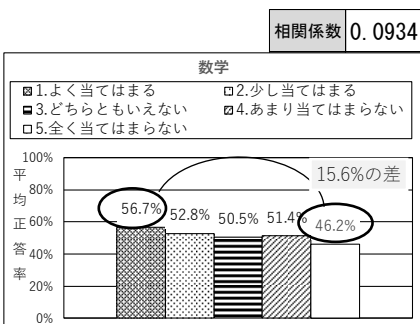
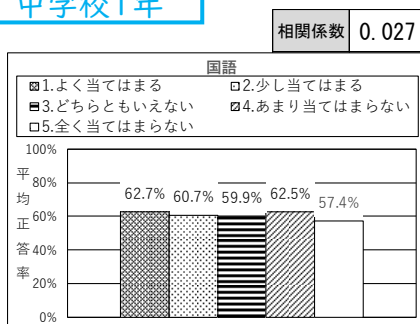
### 勉強のやり方を工夫している

2(イ) 勉強でわからないところがあったら、勉強のやり方をいろいろ変えてみる。

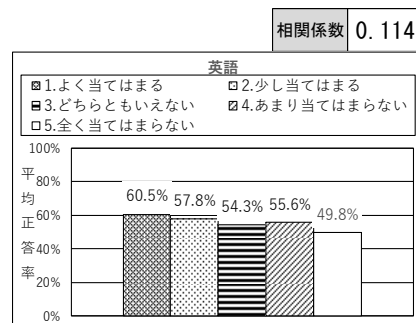
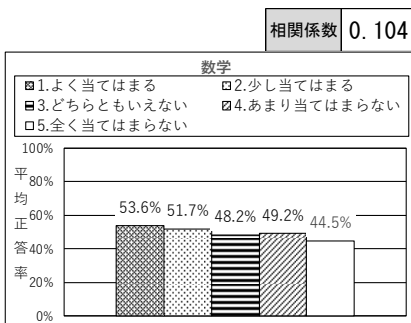
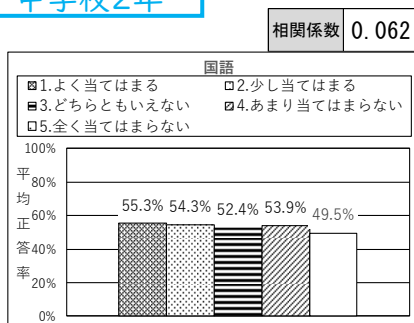
#### 小学校5年



#### 中学校1年



#### 中学校2年



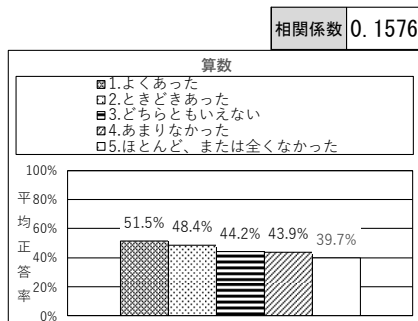
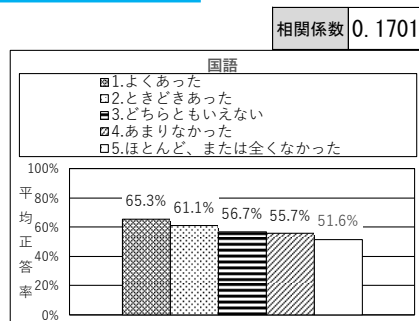
## 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善

### 話し合いや資料により、考えが変容している実感がある

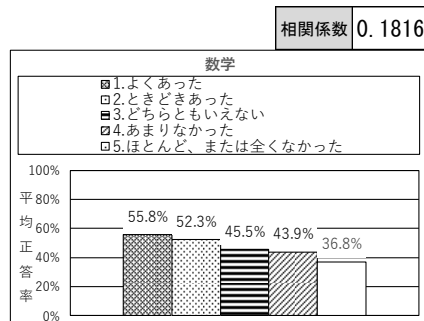
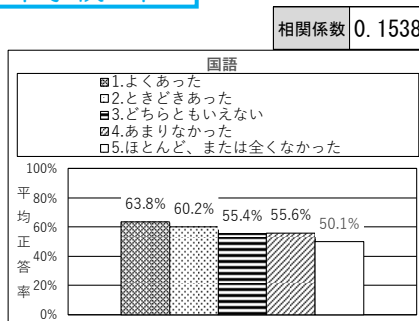
小5(54)  
中1(61)  
中2(54)

あなたの去年の国語※の授業では、次のようなことがどれくらいありましたか。  
話し合いや集めた資料から、自分の考えが変わったり、深まったりしたこと。 ※中2のみ数学

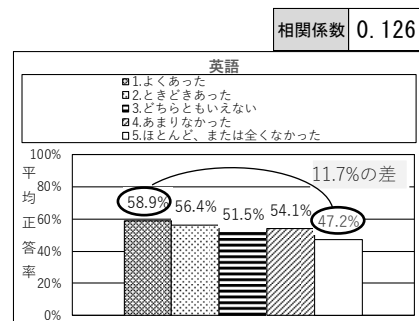
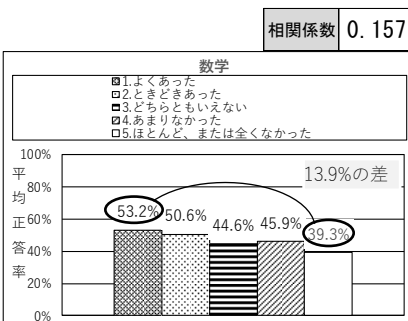
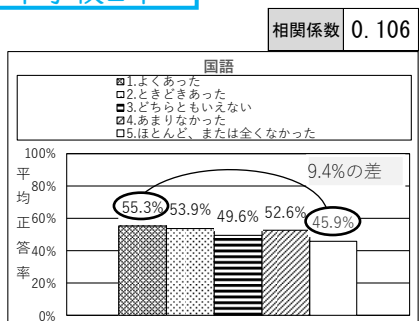
#### 小学校5年



#### 中学校1年



#### 中学校2年



自分の学習方法について考え工夫する児童生徒ほど、各教科の正答率がやや高い傾向があった。

授業において、話し合いや集めた資料から、自分の考えが変わったり深まったりしたことがよくあったと思う児童生徒ほど、各教科の正答率がやや高い傾向があった。

また、中学2年生において、選択肢1（最も肯定的）の生徒と選択肢5（最も否定的）の生徒の正答率の差が大きい。

## 家庭学習の状況

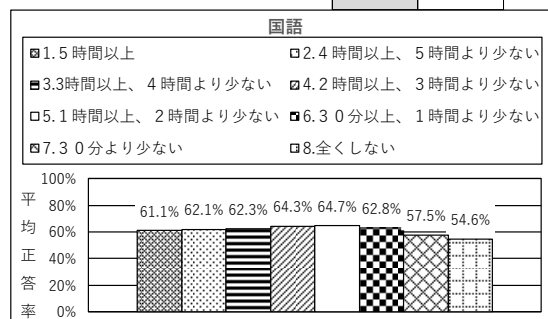
### 学校外での平日の勉強時間

小5(60)  
中1(67)  
中2(63)

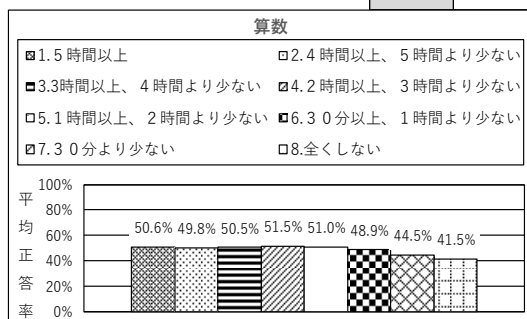
学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含まれます。)

#### 小学校5年

相関係数 0.079

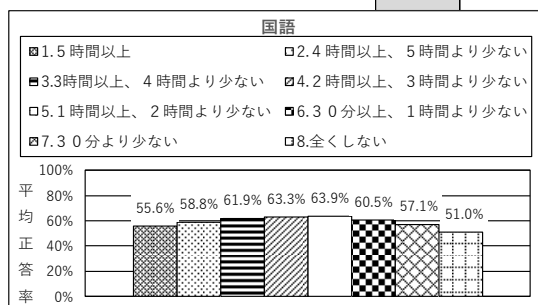


相関係数 0.119

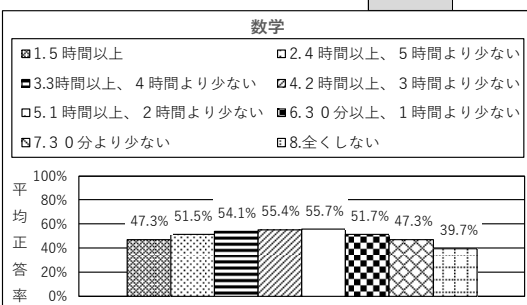


#### 中学校1年

相関係数 0.083

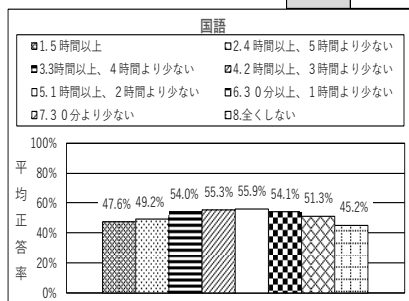


相関係数 0.109

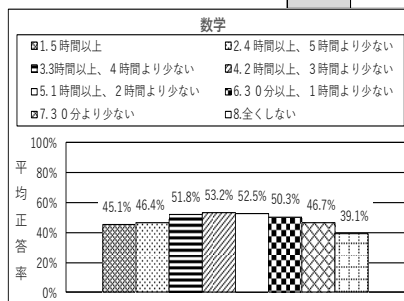


#### 中学校2年

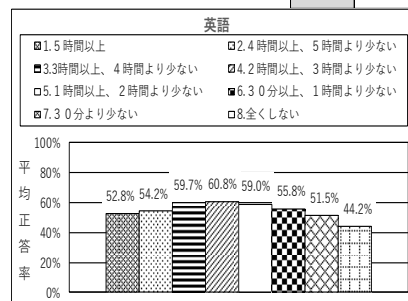
相関係数 0.083



相関係数 0.120



相関係数 0.163



## 家庭学習の状況

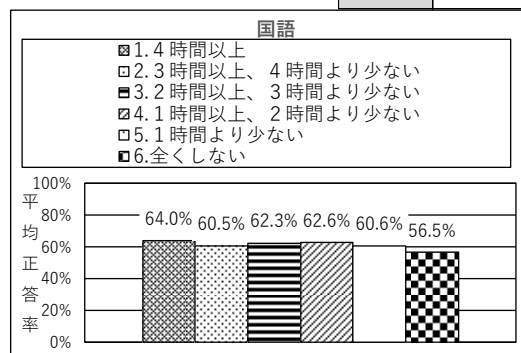
### 学校外での休日の勉強時間

小5(59)  
中1(66)  
中2(62)

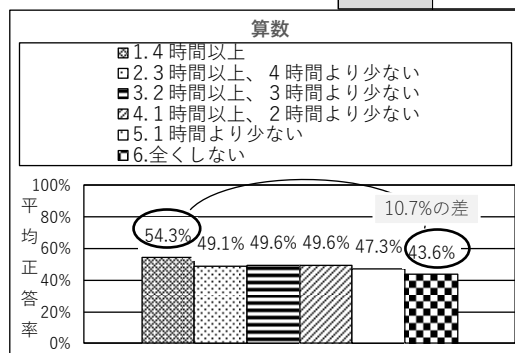
土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。  
(学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含まれます。)

#### 小学校5年

相関係数 0.076

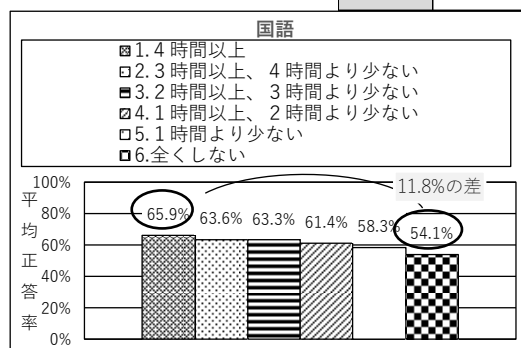


相関係数 0.117

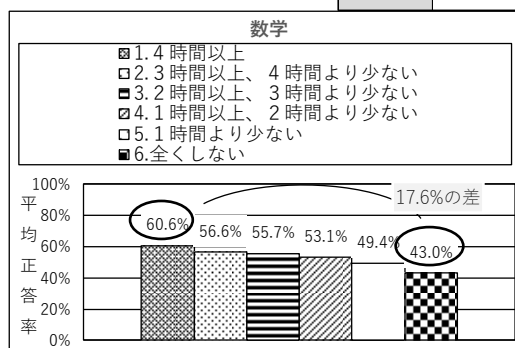


#### 中学校1年

相関係数 0.133

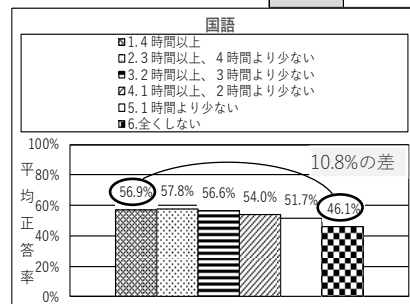


相関係数 0.168

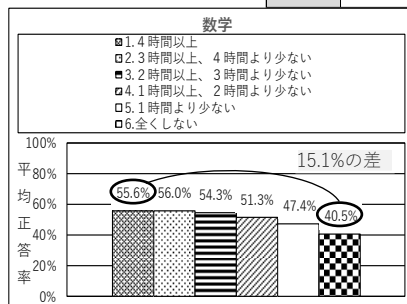


#### 中学校2年

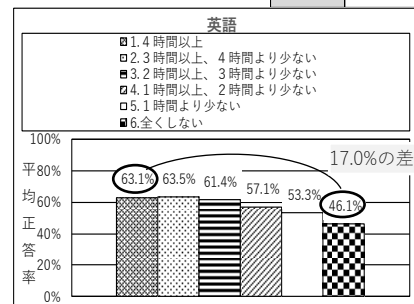
相関係数 0.161



相関係数 0.197



相関係数 0.222

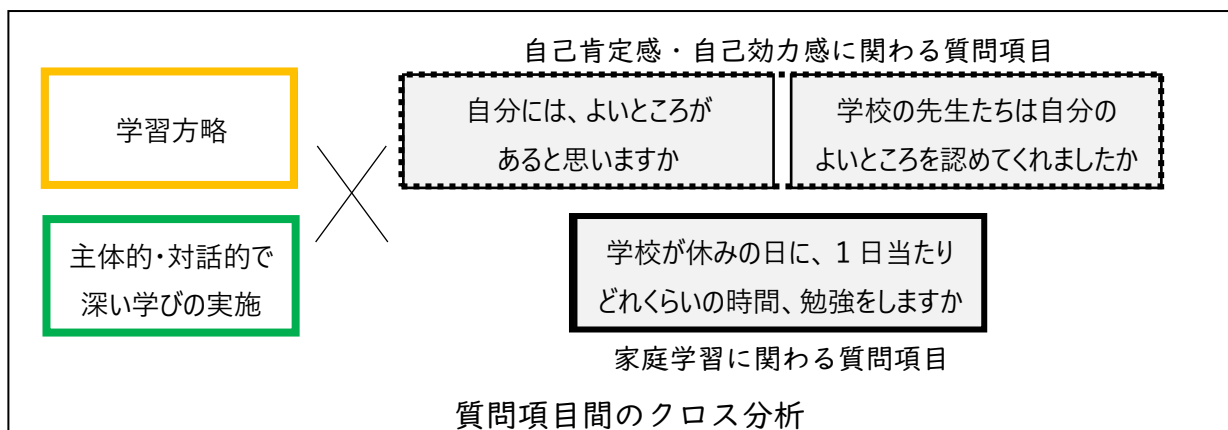


学校の授業以外での平日の1日当たりの勉強時間と、国語、算数・数学、英語の正答率との間には大きな関連は見られなかったものの、全くしないと回答した児童生徒は、他の回答をした児童生徒よりも正答率がやや低い傾向にあった。

上の学年ほど、休日の勉強時間と各教科の正答率に高い相関が見られた。

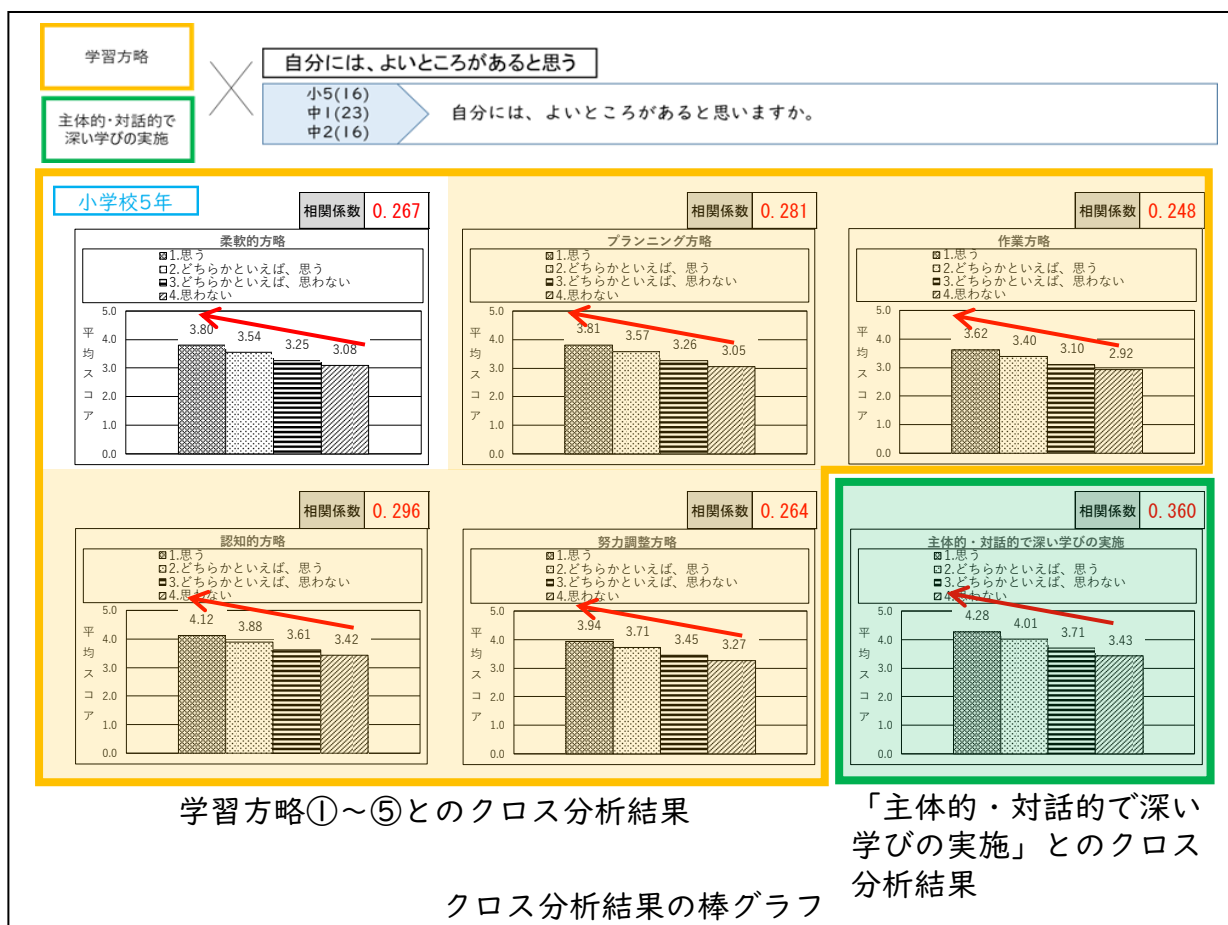
## (2) 児童生徒質問調査〔学びに向かう力、人間性等〕項目間のクロス分析

児童生徒質問調査項目間での関連性を検討するため、下の「質問項目のクロス分析」に示す学習方略及び主体的・対話的で深い学びの実施と自己肯定感・自己効力感及び家庭学習に関わる質問項目間のクロス集計を行った。



クロス分析の結果は、下の「クロス分析結果の棒グラフ」のように学年別にグラフ化している。縦軸に学習方略又は主体的・対話的で深い学びの実施についての子供の回答の平均を、横軸に自己肯定感・自己効力感又は家庭学習に関わる質問項目の回答を取っている。横軸は、一番左の部分が最も肯定的である「1」を回答した児童生徒の割合を表している。なお、相関係数が大きいとき、グラフは左に行くほど高くなる。

下の図「柔軟的方略」を例にすると、「自分には、よいところがある」について最も肯定的な回答をした児童は「柔軟的方略」に係る質問の回答の平均が高い（3.80（最大5））ことが分かる。



## ○学習方略

下表の質問項目一覧①に示すように、5つの学習方略がある。それぞれの方略に対応する質問項目が4項目あるため、分析では4項目に対する子供の回答の平均（平均スコア）をクロス分析に利用している。回答の選択肢は、「5よく当てはまる」「4少し当てはまる」「3どちらともいえない」「2あまり当てはまらない」「1全く当てはまらない」の5つ。

① 柔軟的方略 … 自分の状況に合わせて学習方法を柔軟に変更していく活動
サ 勉強のやり方が、自分にあっているかどうかを考えながら勉強する
イ 勉強でわからないところがあったら、勉強のやり方をいろいろ変えてみる
コ 勉強しているときに、やった内容を覚えているかどうかを確認める
セ 勉強する前に、これから何を勉強しなければならないかについて考える
② プランニング方略 … 計画的に学習に取り組む活動
ス 勉強するときは、最初に計画をたててからはじめる
タ 勉強をしているときに、やっていることが正しくできているかどうかを確認める
チ 勉強するときは、自分で決めた計画に沿って行う
ク 勉強しているとき、たまに止まって、一度やったところを見なおす
③ 作業方略 … ノートに書く、声に出すといった、「作業」を中心に学習を進める活動
ア 勉強するときは、参考書や事典などがすぐ使えるように準備しておく
ソ 勉強する前に、勉強に必要な本などを用意してから勉強するようにしている
シ 勉強していて大切だと思ったところは、言われなくてもノートにまとめる
ト 勉強で大切なところは、繰り返して書いたりしておぼえる
④ 認知的方略 … より自分の理解度を深めるような学習活動
ケ 勉強するときは、内容を頭に思い浮かべながら考える
テ 勉強をするときは、内容を自分の知っている言葉で理解するようにする
ウ 勉強していてわからないところがあったら、先生にきく
キ 新しいことを勉強するとき、今までに勉強したことと関係があるかどうかを考えながら勉強する
⑤ 努力調整方略 … 「苦手」などの感情をコントロールして学習への意欲を高める活動
オ 学校の勉強をしているとき、とてもめんどくさいと思うことがよくあるの
ツ 今やっていることが気に入らなかったとしても、学校の勉強でよい成績をとるために一生懸命がんばる
カ 授業の内容が難しいときは、やらずにあきらめるか簡単などころだけ勉強する
エ 問題が退屈でつまらないときでも、それが終わるまでなんとかやり続けられるように努力する

### 質問項目一覧①

## ○主体的・対話的で深い学びの実施

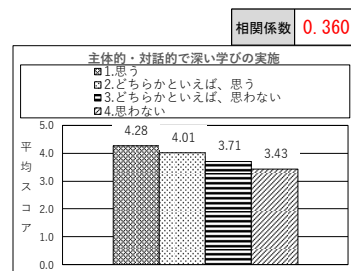
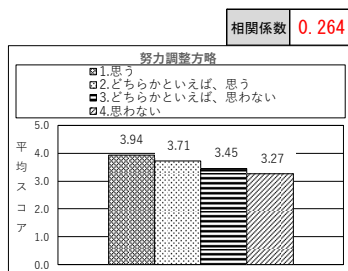
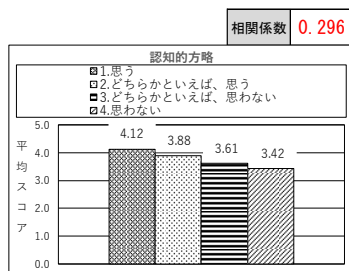
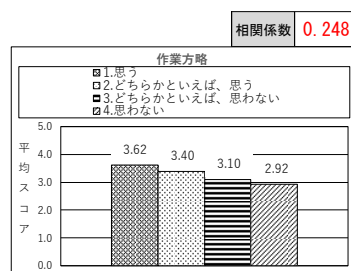
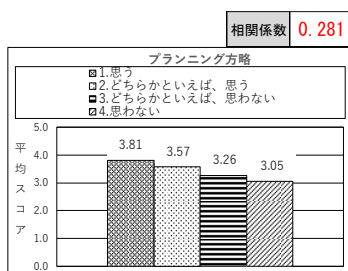
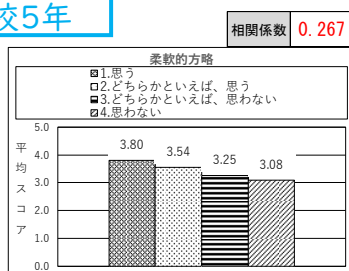
下表の質問項目一覧②に示すように、9項目あるため、分析では9項目に対する子供の回答の平均（平均スコア）をクロス分析に利用している。回答の選択肢は、「5よくあった」「4ときどきあった」「3どちらともいえない」「2あまりなかった」「1ほとんど、または全くなかった」の5つ。

<p>(問：あなたの去年の国語※の授業では、次のようなことがどれくらいありましたか。)</p> <p>※中2のみ数学</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の始めに、今日ではどんな学習をするのかをつかんでから学習に取り組んだこと</li> <li>・授業の終わりに、授業で学んだことを振り返り、自分がわかったことやわからなかったことを理解したこと</li> <li>・わからないことなどを質問しやすい雰囲気の中で授業が行われたこと</li> <li>・グループやペアで、話し合ったり、意見や考えを出し合ったりして課題を解決したこと</li> <li>・課題の解決に向けて、話し合ったり交流したりしたことで、自分の考えをしっかりとめるようになったこと</li> <li>・話し合いや集めた資料から、自分の考え方が変わったり、深まったりしたこと</li> <li>・授業を通して学んだ内容について、さらに詳しく知りたい、学びたいと思ったこと</li> <li>・授業で学んだことが、以前に学習した知識とつながったこと</li> <li>・授業で学んだことを、日常の生活に生かせると感じたこと</li> </ul>
---

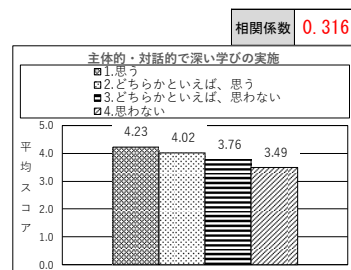
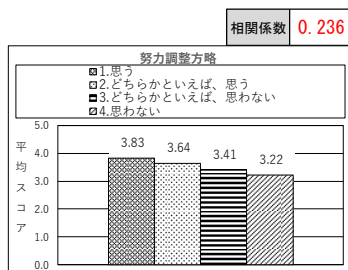
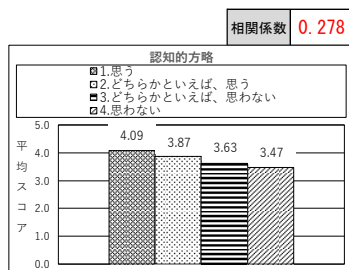
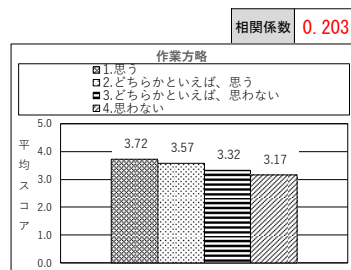
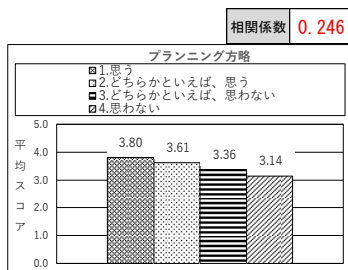
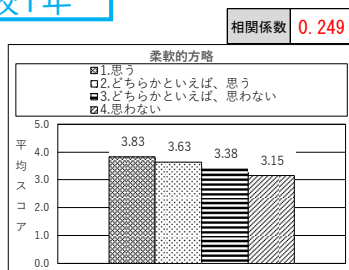
出典：「令和6年度 埼玉県学力・学習状況調査報告書」P83 [https://www.pref.saitama.lg.jp/documents/263999/r6\\_5shouu.pdf](https://www.pref.saitama.lg.jp/documents/263999/r6_5shouu.pdf)

### 質問項目一覧②

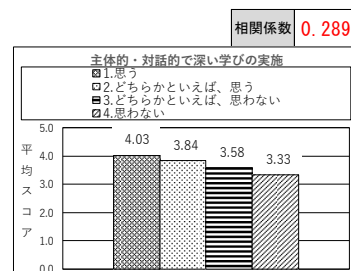
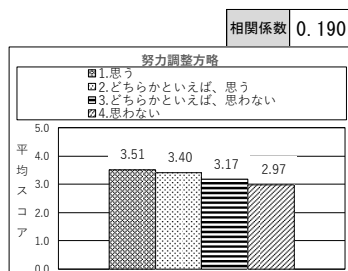
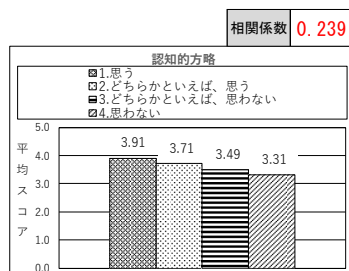
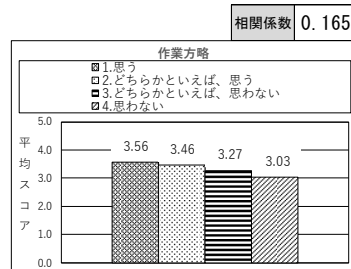
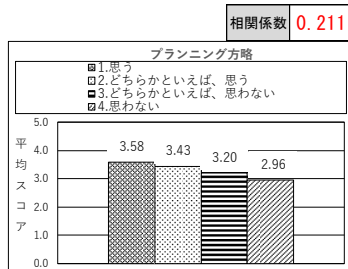
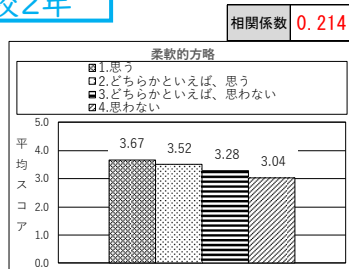
## 小学校5年



## 中学校1年



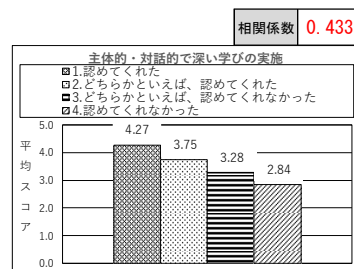
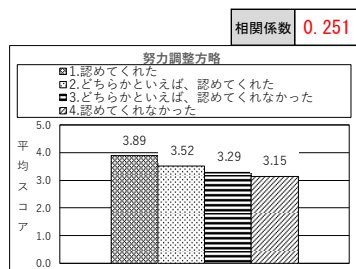
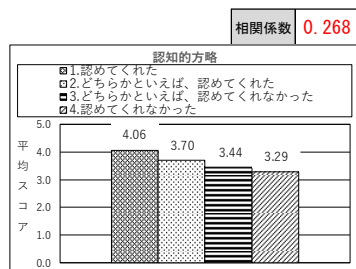
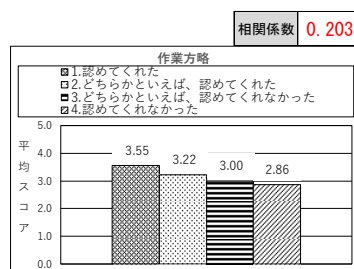
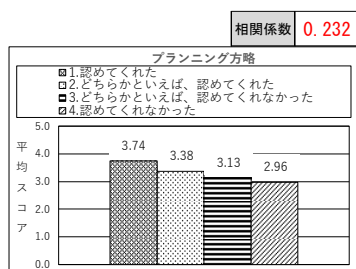
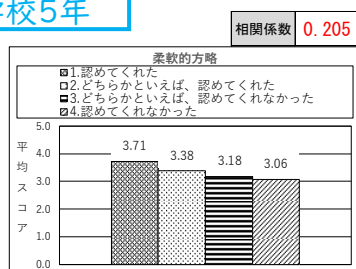
## 中学校2年



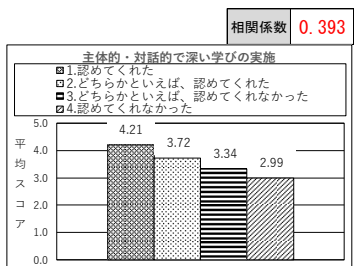
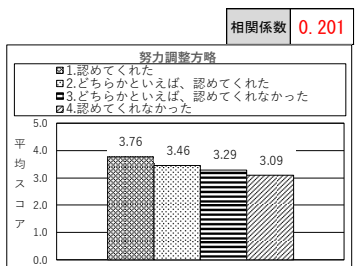
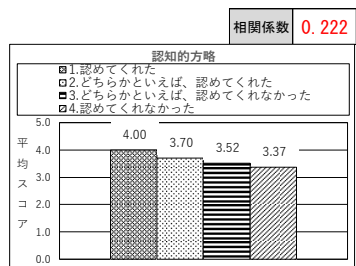
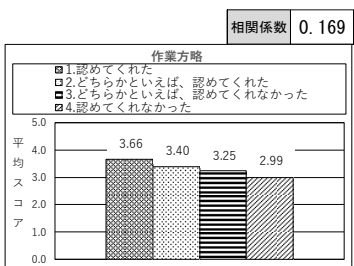
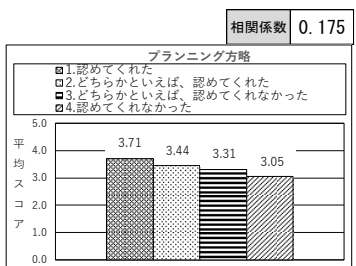
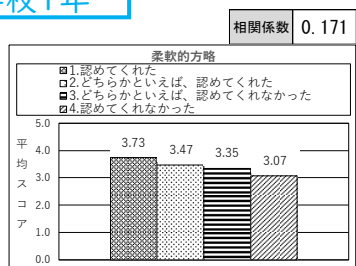
小5(40)  
中1(47)  
中2(40)

学校の先生たちは自分のよいところを認めてくれましたか。

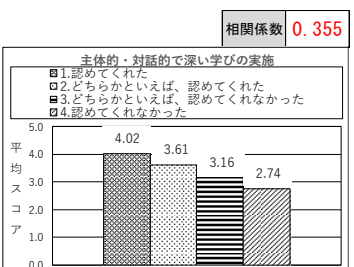
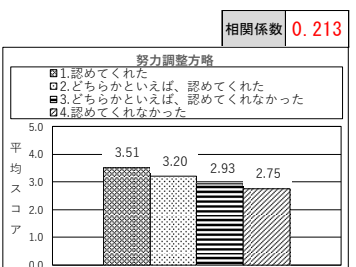
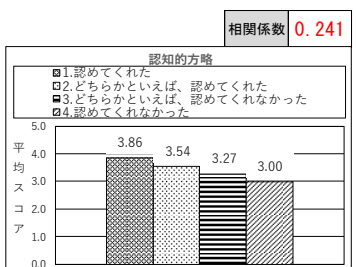
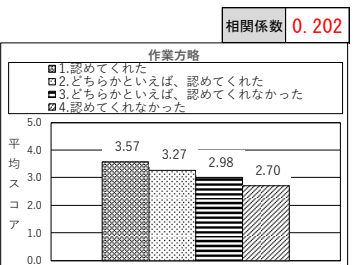
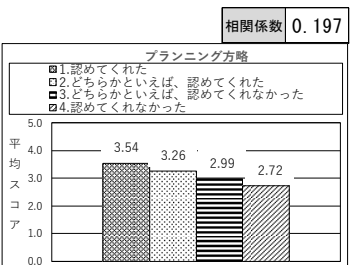
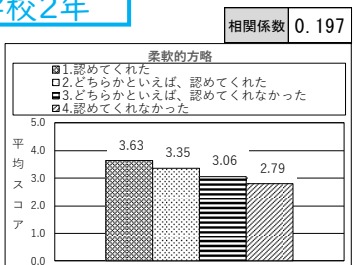
小学校5年



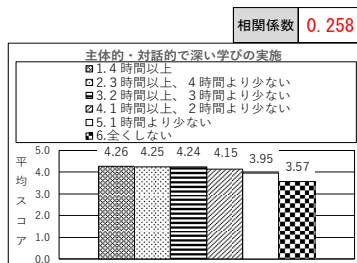
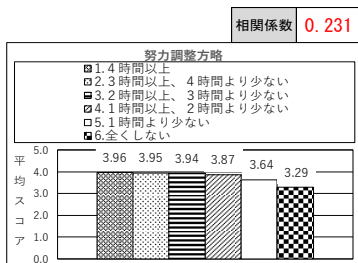
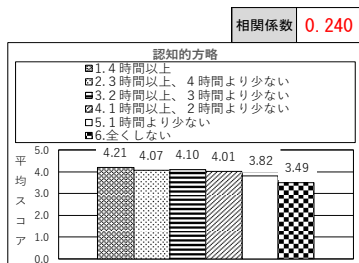
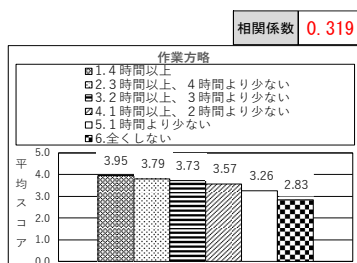
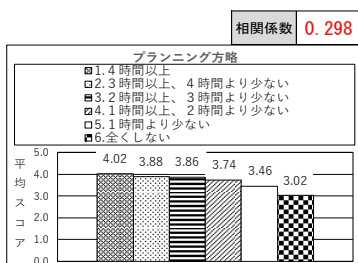
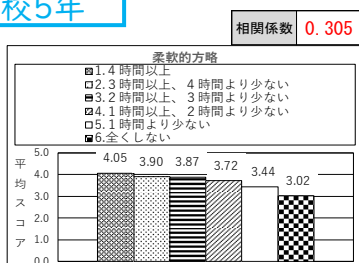
中学校1年



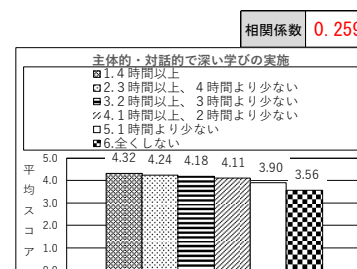
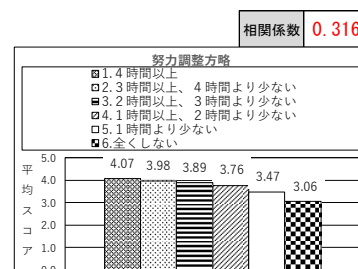
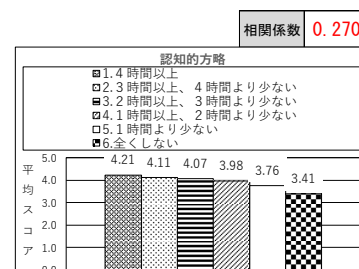
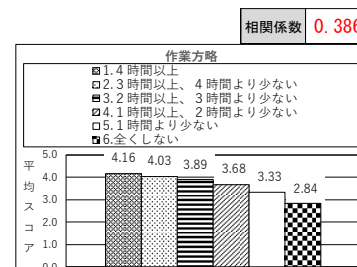
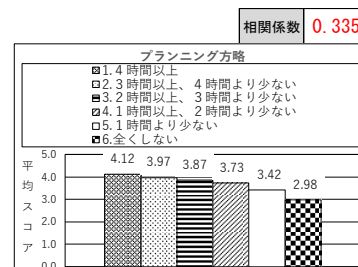
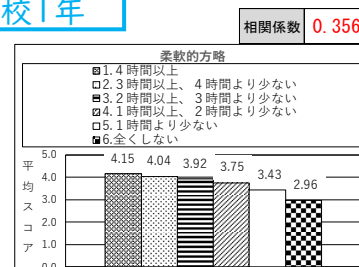
中学校2年



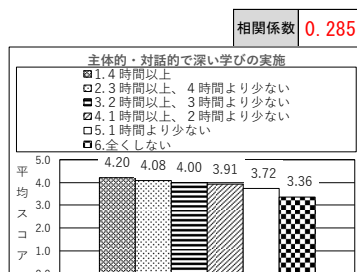
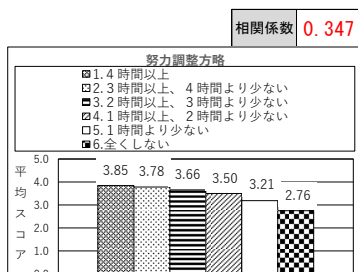
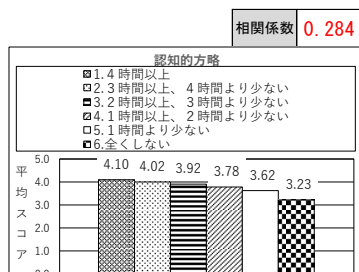
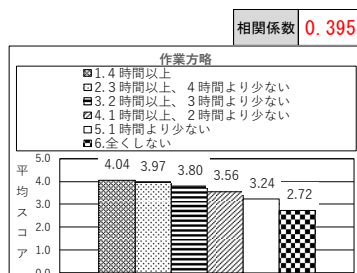
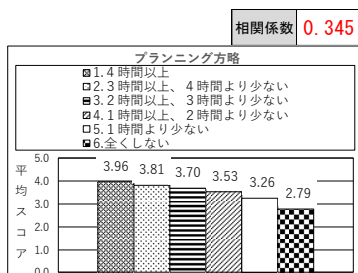
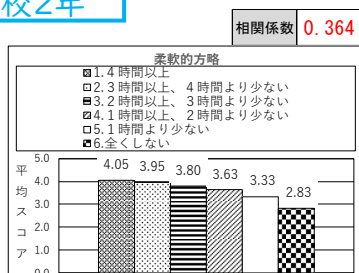
## 小学校5年



## 中学校1年



## 中学校2年



クロス分析の結果により、小学校5年生、中学1年生、中学2年生において、いずれの結果においても相関がみられた。

○5つの学習方略のうち、特に①柔軟的方略、②プランニング方略、④認知的方略と「小5（16）中1（23）中2（16）自分には、よいところがあると思いますか」との間に正の相関が見られた。

➡内的な自己評価が高いほど、自ら学習効果をより高めようとする意識や、自分の学習を設計・調整し、理解を深めようとする傾向があると考えられる。

○5つの学習方略のうち、特に④認知的方略、⑤努力調整方略と「小5（40）中1（47）中2（40）学校の先生たちは自分のよいところを認めてくれましたか」との間に正の相関が見られた。

➡外的な承認を感じているほど、「苦手」などの感情をコントロールし、努力して学習する姿勢や、既習を想起したり自分の言葉で考えたりして理解を深めようとする傾向にあると考えられる。

○全ての学習方略と「小5（59）中1（66）中2（59）土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。」との間に正の相関が見られた。

➡休日の学習時間が長いほど、学習効果をより高めようとする意識も高い傾向があると考えられる。また教員からの承認を感じているほど、努力して学習する姿勢や、頭を働かせながら学習する態度が見られる傾向があると考えられる。

○主体的・対話的で深い学びの実施と「小5（16）中1（23）中2（16）自分には、よいところがあると思いますか」「小5（40）中1（47）中2（40）学校の先生たちは自分のよいところを認めてくれましたか」「小5（59）中1（66）中2（59）土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。」の3つの項目との間に正の相関が見られた。

➡学校での、自ら考え、対話し、理解を深める学びが、内的な自己評価や外的な承認と関連すること、休日の学習時間とも関係することが示唆された。

分析協力：株式会社内田洋行

## 資質・能力の育成に成果を上げている 学校の事例紹介

令和7年度全国学力・学習状況調査結果の教科に関する調査結果及び児童生徒質問調査結果（主に、「学びを調整する力」）において、成果を上げている学校を、「資質・能力のバランスのよい育成が図られている学校」としてとらえ、その学校で行われている取組を紹介する。

### 【学校の事例紹介ページの見方】

その学校の特徴を短いフレーズで表している。

学校名はアルファベットで示す。学校規模をイメージできるように児童生徒数（R7.5.1時点）を示す。

○小学校〈児童数：○○○名〉

R7全国学調で見られた成果

知識及び技能の習得  
思考力、判断力、表現力等の育成

学びに向かう力、人間性の涵養  
（特に、「学びを調整する力」）

当該学校の標準化得点、学力層、記述式問題の正答率等について、多面的に分析し、特徴的な成果を示している。

質問調査結果のうち、県が「学びを調整する力」に関する項目としている下表の7つの項目の回答状況を中心に、特徴的な成果を示している。

(16)	分からないことやくわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか。
(31)	授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。
(32)	授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた
(33)	授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた
(35)	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている
(36)	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている
(37)	授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思う

授業づくりに関わる特徴的な取組、その目的、取組の具体を紹介している。

学習基盤づくり等に関わる特徴的な取組について、その目的、取組の具体を2事例紹介している。

組織的に学力向上の取組を推進する工夫

R7学力向上プラン等に示している重点事項等、県として大切にしている視点「表す活動」「学力層や個への着目」「家庭での学習習慣」「ICT活用」に関連している取組であることを示している。

学校の規模や校務分掌等に応じて、学校全体で上記の取組を組織的に推進するための仕組みや工夫を紹介している。

## 考えたことを話したい！ 交流の楽しさを実感するしくみ

A小学校〈児童数：277名〉

### R7全国学調で見られた成果

知識及び技能の習得  
思考力、判断力、表現力等の育成

- ・国語のA、B層が全国と比べて約20%多い。また、記述式の2問の正答率は全国と比べて高い(2三は+11.2%、3三(2)は+18.7%)。
- ・算数、理科も記述式の正答率は全国と比べて全て高い。

学びに向かう力、人間性の涵養  
(特に、「学びを調整する力」)

- ・児童質問は、7項目全て全国を上回っている。
- ・(33)は最も肯定的な回答「1」と回答した児童が41.9%(全国比+13.2%)。まとめる活動を行っていると感じている児童が多い。

### 学習意欲を高める ～交流活動「アップデートトーク」～

○「アップデートトーク」とは

個別の考えや表現を、他者と学び合い、深い考えを導き出したり、つくりだしたりすることで、課題を解決し、友達と学ぶよさや楽しさを味わう交流活動。

1単位時間に複数回位置付け、児童同士の交流によって主眼に迫ることを目的としている。

そのために

- ・既習や前時の学習内容との比較など、話しやすい内容から「アップデートトーク」を始める。
- ・話し合いたくなる、思いや考えを揺さぶるような発問の工夫を行う。
- ・目的に応じて、ペアや班、違う意見の友達など形態を工夫する。

#表す活動

### 取り組む内容を焦点化 ～チャレンジタイム～



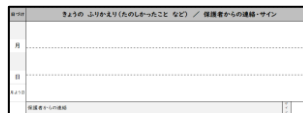
- ・チャレンジタイムとして、※学びタイムⅠ+1校時を合わせた60分で行う。
- ・学力調査等で課題が見られた問題を中心に作成したプリントに取り組む。
- ・学年ごとに1週間ずつ実施し、担任外の教員や地域人材等がサポートに入る。

※学びタイムⅠは、毎朝15分間、視写・音読・計算に取り組んでいる帯学習の時間。

#学力層・個

### 語彙力、書く力の向上 ～A小っ子ノート～

- ・学びタイムⅡ(帰りの会の前の10分間)にその日の生活や学習を振り返って3行日記をノートに書く。
- ・書き終えたら、文章の中にいくつ漢字を使ったかを数え、記録していく。



#表す活動

### 組織的に学力向上の取組を推進する工夫

○A小スタンダード強化週間の設定

授業において大切にしたい学習規律「A小スタンダード」を身に付けていることができているかという視点で、授業公開をして互いに研鑽し合っている。また、管理職は、表情、声、視線等、授業者として大切にしたい振る舞い方について「リフレクションシート」をもとに授業者にフィードバックしている。

## 子供が自分で選ぶ、決める そのための「材料」がある

B小学校〈児童数：171名〉

### R7全国学調で見られた成果

知識及び技能の習得  
思考力、判断力、表現力等の育成

- ・A、B層が全ての教科で全国より多い。
- ・国語のA、B層は全国と比べて約20%多い。
- ・記述式の正答率が全国と比べて高い。理科の1(2)は全国比+21.3%。

学びに向かう力、人間性の涵養  
(特に、「学びを調整する力」)

- ・児童質問において、(35)は最も肯定的な回答「1」と回答した児童は50.0%(全国比+9.1%)。話し合う活動が自らの学びの深まりにつながっていると感じている児童が多い。

### 自ら学ぶ態度の育成 ～アウトプットを促す発問の工夫～

- ・子供が学習方法(学習用具、表現方法、学習形態)を選択する。
- ・子供の思考に働きかけ、友達に伝えたいなる、友達の考えを知りたいなるように発問を工夫する。

妥当性	〇〇は正しいですか。
関連性	〇〇と△△の同じところはどこですか。
簡潔性	どの考えが簡単にできますか。

正確性	どの考えが正確にできますか。
一般性	いつでも〇〇の考えは使えますか。
能率性	どの考えがよいと思いましたか。

#学力層・個

#表す活動

### 定着状況を把握 ～個人カルテ～

### 個人カルテと連動 ～ドリルタイム～

3年生の内容	1. 時刻や時間を読みとることができる。	2. 1000以内までの数の大小を比較することができる。	3. 3桁+3桁の計算ができる。(筆算)	4. 2桁+3桁の計算ができる。(筆算)	5. 2桁+2桁+1桁の計算ができる。	6. 九九を使って簡単にわり算ができる。	7. 小数のたし算・ひき算ができる。	8. 2桁+3桁+2桁の計算ができる。	9. 4桁のたし算・ひき算の筆算ができる。	10. 同分母の分数のたし算・ひき算ができる。	11. 時刻や時間を読みとることができる。	12. 10000以内までの数の大小を比較することができる。
4年生の内容	1. 2桁+3桁+2桁の計算ができる。	2. 2桁+4桁+2桁の計算ができる。	3. 小数のたし算・ひき算ができる。	4. 小数のかけ算ができる。	5. 小数のわり算ができる。	6. 小数のわり算で商を小数で表すことができる。	7. 長方形や正方形の面積を求めることができる。	8. 図形を並べたものを数えることができる。(数方)	9. 帯分數を含む同分母のたし算・ひき算ができる。	10. 1桁を繰り上げる数と繰り下げを繰り下げる数とを比較することができる。	11. 小数の1000倍や1000分の1の数の関係がある。	

- ・各学年における算数科の内容が定着しているかを問う問題を学校独自で作成し、その結果をまとめたものが個人カルテである。このカルテは子供も教師も共有する。
- ・どの学年のどの内容が身に付いていないか等の個人の定着状況を把握できるため、学力層に応じた支援に活用している。

- ・週4回、5校時前に15分間設定する。
- ・基礎的・基本的な技能の定着のために取り組む。
- ・子供は自分の個人カルテをもとに、取り組む内容を自己決定する。
- ・計算、記述式の読解ドリル、言葉のきまり(語彙)等に取り組む。

#学力層・個

#ICT活用

#学力層・個

### 組織的に学力向上の取組を推進する工夫

- 全職員が納得感をもって授業改善を図るための意図的・計画的な研修の工夫
  - ① アウトプットに関する外部講師による意味付け ② 校内での実践を参観 ③ 各自で実践
- 学力向上に関する取組については、学力向上COを中心に、2カ月でPDCAサイクルを回している。
- 教育委員会主催の人材育成研修
  - 年間8回、若年教員のニーズに合わせ、研修を実施している。内容は、実践的なものを中心としている。また、中堅教師が研修の講師を務めるなど、総合的に人材育成を図っている。

## 発言のハードルを下げること、 他者のアドバイスに耳を傾けること

C小学校〈児童数：211名〉

### R7全国学調で見られた成果

知識及び技能の習得  
思考力、判断力、表現力等の育成

- ・D層の児童の割合が全ての教科で全国より少ない。
- ・思考・判断・表現に係る正答率が高い（全国比 国語+6.8%、算数+2.3%、理科+4.9%）。

学びに向かう力、人間性の涵養  
（特に、「学びを調整する力」）

- ・児童質問は、多くの項目で最も肯定的な回答「1」の割合が高い。
- ・（35）は全国比+34.1%、（37）は全国比+25.6%。話し合う活動が自らの学びの深まりにつながっている、学んだことを次の学習や実生活に結び付けることができていると感じている児童の割合が多い。

### 対話で伸びを実感 ～2つの発言の仕方と振り返り～

#### ○ 目的に応じた発言の仕方を教師と児童で共有

- ・挙手、指名による発言  
⇒意見をまとめたり、自分の考えを整理したりして学級全体に話すとき
- ・挙手をせず自由に発言  
⇒感想を伝えたり、意見を交流したり、互いのつぶやきを聞いて考えを深めたりするとき（発言が少ない友だちの発言を待つ雰囲気も醸成されている。）

#### ○ 振り返りの価値を実感

- ・自分自身の伸び、自分の学びに友だちとの対話が有効だったか、学びをどのようにつなげていくかの視点から選択して記述する。

#表す活動

### 他者に認められて伸びを実感 ～地域人材の活用～

- 総合的な学習の時間を中心に、地域人材を積極的に活用
  - ・「太鼓を教えてくれる〇〇さんのように上手になりたい」という気持ちを持ち、地域の方を始め、周りの人の話を聞き、自分に取り入れようとする意欲を育む。
  - ・ 多くの人が関わることで、地域の方からも認められる、ほめてもらう経験を重ねている。



### 記録更新で伸びを実感 ～朝の学習タイム～

- 朝の10分間で、学習に必要な技能を育成
  - ・タイピングタイムでは、打った文字数を記録している。
  - ・月に1回 最高記録をフォームで集計し、子どもが伸びを確認できるようにしている。

月	火	水	木	金
読書	読書	タイピング		ドリルアプリ

#ICT活用

### 組織的に学力向上の取組を推進する工夫

#### ○ 全国学力・学習状況調査問題を活用した研修の実施

- ①職員みんなで調査問題を実際に解き、どのようなことを問われているかを知る。
- ②その問題を解くために必要な力や5年生までに身に付けておく内容を確認する。
- ③自分が担当する学年の子供に身に付けさせたい力を検討し、その後の取組につなげる。
- ④取組の評価・改善を行い、次の取組につなげる。

## 子供の意欲が続いていく 学びのサイクル

D小学校〈児童数：123名〉

### R7全国学調で見られた成果

知識及び技能の習得  
思考力、判断力、表現力等の育成

- ・全ての教科で全国よりA層が多く、D層が少ない。算数は、その傾向が強い。
- ・記述式全8問中7問で全国を上回っている。国3三(2)(国語の最終問題)の正答率は81.0%で、全国比+24.7%。

学びに向かう力、人間性の涵養  
(特に、「学びを調整する力」)

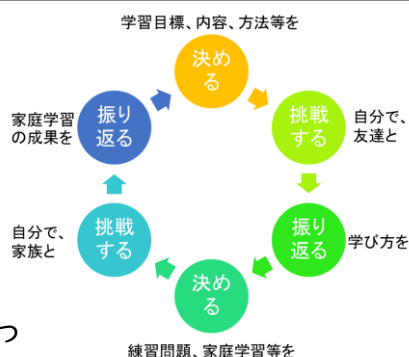
- ・「学びに向かう力」7項目全て全国を上回っている。
- ・(16)は肯定的回答100%。(32)では最も肯定的な回答「1」と回答した児童の割合が63.6%(全国比+34.6%)。自分から学ぶことができていると実感している児童が多い。

## 「やりたい」を大事にした主体的な学び ～D小サイクル～

#表す活動

### ○ 授業と家庭学習をつなぐD小サイクル

- ①学習目標、内容、方法等を**決める** ②自分で、または友達と**挑戦**する ③学びを**振り返る** ④自分で**家庭学習**を決める ⑤**家庭学習**に挑戦する ⑥**家庭学習**を振り返る



自分で目標や計画を立てて取り組む子供が育つ  
課題の解決に向けて、自分で考えて進んで取り組む子供が育つ

## 「毎日挑みたい」 ～朝のD小タイム～

### ○ 自分の課題を見つけ、集中する15分間

- ・基礎的・基本的な内容の習得を図るためのドリルアプリの活用
- ・**金曜日**、家庭学習の内容を決める。**月曜日**、家庭学習を振り返り、そのことについて友達と話し合う。

→ **D小サイクルとの連動**

#ICT活用

#家庭学習

## 「友達と一緒にわかりたい」 ～対話の振り返り～

### ○ 目的をもったアウトプット

「話すために書く」「書くために話す」

- ・**3人グループ**で対話が活性化
- ・考えや表現の違いを質問し合う。
- ・わかるまで話し合い、まとめる。
- ・「対話で考えは深まったか」という視点で、**対話が自分の学びにとってどうだったかを振り返る。**

#表す活動

## 組織的に学力向上の取組を推進する工夫

### ○ DCAPサイクルによる協働的・計画的な組織運営・連携の充実

D→①指標確認、**指標**と関わる**個人のめあて**設定 ②職員会議、「評価検討委員会」の事前の**準備委員会を設定** ③実行を確認

C→児童アンケートと教師アンケートをもとに、要因を分析し、**課題を明確にする**

A→次の課題を**具体化**し、終礼等で周知する

P→**評価指標**を確認し、子供のめあてにつなげる

R7全国学調で見られた成果

知識及び技能の習得  
思考力、判断力、表現力等の育成

- ・同一集団としての伸びが見られる。
- ・国語において、知識・技能に係る正答率が全国を上回っている(+5.4%)。
- ・記述式問題では、国語3三(2)(国語の最終問題)の正答率は67.2%(全国比+10.9%)、理科1(2)の正答率は75.8%(全国比+15.3)であった。

学びに向かう力、人間性の涵養  
(特に、「学びを調整する力」)

- ・児童質問は、7項目全て全国を上回っている。
- ・(35)は最も肯定的な回答「1」と回答した児童58.2%(全国比+17.3%)。話し合う活動が学びの深まりにつながっていると感じている児童が多い。

目指す子供の姿を明確化・共有化 ～E校スタンダード～

- ・全職員が共通の授業や子供の姿の明確なイメージをもったり、授業づくりや授業を参観する際の共通の視点として活用したりする。
- ・「場面」「授業の流れ」「学習活動」「教師の支援」「予想される子供の反応」を明記する。
- ・E校版授業チェックリストと共に研究授業や日常的な授業づくりで活用する。

場面	授業の流れ	学習活動【学習形態】	予想される子供の反応	教師の支援
つかい 見通す	目的意識をもつ めあて提示	1. 課題を把握する。 全体 強	「これまで、〇〇を学習してきたね。」 「なぜ、〇〇なんだろう。」 「調べてみたいな。」 「解決してみたいな。」	○疑問の工夫や課題提示の工夫をして、解決への意欲を高める。
	2. 解決の見通しをもつ。	強 全体 小集団	「結果を予想してみよう。」 「どんな方法で調べるといいかな。」 「〇〇に目をつけて調べてみたらいいんじゃないかな。」	○これまで学習したことを想起させたり、結果や解決方法の見通しをもたせたりする。 【疑問の工夫等】

E校スタンダード(一部抜粋)

#表す活動

子供の当事者意識を育む  
～児童会活動の充実～

- ・代表委員会をリアルタイム中継で全校に配信する。
- ・各学級の意見が代表委員会に反映されていることを実感できる。
- ・子供や教員にとって、学級会のモデルになる。



#ICT活用

自己効力感の高揚

～漢字オリンピック・計算オリンピック～

- ・自らの伸びを実感し、自己効力感を高めることができるように、各学期において「1回目のテスト実施」→「目標設定・練習」→「2回目のテスト実施(伸びを実感)」のサイクルで基礎的な問題のテストに取り取り組む機会を設定する。

#学力層・個

#家庭学習

組織的に学力向上の取組を推進する工夫

○ 効率化したマネジメントサイクル

9年間で目指す資質・能力、主体的・対話的な子供の姿を明確にした上で、検証改善のサイクルを即時的・効率的に回すことができるように、Check(評価)→Action(改善)→Plan(計画)→Do(実行)のCAPDのサイクルで組織を運営している。

## 課題解決のために子供が決める ～誰と学ぶか 何を学ぶか～

F小学校〈児童数：621名〉

### R7全国学調で見られた成果

知識及び技能の習得  
思考力、判断力、表現力等の育成

・記述式全8問中6問で全国を上回っている。国語3三(2)(国語の最終問題)の正答率は70.5%で、全国比+14.2%。

学びに向かう力、人間性の涵養  
(特に、「学びを調整する力」)

・児童質問は、多くの項目で最も肯定的な回答「1」の割合が高い。  
・(16)は全国比+19.5%、(36)は全国比+18.8%であった。分からないときに学び方を考えたり、見直して次の学習につなげたりできていると実感できている児童の割合が多い。

## 主体的・協働的に学ぶ子供を育てる ～自分で決めて自分で行う学び～

- ・問題解決までの過程を共有する導入場面の工夫  
全ての子供が自己選択できるように、考え方、解決方法、表現方法の選択肢を共有
- ・自分の考えをもつための多様な学びの場の設定  
自力解決の後、自分の考えをもつために学ぶ相手として自分、友達、先生から選択



一人でやってみる



先生に尋ねて学ぶ



友達と一緒に学ぶ

#表す活動

## 読解力の向上 ～チャレンジタイム(15分間帯学習)～

- ・学力向上部が中心となり、各種学力調査問題をもとに、解きごたえのある問題(情報量の多い問題、記述式の問題等)への取り組み方をスモールステップで指導する。
- ・時間内で解きごたえのある問題を解決できるよう鍛える。

#ICT活用

#学力層・個

## 自分で計画する ～家庭学習の取組～

- 学年に応じた計画的な学習の取組

例1:学習課題メニューを参考に取り組み  
自主学習

(何をするか決める)

例2:週末、学習計画表に次週の家庭学習の計画を記入する。

(いつ、どのくらいするか決める)

#家庭学習

## 組織的に学力向上の取組を推進する工夫

- 各担当同士の密な連携と役割分担  
チャレンジタイム等は学力向上推進委員会、授業づくりに関する研修は研究主任が担当している。また、主幹教諭、学力向上CO、研究主任が連携しながら、研修等を推進している。  
例えば、学力向上に関する夏季校内研修を行ったときも、①授業観の転換(研究主任)、②学力調査の結果分析(主幹教諭)、③今後の各学年における授業づくり(学力向上CO)というように内容に合わせて、各担当者が役割分担をして研修を進めた。

## 子供の「知りたい」を実現する

G中学校〈生徒数：517名〉

### R7全国学調で見られた成果

知識及び技能の習得  
思考力、判断力、表現力等の育成

- ・国語、数学ともにA、B層が全国と比べて多い。
- ・数学はA、B層合わせて約7割で、標準化得点（全国100）は131.9であり、全国と比べて正答率が20%以上高い問題が4問ある（うち記述式は2問）。

学びに向かう力、人間性の涵養  
（特に、「学びを調整する力」）

- ・生徒質問は、7項目全て全国を上回っている。
- ・（35）は1と回答した生徒45.9%（全国比+10.8%）。話し合う活動を通じて、自分の学びが深まっていると実感している生徒が多い。

### 自らから考え、学びを深める ～鍵は「問い」～

- ・単元の導入では・・・

子供が解決したくなる「問い」をもてる工夫をする。

例：知的好奇心を高める問題の提示、既習事項とのズレを生む比較活動の設定

- ・対話活動では・・・

解決したい「問い」があるから、友達と話し合う必然性がある。

そして、新たな「問い」を生む。

「問い」の内容や子供の思いによって、ペア学習やジグソー学習を設定

#ICT活用

#表す活動



### 自らの学びを 振り返る ～ぐんぐんシート～

①	教科	内容	②	教科	内容
③	教科	内容	④	教科	内容
⑤	教科	内容	⑥	教科	内容

- ・年度当初に学力向上部が生徒対象のガイダンス及び教員対象の校内研修を実施。取組の意義や取り組み方について、全校で共通理解する。
- ・その日に行われた授業について、1日の終わりに振り返って記述する。
- ・日々の点検は、担任外も含めて行うことで、取組状況を学年部で把握、共有している。

#表す活動

### ワクワクする学び ～探究学習 G中タイム～

- STEAM教育の視点に立った探究学習を総合的な学習の時間で実施
  - ・「未来」「発明」「調査」「創造」というキーワードから生徒がテーマを設定する。
  - ・課題解決の見通しまで教師と一緒に考え、追究する。
  - ・班内発表、学級発表会、全体発表会といった機会を通じて、多様な視点に触れることができるようにしている。

#表す活動

#学力層・個

### 組織的に学力向上の取組を推進する工夫

- 生徒の実態や学校評価の結果を生かしながら検証改善

生徒評価、保護者評価、職員自己評価は、年2回（7月と12月）同時期に行い、次のサイクルの学力向上の取組に生かしている。学力向上部会では、学力向上プランの進捗状況や、ぐんぐんシートのよりよい形式はどのようなものか等を協議しながら各種取組の方向付けをしている。

R7全国学調で見られた成果

知識及び技能の習得  
思考力、判断力、表現力等の育成

- ・国、数のD層や理のIRTバンドIの生徒の割合が全国と比べて少ない。
- ・記述式全11問のうち、10問で全国を上回っている。

学びに向かう力、人間性の涵養  
(特に、「学びを調整する力」)

- ・生徒質問において、(15) 幸せな気持ちを感じている生徒の割合が高い。
- ・7項目全て肯定的回答が全国を上回っている。
- ・(32)は1と回答した生徒が39.0%(全国比+15.6%)であり、課題解決に向けて自分から取り組んでいると実感している生徒の割合が高い。

主体的に学びに向かう力を育む ～「学びたい！」を引き出す導入～

- ・課題把握の段階における、「あれ?どうしてだろう。」「今日は、…を解決したい。」といった思いを引き出す学習対象との出合わせ方の工夫や課題解決への意欲を喚起する支援を行う。
- ・課題解決の段階における、解決の見通しをもたせた上で生徒に学習の進め方を委ねる時間を設定する。

課題把握

- 既習と矛盾する事象の提示
- 既習・生活経験の想起
- 学習ログの活用促進 等

課題解決

- 着目する視点、考え方の想起、活用促進
- 思考ツールの提示
- 自他の考えの可視化

教師の支援例(一部抜粋)

#表す活動

粘り強さを育む

～定期考査前の放課後自己選択学習～

- ・放課後に、定期考査に向けて学習の進め方を生徒が自己選択・自己決定しながら、課題の解決に粘り強く取り組むことができるようにするために、各教科担当が対応する質問ブース(教室)を設定する。

#学力層・個

#家庭学習

自信を育む

～イブニングスタディ～

- ・大学生ボランティアを活用した放課後の高校入試対策を2月まで毎週開催する。
- ・対象教科は数学、英語とする。
- ・3年生を対象に、週に2回(同じ講座)を開催し(一日行けなくても、別日の方に参加可能)、高校入試の過去問題を解く。

#学力層・個

#家庭学習

組織的に学力向上の取組を推進する工夫

○ 主体性・創造性を生かし、協働性を生み出す組織運営

学校全体で行う学力向上の取組の方向性は研究部で示すが、具体的な授業づくりについては、教科等の特性に応じて、各授業者が主体的・創造的に取り組み、取組についての情報を共有することで、教師も自己肯定感を感じながら協働的に取組を推進することができるようにしている。

また、同一町内においても、各学校の主体性・創造性を大切にした授業づくりに取り組んでいる。

## 個に応じた目標にチャレンジ！

I中学校〈生徒数：130名〉

### R7全国学調で見られた成果

知識及び技能の習得  
思考力、判断力、表現力等の育成

- ・国、数ともにD層の生徒の割合は全国より低い。理科におけるIRTバンド1、2の生徒の割合は21.4%で全国(31.5%)と比べて低い。
- ・記述式全12問のうち、9問で全国を上回っている。特に、数学においては、記述式5問すべて全国を上回った。

学びに向かう力、人間性の涵養  
(特に、「学びを調整する力」)

- ・生徒質問では、(32)は1と回答した生徒が35.7%(全国比+12.3%)であり、課題解決に向けて自分から取り組んでいると実感している生徒の割合が高い。
- ・(38)先生は分かるまで教えてくれると回答した生徒の割合が高い。

## 主体的な学習の調整 ～生徒ルーブリックの作成・活用～

### ○ ルーブリックとは

- ・縦軸に学習の到達度を示す数レベル程度の尺度、横軸に評価規準、交差するセルにそれぞれのレベルに対応するパフォーマンスの特徴を示した記述からなる評価基準表。
- ・生徒が自らの学習の状況を把握し、主体的に学習を調整しながら個別最適な学習を進めることができるようにするための、学習場面に応じた生徒ルーブリックを作成し、活用することで、生徒の学びと評価の一体化を図る。

評価項目		知識及び技能	思考力、判断力、表現力
評価規準	評価標準	正の数と負の数の意味を理解し、四則計算をすることができる。	算数で学習した内容と関連付けて、正の数と負の数の四則計算の方法を考えたり、日常の具体的な場面で活用したりすることができる。
	A	正の数と負の数の数とどのような数なのかの記述があり、四則計算について計算方法の具体例を示しながら記述することができる。	算数で学習した内容と比較して四則計算の方法をまとめた記述をしたり、日常の具体的な場面でどのように活用したのか記述したりすることができる。
	B	正の数と負の数の数とどのような数なのかの記述があり、四則計算について計算方法を記述することができる。	正の数と負の数の四則計算の方法をどのように考えたか記述したり、日常の具体的な場面で活用した例を記述したりすることができる。
判断基準	C	Bの基準に至っていない。	Bの基準に至っていない。

生徒ルーブリックの例(一部抜粋)

#表す活動

## 個の変容を見とる ～個の変容シート～

- ①定期的に実施している実力テストの結果について、生徒一人一人の結果の変容が分かる表を作成する。
- ②学年の学習指導やキャリア教育等の取組、生徒の背景等に注目して、変容の要因を分析する。
- ③大きな変容があった生徒について、その生徒の状況等を全職員で共有し、個別の支援に活用する。

#学力層・個

## 達成感の感得 ～挑む場の設定～

- ・英検、数検、漢検、歴検等、各種検定の受検奨励。
- ・ボキャ検という英語の語彙力に関する検定、しぐさ検定というコミュニケーション能力やマナーに関する検定等、I中学校独自の検定を実施。
- ・全校で表彰する場も設定する。

#学力層・個

#家庭学習

## 組織的に学力向上の取組を推進する工夫

### ○ 方向性の共有と授業者の創意工夫の尊重

職員の主体性や創造性を促し、実情に即した対応が可能になるように、生徒ルーブリックの作成等、学力向上に関する取組について、研究推進委員会が中心となって方向性を示すが、生徒ルーブリックの型や方法等は授業者の創意工夫に委ね、ボトムアップ型で実践を積み重ねている。

# 「今の自分」を 「未来の自分」につなげる

J中学校〈生徒数：109名〉

## R7全国学調で見られた成果

知識及び技能の習得  
思考力、判断力、表現力等の育成

- ・国語、数学ともにA、B層あわせて6割程度であり、全国と比べて多い。
- ・記述式全11問のうち、10問で全国を上回っている。中でも、国語1四、国語4二、数学6(2)、数学8(2)は20%以上全国を上回っている。

学びに向かう力、人間性の涵養  
(特に、「学びを調整する力」)

- ・生徒質問では、(35)において肯定的回答100%である(「1」42.3%、「2」57.7%)。話し合う活動を通じて、自分の学びが深まっていると実感している生徒が多い。

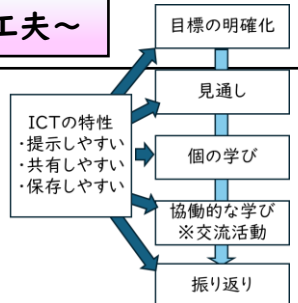
## 提示・共有・保存 ～ICTの特性を最大限に取り入れた学習の工夫～

### ○ ICTの特性

見せて考える(提示)、一緒に考える(共有)、  
残して考える(保存)

### ○ 基本的な学習の流れ

- ・本時のゴールに向かうために、**ICTの特性を最大限に生かす**。
- ①既習との変化を見せて、それを根拠に自分の考えを書く。
- ②自分の考えを他者に伝えやすいように、情報を修正しながら一緒に考える。
- ③他者の表現を残し、加筆して自分の考えを再構築する。
- ④他者の学びを生かしながら、自らの学びを振り返る。



#ICT活用

#表す活動

## 夢につなげる ～ドリームノート～

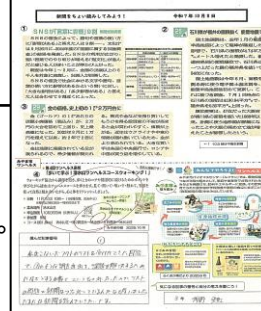
### ○ 夢を実現するドリームノート

平成30年度から始めた自主学習ノート「ドリームノート」を核とし、**授業と家庭学習と将来の目標をつなぐキャリア教育を推進**

- ・帰りの会に「ドリームタイム」を設定し、生徒会が放送している。夢を共有し、応援し合う仲間づくりを促進する。 #表す活動
- ・その日の学習内容を振り返る(1分間)。
- ・ドリームノートに、その日の授業から2教科を自分で選び、**学んだことが自分の夢にどのようにつながるかを書く**。 #家庭学習

## 社会を知る ～ちよい読み～

- ・毎朝、10分間の朝読書の時間を設定し、読書の習慣化を図る。
- ・水曜日は、「ちよい読み(新聞読書)」に取り組み、**時事問題や世界の情勢に興味をもたせている**。
- ・5つの新聞記事を掲載したプリントを配付。生徒はそこから「気になる記事」を1つ選び、その記事についての自分の考えを書く。 #表す活動



## 組織的に学力向上の取組を推進する工夫

### ○ ドリームノートとちよい読みを関連づけた組織的取組

生徒のドリームノートの内容を把握するとともにその傾向を分析し、それにつながるちよい読みを設定できるように、新聞の話題や情報を収集し、厳選する。**校長、教頭、学力向上Co、研究主任、ICT担当に学校司書も加えて、より新鮮で有益な情報を提供**できるようにしている。

## 自己調整学習で学力向上

K中学校〈生徒数：238名〉

### R7全国学調で見られた成果

知識及び技能の習得  
思考力、判断力、表現力等の育成

- ・同一学年経年比較において、標準化得点が12.5ポイント向上し、同一生徒経年比較において、標準化得点が1.4ポイント向上している。
- ・理科においては、IRTバンド1、2の割合が少ない。記述式の問題において、数学5問中3問、理科2問中2問で全国を上回っている。

学びに向かう力、人間性の涵養  
(特に、「学びを調整する力」)

- ・生徒質問では、(36)(37)で肯定的回答の割合が全国を上回っている。振り返りを次の学びに生かすことができていると感じている生徒が多い。

### 課題と振り返りをつなぐ ～単元シートの活用～

#表す活動

#学力層・個

- ・「単元のめあて」、「単元の総時数」や「各授業における学習内容」を示した単元シートを、単元のはじめに配布し、単元の学習の見通しがもてるよう促す。
- ・単元シートを活用した学習における基本的な流れは、下のとおりである。生徒は毎時間、「**自身が解決したい単元の課題**」を踏まえて単元シートに振り返りを書く。

ステップ	生徒の活動内容
① 単元のはじめ	・単元のめあてと学習内容を理解する。 ・自身が解決したい単元の課題を設定する。
② 各授業のはじめ	・本時の学習内容を確認する。
③ 各授業の終わり	・本時の学習の振り返りを行う。
④ 単元の終末	・単元の学習の振り返りを行う。

3年生 理科 単元シート

3年 組 番号 名前

単元名 金属樹ができるしくみを説明しよう

自身が解決したい単元の課題

時	授業内容	振り返り	学力層
①	【課題1】金属樹がなぜできるのかを説明しよう。 【授業内容】金属樹のしくみを説明しよう。 【振り返り】金属樹のしくみを説明しよう。	振り返り	
②	【課題2】金属樹のしくみを説明しよう。 【授業内容】金属樹のしくみを説明しよう。 【振り返り】金属樹のしくみを説明しよう。	振り返り	
③	【課題3】金属樹のしくみを説明しよう。 【授業内容】金属樹のしくみを説明しよう。 【振り返り】金属樹のしくみを説明しよう。		
④	【課題4】金属樹のしくみを説明しよう。 【授業内容】金属樹のしくみを説明しよう。 【振り返り】金属樹のしくみを説明しよう。		
⑤	【課題5】金属樹のしくみを説明しよう。 【授業内容】金属樹のしくみを説明しよう。 【振り返り】金属樹のしくみを説明しよう。		

### 目標と成果の自覚 ～朝チャレ～

- ・各曜日において5教科を実施する。
- ・学期のはじめに、**個人記録表**(一人一台端末に配信)に**目標平均正答率**と**意気込み**を入力する。
- ・練習問題に取り組んだ後、正答率を表に入力する。
- ・学期末に、振り返りを記入する。

#ICT活用

### プロセスで鍛える ～3大コンクール～

- ・年3回実施する。  
(1学期は数学、2学期は国語、3学期は英語)
- ・次のような**プロセス**で進める。  
①お試しテストの実施  
②個人・学級**目標点の設定** ③練習  
④プレテスト ⑤**目標の再設定**  
⑥練習 ⑦本テスト ⑧振り返り

### 組織的に学力向上の取組を推進する工夫

○「学力向上検証・研究推進委員会」での毎月の点検実施

どの月に、どの担当者が、何を提案するのかが示された年間計画をレジュメに示している。それをもとに、先月の取組の振り返りや、今後の取組に関する協議を行い、進捗状況等を共有している。

R7全国学調で見られた成果

知識及び技能の習得  
思考力、判断力、表現力等の育成

- ・同一学年経年比較において、標準化得点3.6ポイント向上している。
- ・数学において、標準化得点(全国100)は104.2であり、記述式5問中4問で正答率が全国を上回っている。

学びに向かう力、人間性の涵養  
(特に、「学びを調整する力」)

- ・生徒質問では、(36)(37)で肯定的回答の割合が全国を上回っている。
- ・(37)は肯定的回答が85.1%だった。学んだことを次の学びに生かすことができていると感じている生徒が多い。

課題解決を通してアウトプット ～クラウド活用による学び合いの充実～

○ 生徒に委ねる時間を十分に確保するために、クラウドを効果的に活用。

- ・ 見通しをもつ活動  
クラウドに授業の流れを提示する。
- ・ 考えを伝え合う活動  
クラウドで**共有・閲覧・参照**し、他者の考えと比較できるようにする。
- ・ 振り返る活動  
クラウドに**保存・蓄積**していく。

#ICT活用

#表す活動

批判的思考の育成 ～生成AIの活用～

- ・ ガイド付き学習機能モード設定による生成AIを活用する。「答え」ではなく、「ヒント」が出力されるように設定して、学習者が自己決定できるようにする。
- ・ 教科によっては単元、題材ごとのポータルサイトを作成している。

#表す活動

#ICT活用



自己選択の支援

～学校HPに学習支援サイトを掲載～

- ・ 「自分で学べる動画集」や「学びのあるサイト」等、豊富なコンテンツを学校ホームページに掲載している。
- ・ 到達度テスト実施前に、学習eポータル+AI型教材の生徒一人一人の習熟度に合わせて最適な問題を出題するアダプティブラーニング教材を活用する。

#ICT活用

#学力層・個

組織的に学力向上の取組を推進する工夫

○ 互いの授業を参観し学び合う職員集団、生成AIの活用

授業観を転換したスタイルの授業をモデルで示す。参観者は自分の実践に取り入れて、授業を公開する。互いに公開し合うことで、ともに授業改善を進めていく職員集団になっている。また、生徒のテスト結果や振り返りの内容をもとに、生成AIを活用し、生徒のつまづきの傾向を整理・共有する取組を試行している。

## IX 結果返却の早期化に伴う工夫事例

### 1 結果返却の早期化について

令和7年度全国学力・学習状況調査では、児童生徒の学びへの還元を最優先に学校への結果返却の時期が早期化された。(R6 7/26→R7 7/14)  
そこで、この趣旨を踏まえた対応の工夫事例を紹介する。

### 2 工夫事例～結果返却～

#### 夏季休業前に、個人票を配付

<具体的な工夫>

- ・ 通知表ファイルに入れて配付

通知表と一緒に保護者の方に調査結果を見てもらえますね。ファイルに入れておくと、通知表を渡す時期ごとに見直すこともできます。そして、個人票を入れるための封筒の準備等が不要になり、封入作業が簡易になりますね。



- ・ 国立教育政策研究所のURL及び二次元バーコードを掲載した保護者宛て文書とともに配付

保護者が簡単に調査問題にアクセスできることで、子供が解いた問題を知ったり、そのことで子供と調査問題のことや夏季休業中に取り組みたいことについて家庭で会話するきっかけにもなりますね。



#### 返却直後の学校通信で結果を発信

本年度も7月14日以降に様々な報道機関で全国学力・学習状況調査の結果のことが報じられました。結果の概要について発信することは、保護者や地域からの「自分の学校のことについて知りたい」という求めに速やかに応じることにもなります。

また、調査に関する結果とともに、家庭学習に関する質問調査の回答状況も示されていました。これなら家庭でできることを保護者が考える際の参考になります。夏季休業に入る機会に、家庭での生活・学習習慣をあらためて見直すことを啓発する効果がありますね。



#### 返却に係る指導の流れを教育委員会が提示

- ・ 小学校における「授業での返却」版
- ・ 中学校における「三者面談での返却」版

管内の学校で返却の時期や返却の仕方に大きなずれを生まないことや、若年教員等の経験が浅い教員も安心して対応できることが期待できますね。



### 3 工夫事例～研修の改善～

#### 研修時期の改善

○ 昨年度まで、調査結果に基づく校内研修は、結果返却（R6が7/26）後に学力コーディネーターを中心として結果分析を行い、夏季休業後半以降に実施する校内研修に向けて準備を行っていた。今年度は、結果返却（7/14）後に準備をしたことで、校内研修を夏季休業前半に行った。

早期に成果と課題や学校全体で取り組むこと等を共通理解することで、先生方が夏季休業中に、9月以降の準備をいつするか、何をするのか、どのようなことを大切に行うか等について、見通しをもってタイムマネジメントができますね。



#### 研修内容の充実

○ 昨年度まで、学校の調査結果をもとに、学校全体及び各学年で取り組むことを協議する研修を行っていた。今年度はそれに加えて、個の状況を把握し、今後の支援の方向性を検討した。

このような見方で、他の学力調査等の結果を分析・活用することで、確かな実態把握に基づいた個別最適な学びの展開が期待できますね。



### 4 参考 令和7年度全国学力・学習状況調査における調査結果の公表及び結果返却のスケジュール

日時	公表内容	結果返却
7月14日（月） 10:00	結果公表①:全国的な実施状況 （正答率・IRTバンド分布などの全国平均）	・学校向け各種帳票 ・児童生徒の個人票
7月22日（火）	—	・教育委員会向け帳票
7月31日（木） 17:00	結果公表②:全国データに基づく分析結果 ・結果（概要） ・結果（概要）のポイント ・報告書	—
9月30日（火） 17:00	結果公表③:都道府県・指定都市別データ ・分布や習熟度に目配りしたグラフ（箱ひげ図、層分布） ・都道府県・指定都市別結果チャート ・都道府県（指定都市を含む）の散布図 ・都道府県・指定都市別ノート ・調査結果資料【都道府県・指定都市別】	—

次年度の学力向上に関するPDCAサイクルの計画立案の際に御確認ください。特に、夏季休業前や夏季休業中にできることについて、本年度のうちに、本年度のメンバーで、本章の工夫事例も参考にしながら検討し、次年度に向けて年間計画を見直しておくといいですね。



## × まとめと今後の取組



全国学力・学習状況調査及び福岡県学力・学習状況調査の結果から福岡県の傾向として、次のようなことが明らかになりました。

### ○ 国語科では、主に次の点に課題があることがわかりました。

- ・ 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けること
- ・ 読み手の立場に立って、語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えること

### ○ 算数・数学科では、主に次の点に課題があることがわかりました。

- ・ 数直線上で1の目盛りに着目し、分数を単位分数の幾つ分として捉えること
- ・ ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明すること

### ○ 理科では、主に次の点に課題があることがわかりました。

- ・ 顕微鏡を操作し、適切な像にするための技能
- ・ スケッチに関する知識及び技能

### ○ 児童生徒質問調査では、教科別調査との関わりを含め、主に次の点がわかりました。

- ・ 「粘り強く挑む力」「自己有用感・自己効力感」「協働する力」については、肯定的回答をした児童生徒の割合が多く、多くの項目で8割を超えており、全国平均を上回っている項目もみられた。「学びを調整する力」については、年々改善傾向が見られるが、多くの項目で全国平均を下回っている。
- ・ 課題の解決に向けて自分から取り組んだと感じている児童生徒ほど、教科に関する調査の正答率が高かった。また、中学校においては、学校外での学習時間が「2時間以上3時間未満」と回答した生徒の正答率が高い傾向にある。

成果を上げている学校への取材を通して、それらの学校には次のような共通点がありました。



### ○ 目的を共有している

- ・ 授業及び授業以外の様々な取組について、職員間で「何をするか」だけではなく、「なぜするのか」「どのような子どもの姿につながるか」を共有している。

### ○ 取組を日常的に振り返っている

- ・ 日常的に取組の進捗状況を見とり、小さな改善をしながら進めている。
- ・ 研修や会議(学力向上推進委員会や研究推進委員会)の場だけではなく、職員室での会話等で、授業づくりのことや授業での子供の姿がたびたび話題になっている。

### ○ 教職員の主体性が尊重・発揮されている

- ・ 共有した目的の実現に向けて、取組は徹底する。しかし、方法や形式等はある程度委ねて、多様な実践の創出を促すとともに、その実践の中からよりよい方法や形式等を模索し続けている。
- ・ 学年部や教科部の考えや、児童生徒の実態に応じて、変えたり工夫したりできる幅がある。

### ○ 人的資源の積極的な活用

- ・ 総合的な学習の時間や丸付けボランティアなど、外部人材を活用した教育活動を旺盛に展開しており、人とかかわる学習活動により、より高い目的・相手意識をもった主体的な学びを促進しているとともに、多様な他者から称賛される機会を生み出している。



各種調査の結果に基づく課題や協力校等の取組の成果から、  
今後は、次のような視点で学力向上方策に取り組んでいきましょう。

**主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善**を進めていきましょう。そのために、次のことを大切にしていきましょう。

○ **子供の主体性を引き出す授業デザイン**

分析結果からは、「課題の解決に向けて自分で考え、自分から取り組むこと」については、教科に関する結果の全てにおいて高い相関が見られました。このことは、主体的に取り組む姿勢が学習全般に通じる土台であることを意味します。また、深い教材研究と丁寧な実態把握に基づいて授業を構想していくことについては、これからも大切にしていきましょう。

○ **成功体験を実感できる場の設定と失敗できる環境づくり**

「なぜだろう」「解決したい」という初発の思考から始まった課題について、「自分で考えて取り組んだらうまくいった」という成功体験を授業で味わうことができるようにしましょう。そのために、失敗に寛容な集団づくりを重視しましょう。その積み重ねは、自己効力感、自己肯定感の高まりにつながります。

○ **対話と承認の仕組みづくり**

「なるほど」「それっていいね」というような友達からの承認や、子供に関わる大人(教師や家族、地域の人等)による子供の学びのプロセスの称賛は、安心と自信を感じながら学べる環境づくりにつながります。

**ICTの効果的な活用**について、実践を蓄積していきましょう。

分析から、基本的なICT操作に関する自信は高いが、情報整理や思考ツールの活用には課題が見られました。また、発表やプレゼンテーションの経験も限定的であることが伺えました。思考の可視化、情報整理、発信、対話に活かすICTの活用をしていましょう。なお、ICTを使わない方が効果的だったという実践も、今後に向けた財産です。ぜひ財産を共有していましょう。

学校外での学びとして、**家庭学習の充実**を図っていきましょう。

ノートのページ数や取り組む時間といった「量」だけに着目するだけではなく、「質」と「学び方」も大切にしましょう。教師が課題を与える場合もあると思います。同時に、自分で決めた課題に取り組むことも必要です。主体的に課題に取り組むこと、かつ、学習方法等を自分で選択・調整することを繰り返し行うことで、学びを自分でマネジメントする力の向上が期待できます。

そのために、**授業と家庭学習をつなぐ**ことも考えてみましょう。家庭学習でやったことが、授業で生きた場面があることで、子供が目の前の課題に自然と取り組むことが期待できます。

**子供の姿を起点**として、その成長を**学校全体で支援する組織運営**を行っていきましょう。

検証改善サイクルを進めていく際は、数値による分析とあわせて、目指す子供の姿を言語化(「こんな子供だ」と言葉で表現)、視覚化(「こんな子供だ」という姿をイメージ)するとともに、「子供の変化」を可視化していましょう。

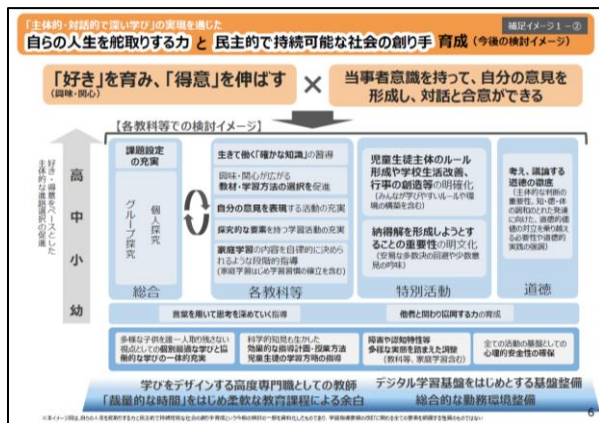
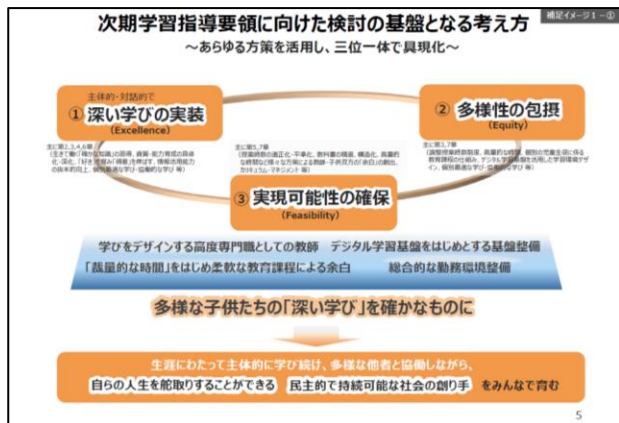
また、子供の声を基点とした授業改善サイクルの確立をさらに進めましょう。県内では、研究授業等において子供の発言や活動の様子などの反応を基に授業づくりの協議を行うこと等の実践に取り組んでいる学校があります。



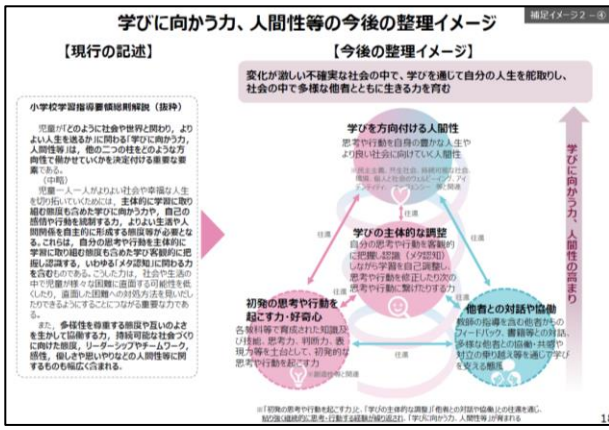
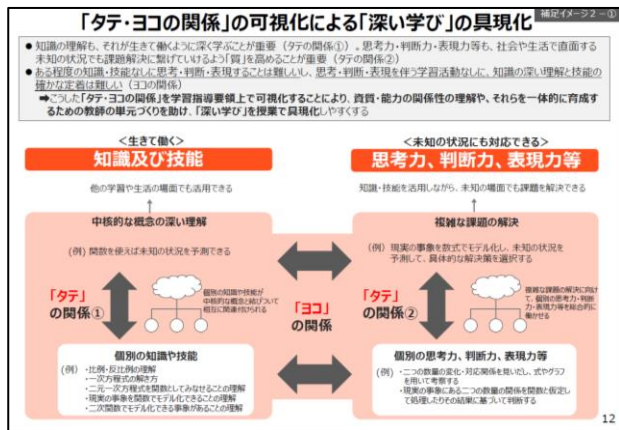


現在、次期学習指導要領に向けて、検討が進められています。  
以下は、「論点整理」の一部です。

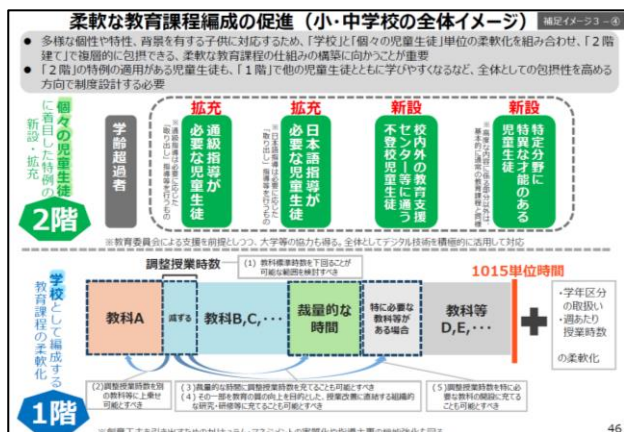
基盤となる考え方は…？



資質・能力の関係性は、どのように整理される…？



柔軟な教育課程とは…？



教育関係者が、可能な限り中央教育審議会での議論の過程を追い、これからの学びの在り方について理解を深めていくとともに、現在の教育課程の改善にも繋げることができるよう、会議資料や会議のアーカイブ動画が公開されています(動画リンクの取扱いについては、教育委員会及び学校限りです)。  
今後の教育の方向性を知り、今できる授業改善や学校経営につなげていきましょう。



福岡県教育委員会としても、資質・能力の育成を目指し、次のような施策によって各地域や学校を支援していきます。

## 「育成を目指す資質・能力」

### 知識及び技能

教科等の生きて働く知識・技能

思考力、判断力、表現力等

教科等の思考力・判断力・表現力

### 学びに向かう力

**学びを調整する力** 学習方略・メタ認知 等

**粘り強く挑む力** 自主性・自制心・勤勉性・忍耐性・持続性 等

### 非認知的能力

人間性

**自己有用感・自己効力感**

**協働する力** 共感性・協調性・貢献性 等



## 児童生徒が主語の学び

児童生徒自身による課題設定

自己選択・自己決定

ICTの効果的、効率的な活用

## 「教える」から「支える」へ

授業チェックリスト、授業評価アンケート

自己の学びを振り返る活動

児童生徒の学び合い



## 授業づくりを含む日常的な活動への支援

### ■授業改善の在り方を究明するモデル事業

- ・学力向上推進拠点校指定事業
- ・重点課題研究指定・委嘱事業

### ■授業や家庭学習に活用できる教材集、指導資料集の作成及び配信

- ・小4チャレンジ問題
- ・未来シリーズ教材集・指導資料集
- ・動画コンテンツ「Step to the Future」
- ・思考力・判断力・表現力等を問う定期考査問題

## 組織的な取組への支援

### ■非常勤講師を派遣して学力向上のシステムを構築する事業

- ・学力向上強化市町村指定事業
- ・クラスター非常勤講師派遣事業

### ■学力向上プランとロードマップの活用促進

- 教育課程実施・編成状況調査
- 鍛ほめプロジェクト推進事業

# XI 資料集

## 授業や家庭学習、自主学習等で 挑戦する問題 として

福岡県教育委員会作成 未来シリーズ



[https://gimu.fku.ed.jp/gakuryokukoujyou/mirai\\_series/](https://gimu.fku.ed.jp/gakuryokukoujyou/mirai_series/)

## <未来シリーズ>

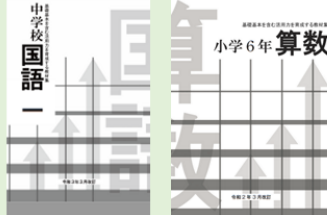
算数・数学 学習到達度  
診断シート  
～未来への一歩～

算数・数学学習到達度診断シート～未来への一歩～は、小学校1年生から中学校3年生まで、Vol1、Vol2のシートがあります。



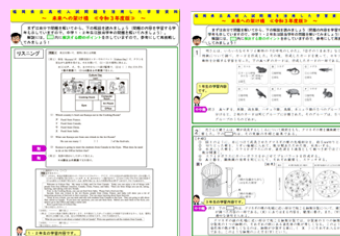
基礎基本を含む活用力を  
育成する教材集  
～未来への挑戦～

基礎基本を含む活用力を育成する教材集～未来への挑戦～は、小学校4年生から中学校3年生まで、国語、算数・数学があります。



福岡県立高校入試問題を  
活用した学習資料  
～未来への架け橋～

福岡県立高校入試問題を活用した学習資料～未来への架け橋～は、国語、数学、理科、社会、外国語があります。



動画コンテンツ「算数・数学」編  
～Step to the Future～を  
組み合わせて活用するとより効果的です。



チャレンジ問題



<https://gimu.fku.ed.jp/gakuryokukoujyou/challenge/>

令和7年度は「国語①」「国語②」「算数①」「算数②」をアップロードしています。  
小学校第4学年11月までの内容で構成しています。  
児童生徒用の解答(答え・ときかた)もご活用ください。

# 授業改善 のヒントに

## 外国語（英語）関連資料



<https://gimu.fku.ed.jp/gakuryokukoujyou/code/>

### 掲載コンテンツ

- 【言語活動821プロジェクト】（令和7年度版）令和5年度全国学力・学習状況調査（中学校英語）結果分析を受けた英語教育の改善の方向性について
- 【中学校外国語科（英語）】モデルとなる「思考力、判断力、表現力等を測るための問題」（「書くこと」「聞くこと」）
- 各種研修・授業等での活用に向けた外国語科（英語）関連資料分類例

## 授業改善のための動画シリーズ「授業をアップデート!!」

<https://gimu.fku.ed.jp/gakuryokukoujyou/update/>



## 全国学力調査及び県学力調査問題を活用した授業改善のための指導資料

[https://gimu.fku.ed.jp/gakuryokukoujyou/zenkokugakute\\_kengakute\\_sidousiryou/](https://gimu.fku.ed.jp/gakuryokukoujyou/zenkokugakute_kengakute_sidousiryou/)





## ※ Webページへの記載

本報告書は、以下のWebページで閲覧することができます。

### ① 福岡県庁ホームページ



URL : <https://www.pref.fukuoka.lg.jp/soshiki/2132105/>  
(トップページ→組織から探す→福岡県教育委員会→義務教育課→新着情報)



### ② 福岡県教育庁教育振興部 義務教育課各種資料のページ



URL : <https://gimu.fku.ed.jp>



学力向上 をクリック!

## 「学習者用コンテンツ」の活用による個別最適な学びの充実

### 個別最適な学びを充実させるポイント

#### 【取組前】

自身の課題や興味関心に応じてコンテンツを選択したり、学習時間を計画したりできるよう支援しましょう。

ミスをなくして、正確に計算できるようにしたいな。



ALTの先生と対話を続けられるようにしたいな。

#### 【取組中】

この動画を見て、もう一度計算方法を確認してごらん。



その問題が解けたら、次は〇〇の問題に挑戦すると、より力がつきますよ。

取組が目標達成や課題解決に向かうよう支援しましょう。

#### 【取組後】

努力や成長を自覚し、新たな挑戦への意欲を高めることができるようにしましょう。

繰り返し努力したから、計算が速く正確になりましたね。

次は、小数の計算にも取り組みたいな。



#### 【コンテンツの活用場面】

A: 朝の活動や家庭学習で B: 習熟度別少人数授業等で C: 単元末テストや定期考査後に D: 校内外の教育支援センター等での個別指導で

## 活用できる「学習者用コンテンツ」と活用例

コンテンツ名	教科・対象学年等	主な内容	アクセス方法
学習到達度診断シート 「未来への一步(CBT版)」	算数: 小学校3年~6年 数学: 中学校1年~3年	単元で学習する問題を難易度別に配列しています。 繰り返し活用することで、知識・技能の定着を図ることができます。	下記のURLにアクセスし、先生ご自身のGoogle「マイドライブ」にコピーを作成してご活用ください。 <a href="https://docs.google.com/spreadsheets/d/1sWbWAT-Lc2psZ_Zk21Zwio8qvTi7wEw8nRAF8jIQmg/edit?usp=sharing">https://docs.google.com/spreadsheets/d/1sWbWAT-Lc2psZ_Zk21Zwio8qvTi7wEw8nRAF8jIQmg/edit?usp=sharing</a> ※CBT版を活用する際には、Googleのアカウントが必要です。
Step to the Future 動画コンテンツ「算数・数学」編 ~ 10分の学び(テスタ) ~	算数: 小学校5年~6年 数学: 中学校1年~3年	算数・数学科で1単位時間の授業で学習する内容を10分程度にまとめた動画です。 効率的に学習内容を理解させることができます。	各種検索エンジンで「福岡県 義務教育課」と検索してみよう! YouTube で「福岡県 義務教育課」 クリック! 検索 福岡県 義務教育課 クリック! 検索 福岡県学習支援動画チャンネル
Step to the Future 動画コンテンツ「外国語」編 ~ Mental English Fukuoka ~	外国語: 中学校1年~3年	外国語科で1単位時間の授業で学習する内容を10分程度にまとめた動画です。 効率的に学習内容を理解させることができます。	福岡県学習支援動画チャンネル (小学1年生~中学3年生) Step to the Future ~10分の学び(テスタ)~ 福岡県学習支援動画チャンネル (中学1年生~中学3年生) Step to the Future ~10分の学び(テスタ)~ Mental English Fukuoka



## 創造・連携・発信

他者と協働し、新たな価値を生み出す

互いのよさを発揮する

双方向の交流を促進する